Endeavor

NA702

ユーザーズマニュアル

ご使用の前に

1 設置・準備

2 基本操作

3 装置の増設

4 BIOS設定

5 再インストール

6 困ったときに

付録

Windows Vista

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

⚠ 警告	
	煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターにご相談ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。
	電源は、交流100V以外では使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。
	異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターにご相談ください。
	破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターにご相談ください。
	電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
	電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。

警告

		本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱しないでください。 破裂などで火傷の原因となります。
		バッテリパックの端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。
		付属のACアダプタやバッテリパックの分解や改造をしないでください。 また、本機には、指定のACアダプタやバッテリパック以外は使用しないでください。 感電、火傷や、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解、改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）は、安全性や製品に関する保証はできません。
		小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。 なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
		バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
		バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。 発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。
		コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま本機を分解しないでください。 感電や火傷の原因となります。
		雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。
		航空機や病院など、使用を禁止された区域で本機の電源を切るか電波を停止してください。 電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
		植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合に、Bluetooth機能および無線LAN機能をご使用になるときは、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。 電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

警告

	医療機関の屋内でBluetooth機能および無線LAN機能をご使用になる場合は、次のことを守ってください。 ・手術室、集中治療室（ICU)、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。 ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。 ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。 ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。 ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
	自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合に、Bluetooth機能および無線LAN機能をご使用になるときは、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。
	Bluetooth機能および無線LAN機能をご使用になる場合は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

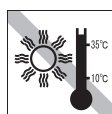
⚠ 注 意	
	小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
	本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。 ・じゅうたんや布団の上には設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
	連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き、コンピュータ本体からバッテリパックを取り外してください。
	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
	本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。 ・構内交換機（PBX） ・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど） ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック
	付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
	ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。 低温火傷の原因になります。
	ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。

⚠ 注 意

		破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
		ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
		長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
		メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。 作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
		液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。
		ひざの上で長時間使用しないでください。 本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
		パームレストやキーボードに長時間手を置かないでください。 パームレストやキーボードが熱くなることがあり、低温火傷のおそれがあります。
		光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
		本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。 液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。
次の注意事項は、特に指定のない限り、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破壊されることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

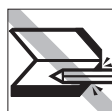
本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

本機を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

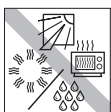
ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物（ボールペンなど）を挟んだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

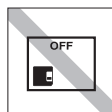
▶記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。
FD MC

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。
FD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。
CD

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。
CD

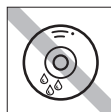
シールを貼らないでください。
CD

アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。
FD MC

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。
FD MC

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。
CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。
CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。
CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。
CD

無線LAN使用時における
セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

目　次

はじめに

使い始めるまでの準備

コンピュータの基本操作

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付録

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。

『　』

本書とは別のマニュアルを示します。
例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。

参照ページを示します。

1 2

操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。
はEnterキーを表します。また、N は N み のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

Ctrl ＋ Z

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディア
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

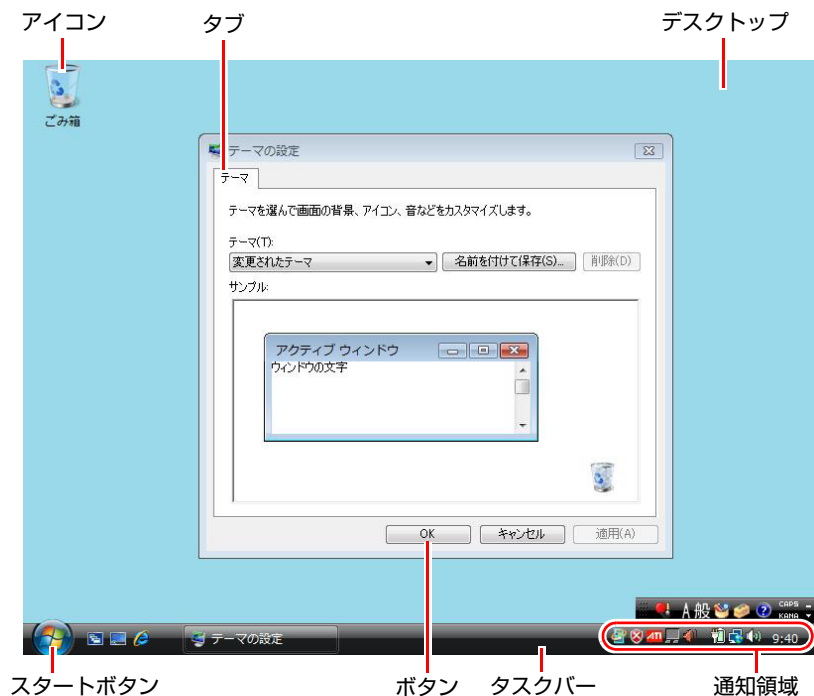
本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows Vista	Windows Vista™ Ultimate Windows Vista™ Business Windows Vista™ Home Premium Windows Vista™ Home Basic

HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1KB＝1000Byteとして記載しています。

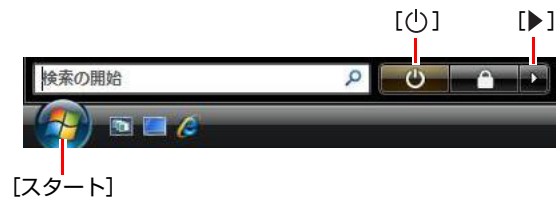
Windows Vistaの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows Vistaの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタンの記載方法

ボタンは［ ］で囲んで記載します。

例） OK ：［OK］

スタートメニューの記載方法

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。

Windows Vistaの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows Vistaの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

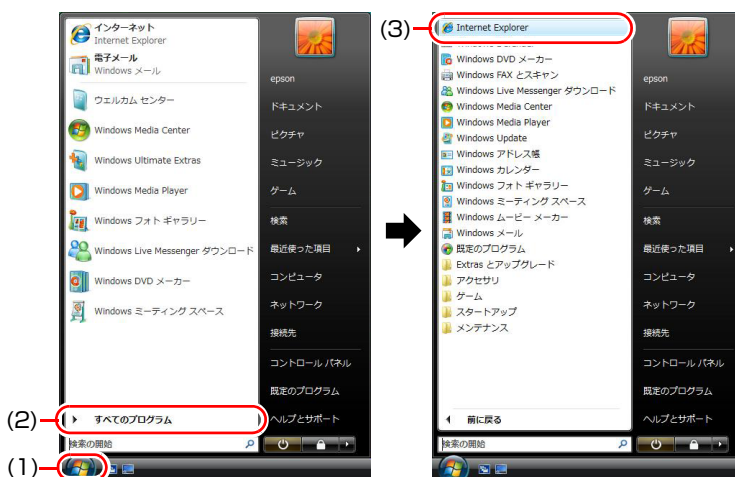
- 記載例

  [スタート] –「すべてのプログラム」–「Internet Explorer」をクリックします。

- 実際の操作

  (1) [スタート] をクリックします。

  (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

  (3) 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズについて

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様にあわせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアルについて

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、ユーザーズマニュアル（本書）とは別に、光ディスクドライブのマニュアルなどが添付されている場合があります。

下記のとおり、お使いになる仕様によって必要なマニュアルは、別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに登録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに登録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

ご使用の前に

▶コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認

まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。

 『梱包品の確認』

⬇

安全にお使いいただくために・製品保護上の注意

本機を正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。
必ずお読みください。

 p.2 「安全にお使いいただくために」

p.8 「製品保護上の注意」

⬇

マニュアル中の表記について

本書で使用している記号や用語の表記方法について確認します。

 p.18 「マニュアル中の表記について」

⬇

本製品の仕様とカスタマイズについて

本機の仕様とカスタマイズについて確認します。

 p.22 「本製品の仕様とカスタマイズについて」

⬇

ご使用の前に

本機を使用する前に必要な情報を確認します。

 p.24 「ご使用の前に」

⬇

各部の名称と働き

各部の名称と働きを確認します。

 p.29 「各部の名称と働き」

⬇

コンピュータの設置

各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

 p.35 「コンピュータの設置」

⬇

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

電源を入れ、Windowsをはじめて起動したときに実行される
Windowsのセットアップを行います。

p.40 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

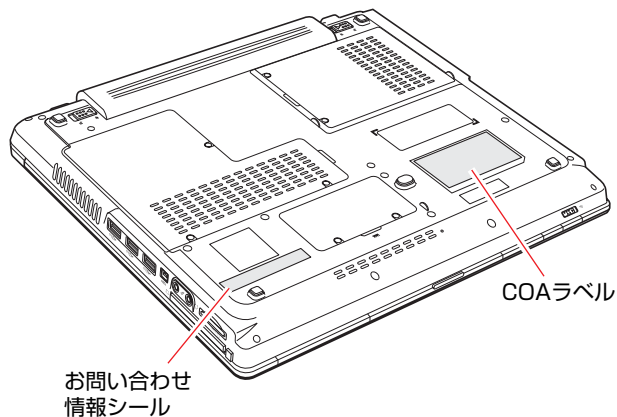
- お問い合わせ情報シール

  お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

  COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

  万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。

サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

本機の特長

- **CPU性能**

  インテルCore 2 Duoプロセッサ、またはインテルCeleron Mプロセッサを搭載しています。

- **メモリ容量**

  DDR2対応のSDRAMを装着して、最大1536MBまで増設が可能です。

- **表示装置**

  14.1型TFT XGA、または14.1型SXGA+液晶ディスプレイを搭載しています。外付けディスプレイにも接続できます。

- **省電力機能**

  省電力機能を搭載しています。

- **オペレーティングシステム**

  Windows Vistaをインストール済みです。

- **ネットワーク機能**
  - 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応のLANコネクタを装備しています。
  - IEEE802.11a/b/gに対応した無線LAN機能を搭載しています。（無線LAN搭載時のみ）

- **Bluetooth機能**

  Bluetooth機能を搭載しています。

- **指紋認証機能**

  指紋認証機能を搭載しています。

- **そのほか**
  - モデム機能、USB2.0機能、IEEE1394機能を搭載しています。
  - メモリカードスロットを装備しています。
  - PCカードスロットを装備しています。
  - セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を搭載しています。

添付されているソフトウェア

本機に添付のCD、DVDや、HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によって、登録されているソフトウェアは異なります。

表中記号の見方

	購入時には、HDDにインストールされています。
	購入時には、HDDにインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

Windows VistaリカバリDVDに登録されているソフトウェア

Windows VistaリカバリDVDはWindows Vistaを再インストールする際に使用します。

Windows VistaリカバリDVDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● Windows Vista 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	

リカバリツールCDに登録されているソフトウェア

リカバリツールCDはリカバリツールを再インストールする際に使用します。

リカバリツールCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● リカバリツール HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。	–

HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェア

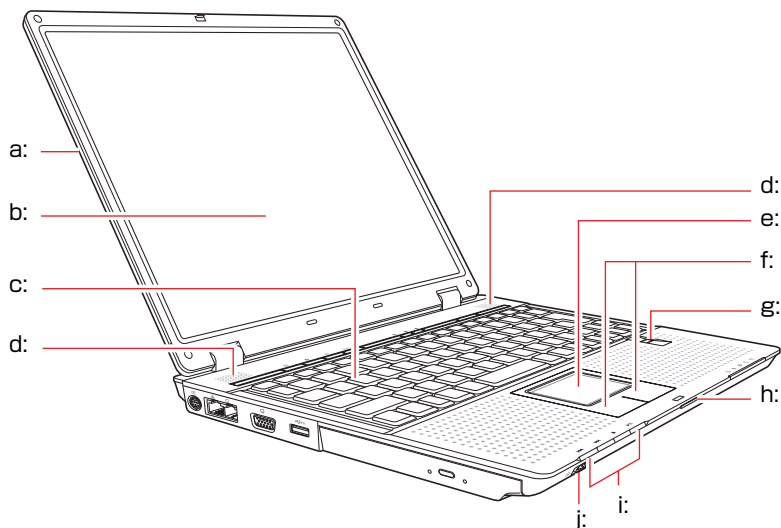
本体ドライバや本機で使用するソフトウェアは、HDDの「消去禁止領域」に登録されており、リカバリツールからインストールします。
書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載モデルの場合、リカバリツールを使用してHDDの「消去禁止領域」に登録されている本体ドライバやソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

p.250 「バックアップCDの作成方法」

HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェア	購入時の状態
● インテル945PMチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	

HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェア	購入時の状態
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	
● ネットワーク切替えツール ネットワークの設定を、接続先にあわせて切り替えるためのユーティリティです。	
● インスタントキードライバ Fn と組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。	
● 指紋認証ドライバ 指紋認証機能を使用するためのドライバです。	
● 指紋認証ユーティリティ 指紋認証機能の設定を行うためのユーティリティです。	
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺検出機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
● マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。	
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。	
● Nero 7 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ） 光ディスクドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。	
● WinDVD（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ） DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。	

各部の名称と働き

正面

a: LCDユニット
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

b: LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: キーボード
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

d: 内蔵スピーカ
警告音や音声などを鳴らします。

e: タッチパッド
指を軽く乗せて動作することにより、画面上のポインタを操作します。

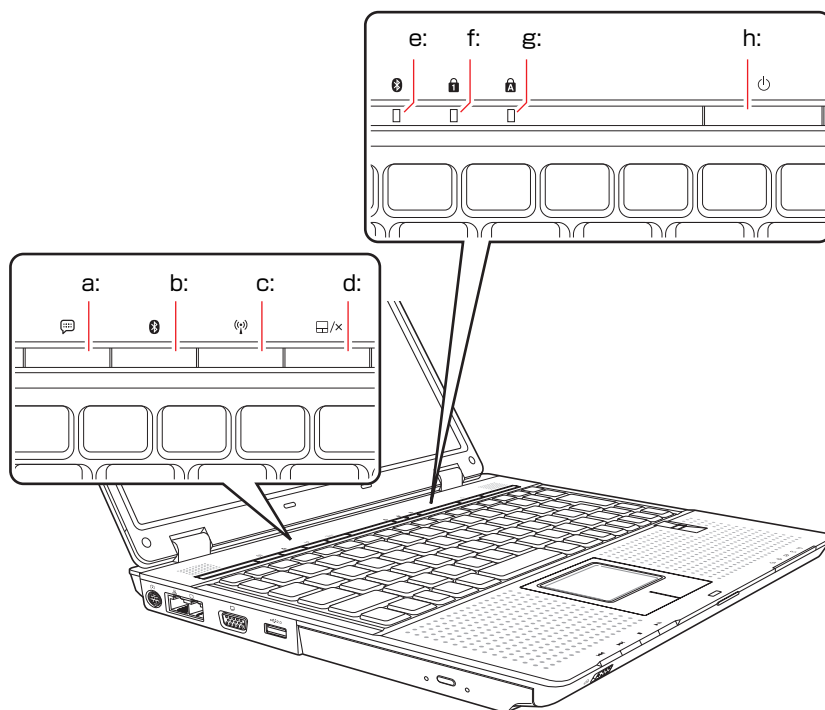
f: クリックボタン
マウスの左右のボタンに相当します。

g: 指紋センサー
指紋認証機能使用時に、指紋を読み取ります。

h: LCDラッチ
LCDユニットを開閉します。

i: 音楽CDコントロールボタン
音楽CD再生機能使用時に、音楽CDの再生などを操作します。

j: CD電源スイッチ
コンピュータの電源が切れた状態で、音楽CDを再生するための電源スイッチです。

インスタントキー /ステータス表示ランプ

a: インフォメーションキー
インフォメーションメニューを起動します。

b: Bluetoothキー
本機のBluetooth機能のON/OFFを切り替えます。

c: 無線LANキー ＜無線LAN搭載時のみ機能＞
本機の無線LANのON/OFFを切り替えます。

d: タッチパッドキー /×
タッチパッドの有効/無効を切り替えます。キーを押すたびに、有効/無効が切り替わります。

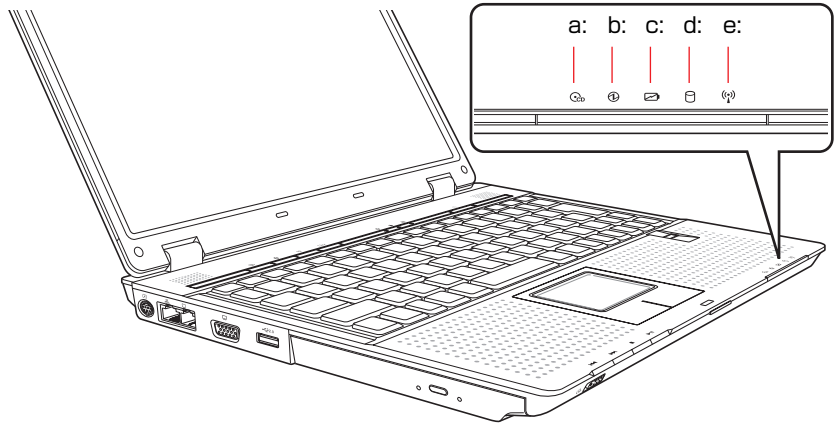
e: Bluetooth状態ランプ
Bluetoothの通信状態を示します。
青点灯：通信時
消　灯：非通信時

f: NumLockランプ
NumLockキーの設定状態を表示します。青色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

g: Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。青色に点灯しているときは、Shiftを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

h: 電源スイッチ
本機の電源を入れたり、本機を終了したりします。また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用できます。

1

ステータス表示ランプ

a: CDランプ
音楽CD再生機能使用時に、CD電源スイッチで電源を入れると点灯します。

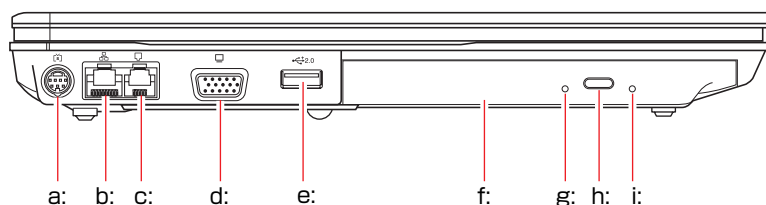
b: 電源ランプ
電源状態を示します。
青点灯：通常の状態
青点滅：スリープ状態
消　灯：電源切断時または休止状態

c: バッテリ充電ランプ
バッテリの充電状態を示します。
オレンジ点灯：充電中
消　灯：　満充電または電源切断時

d: HDDアクセスランプ
HDDアクセス中に青色に点滅します。

e: 無線LAN状態ランプ ＜無線LAN搭載時のみ機能＞
無線LANの通信状態を示します。
青点灯：通信時
消　灯：非通信時

HDD などのアクセスランプが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータを再起動しないでください。データが破壊されるおそれがあります。

▶左側面

a: S-ビデオ出力端子

テレビのS端子と接続して、コンピュータの画像を表示します。

b: LANコネクタ

LANケーブルを使用してネットワークと接続します。

c: モデムコネクタ

電話回線と接続します。

d: VGAコネクタ

液晶ディスプレイなど外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

e: USB2.0コネクタ 2.0

USB対応機器を接続します。

f: 光ディスクドライブ

光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行うことができます。

g: 光ディスクドライブアクセスランプ*

メディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

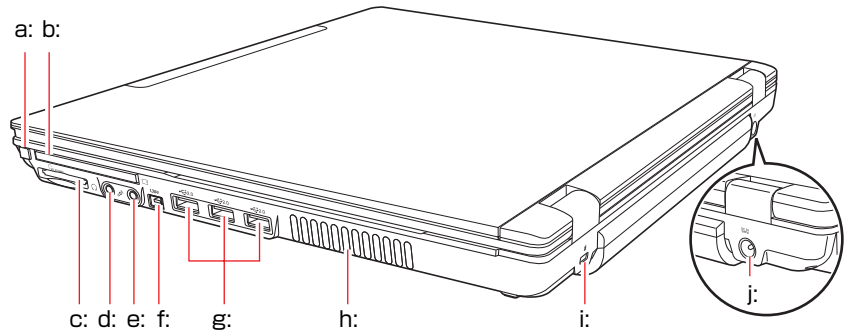
h: イジェクトボタン*

ディスクトレイを開けるときに押します。

i: イジェクトホール*

ディスクトレイが開かなくなったときに押すと、メディアを取り出すことができます。

* g、h、iの位置は、光ディスクドライブの種類によって異なります。

▶右側面・背面

a: PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

b: PCカードスロット
PC Card Standard規格準拠のPCカードをセットして使用します。

c: メモリカードスロット MMC.SD.MS-PRO
メモリカードをセットし、データの読み出しや書き込み、書き換えを行います。

d: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
スピーカ、ヘッドフォンなどを接続するほかにMDデッキなどのデジタルオーディオ機器を接続します。

e: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

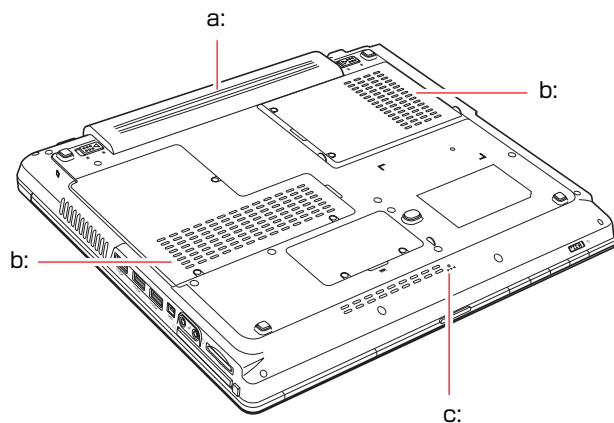
f: IEEE1394コネクタ（4ピン）1394
IEEE1394機器を接続します。

g: USB2.0コネクタ 2.0
USB対応機器を接続します。

h: 通風孔
コンピュータ内部に外気を取り入れます。

i: セキュリティロックスロット K
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を接続します（ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています）。

j: ACアダプタコネクタ DC IN
付属のACアダプタを接続します。

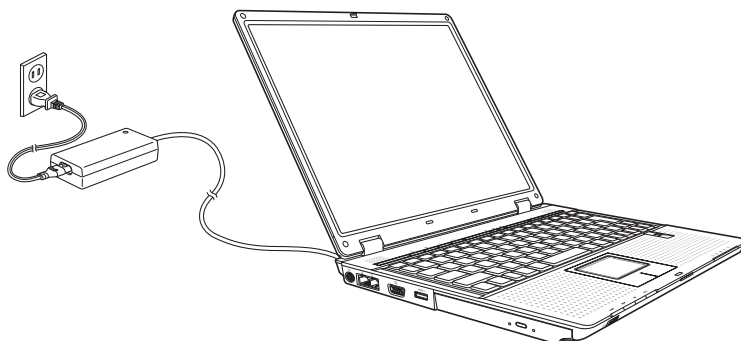
▶底面

a: **バッテリパック***
バッテリパックを装着して、本機を使用します。

b: **通風孔**
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

c: **リセットホール** ▶●◀
強制的にコンピュータの電源を切るときに使用します。

* 本書中の本機のイラストでは、バッテリパックに標準バッテリを搭載したモデルを使用しています。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。

設置における注意

- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

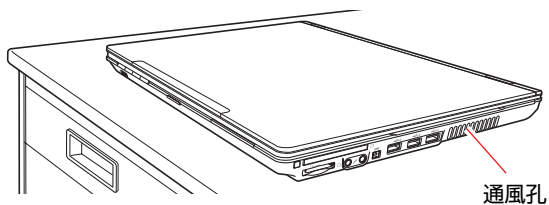
各種コードやバッテリパック装着時の注意

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

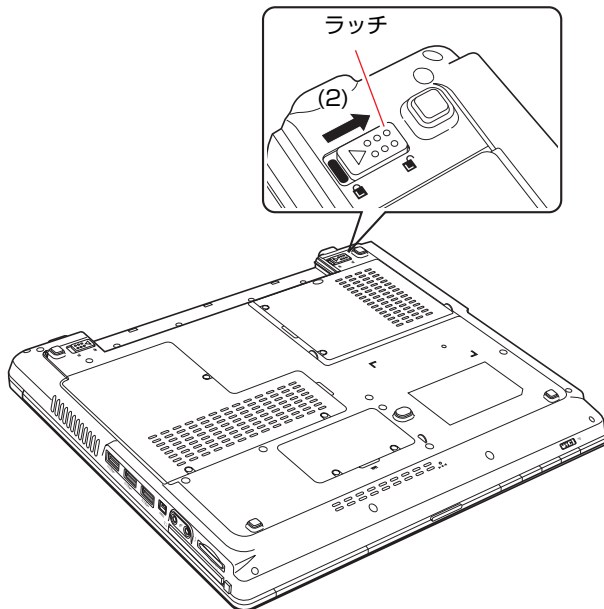
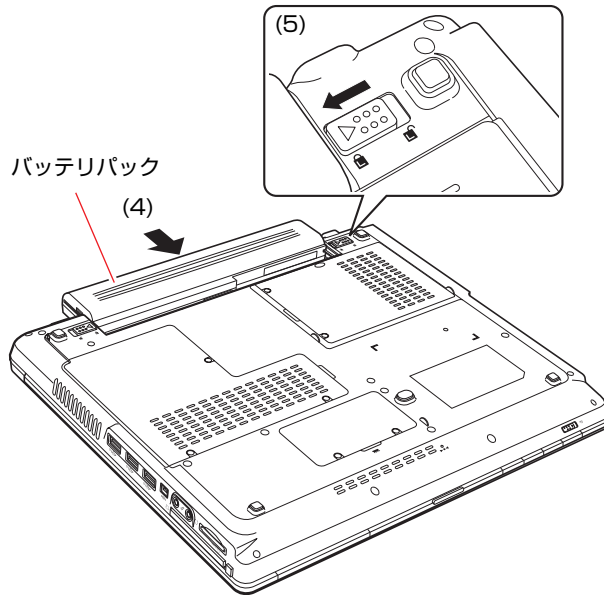
設置する

1 本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。

右側面の通風孔をふさがないようにしてください。

バッテリパックを装着する

ここでは、標準バッテリを装着する手順を説明します。長時間バッテリの場合、形状は異なりますが、手順は同様です。

2 バッテリパックを装着します。

(1) 本機の底面部を上にして置きます。
(2) 右側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。

(3) 下図のとおりバッテリパックを本機にあわせます。
(4) バッテリパックを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。
(5) 右側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。

本機はバッテリパックだけで使用できます。ただし、出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

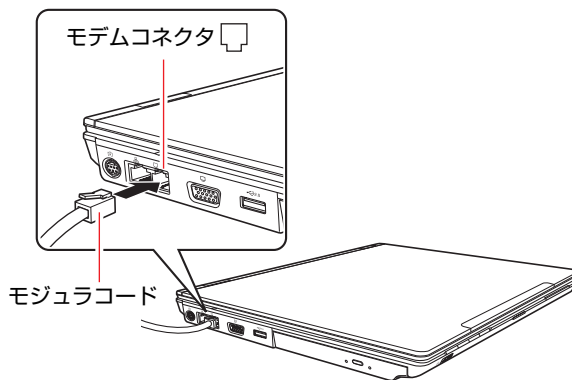
p.60 「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

電話回線に接続する

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。
- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

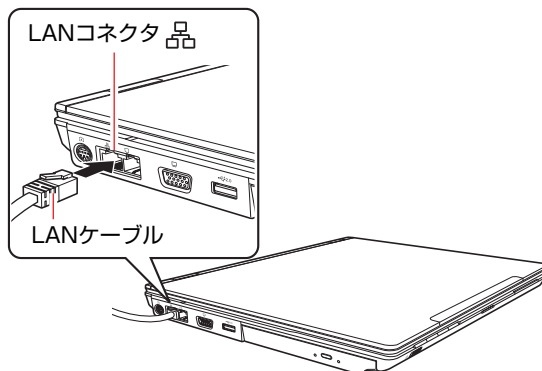
3 FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。

- 付属のモジュラコードをモデムコネクタ（ ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。

ネットワークへ接続する

4 ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルでネットワークと接続します。

市販のLANケーブルをLANコネクタ（ ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

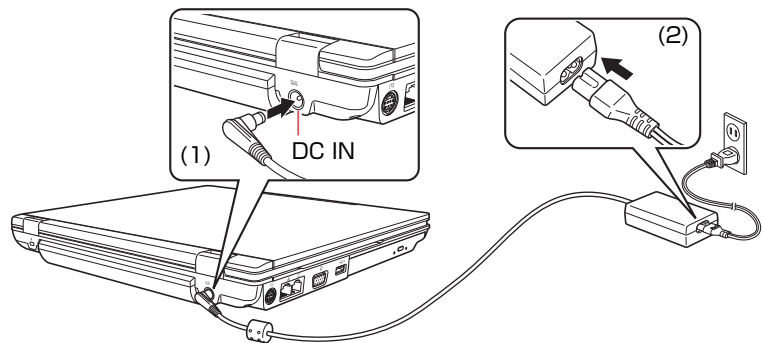
インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。

ACアダプタを接続する

通常は、ACアダプタを接続して使用します。

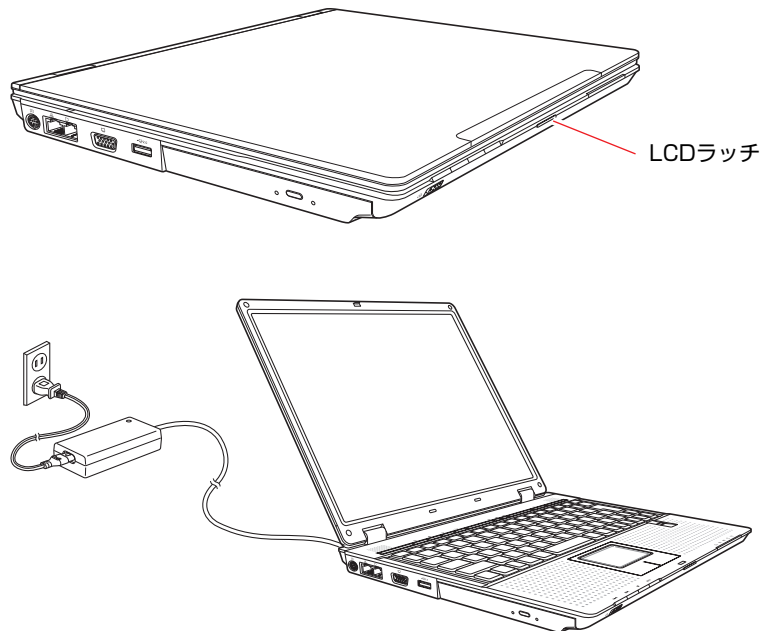
5 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

LCDユニットを開ける

6 前面のLCDラッチを奥に押して、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。

これでコンピュータの設置は終了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、コンピュータを購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

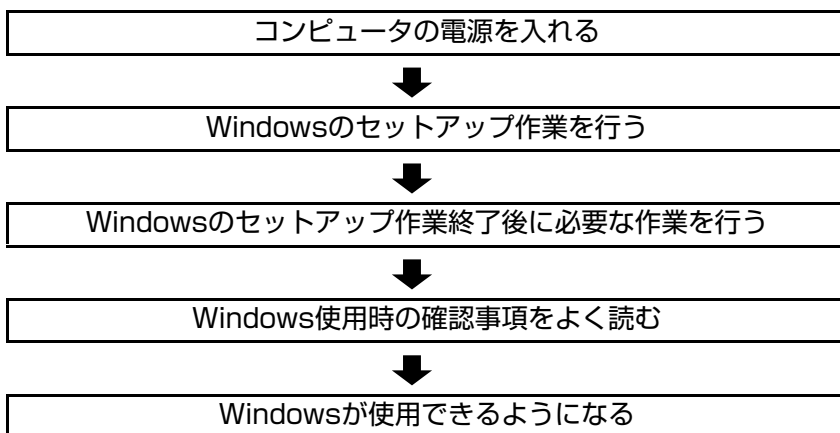
作業の流れは、次のとおりです。詳細は「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。

コンピュータの電源を入れる

Windowsのセットアップ作業を行う

Windowsのセットアップ作業終了後に必要な作業を行う

Windows使用時の確認事項をよく読む

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

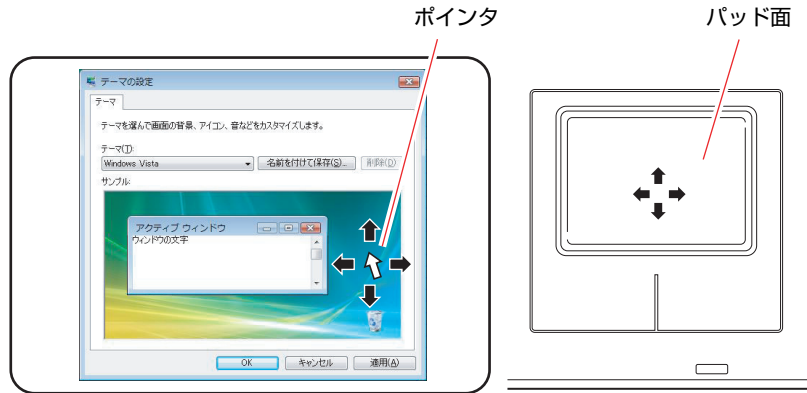
Windowsのセットアップ

「Windowsセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単にセットアップを行うことができます。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

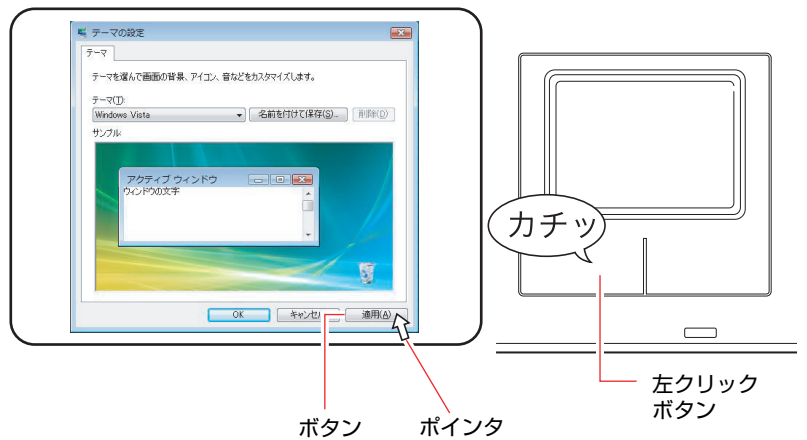
● ポインタを動かす

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● ボタンをクリックする

(1) 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

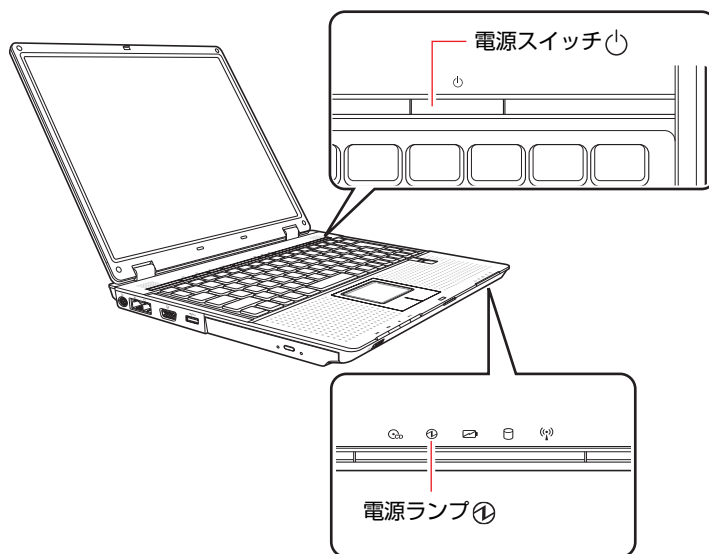
(2) 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

1　電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ（⏻）が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。

2　黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

次の調節をして画面を見やすくします。

●角度

LCDユニットを前後に動かします。

●画面の明るさ

Fn+F5（☀）：暗くなります。
Fn+F6（☼）：明るくなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

p.43 「Windowsのセットアップ」

Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な項目について記載しています。入力の際に参考にしてください。

● ユーザー名

セットアップ中に入力するユーザー名（アカウント）は管理者（Administrator）となります。

● パスワード

パスワードを設定すると、設定したユーザー名（アカウント）でログオン時にパスワードの入力が要求されます。
パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワーク（家庭内LANや社内LAN）に接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

- **ネットワークに接続しない場合**
  セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。
- **ネットワークに接続する場合**
  ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更します。

管理者（Administrator）について
管理者（Administrator）のアカウントでログオンすると、すべての機能にアクセスすることができます。本機の設定を変更するときやWindowsを再インストールする場合などには、管理者（Administrator）のアカウントでログオンし、作業を行います。

Windows Vistaのセットアップ

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows Vistaセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。
セットアップの流れは、次のとおりです。

Windowsのセットアップ

次のように表示されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
国または地域：日本
時刻と通貨の形式：日本語（日本）
キーボードレイアウト：Microsoft IME

ライセンス条項をお読みになってください

画面に表示された条項を確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

ユーザー名と画像の選択

ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像を選択したら、[次へ] をクリックします。
p.43「セットアップ中に入力する項目について」

コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください

コンピュータ名を入力し、背景を選択したら、[次へ] をクリックします。
p.43「セットアップ中に入力する項目について」

Windowsを自動的に保護するよう設定してください

保護の設定をクリックして選択します。
「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

時刻と日付の設定の確認

「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定して、[次へ] をクリックします。

お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください

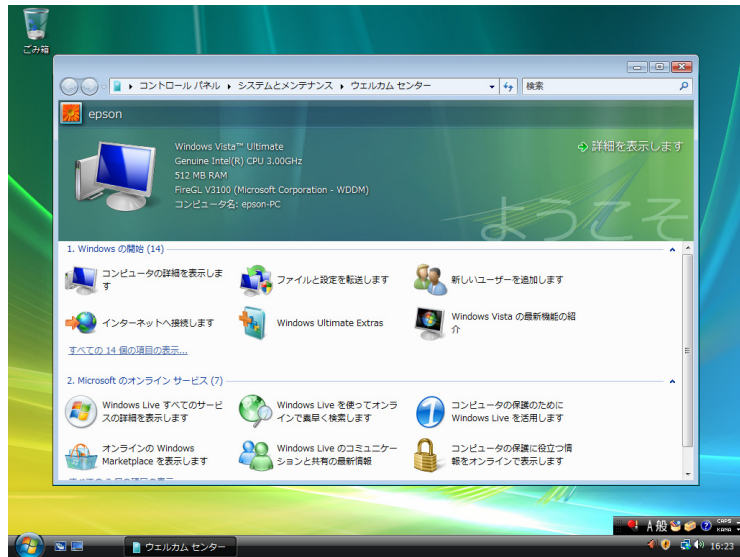
ネットワークに接続している場合、表示されます。
使用する場所を選択します。

ありがとうございます

[開始] をクリックします。デスクトップ画面が表示されるまで、約5分かかります。

デスクトップ画面の表示

Windows Vistaのデスクトップ画面が表示されます。

パスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力すると、デスクトップ画面が表示されます。

<壁紙は予告なく変更する場合があります>

これでWindows Vistaのセットアップは完了です。

続けて、p.46「セットアップ終了後の作業」を行います。

ライセンス認証について

購入時に本機にインストールされているWindows Vistaおよび「Windows Vistaリカバリ DVD」より再インストールを行ったWindows Vistaは、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセットアップが終了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。「初期設定ツール」は、本機を使用する前に必要な設定を行うためのツールです。画面に従って設定を行ってください。

セキュリティソフトウェアのインストール

購入時、本機にセキュリティソフトウェアはインストールされていません。セキュリティソフトウェアは、「初期設定ツール」の「セキュリティ設定」画面の指示に従ってインストールしてください。

＜通常の場合＞
通常は、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。インストール方法は、本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

＜セキュリティソフトウェアをオプション購入された場合＞
本機購入時にオプション選択でセキュリティソフトウェアの製品版を購入された場合は、「セキュリティ設定」画面で製品版を選択してインストールしてください。
セキュリティソフトウェアによっては、「初期設定ツール」からインストールができない場合があります。初期設定ツールの終了後、セキュリティソフトウェアのCDからインストールを行ってください。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）や、無線LAN機能（無線LAN搭載時のみ）を使用する場合は、ネットワーク接続に関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

p.132 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.135 「無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）」

FAXモデムの設定

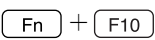
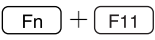
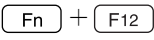
FAXモデムを使用してインターネットへ接続する場合は設定を行います。

p.144 「インターネットに接続するには」
p.155 「FAXモデムを使う」

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能をインストールすると、指紋を登録してパスワードの代わりに使用します。購入時には指紋認証ユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.210「指紋認証ユーティリティのインストール」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。
Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。
音量の調節は、次のキーを操作してください。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10 🔊/🔈	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除される。
Fn ＋ F11 ▼🔈	音量が小さくなる。
Fn ＋ F12 ▲🔊	音量が大きくなる。

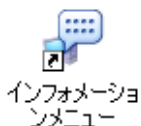
▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」は次の方法で起動します。

- インフォメーションキー を押す。
  p.79 「インスタントキー」

- デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックする。

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。

インフォメーションメニューの項目

「インフォメーションメニュー」には、次の6つの項目があります。

● マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブの取扱説明書、本機に添付されているソフトウェアのPDFマニュアルなどを画面上で見ることができます。

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、このコンピュータにアクセスする可能性のあるスクリプトやActiveXコントロールを実行しないよう・・・」と警告が表示される場合があります。
この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

コンピュータに関するちょっと便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.214 「トラブルが発生したら」

● ユーザーサポートページ（Web）
技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。
「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● サポート情報検索（Web）
「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。
「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● トラブルが解決しなかったら
技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、Windowsが起動できないなどの不具合を修復する機能です。
Windowsが起動できないときなどは実行してみてください。
p.242 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

復元ポイントを作成する

「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」機能を使用して、作成しておいた「復元ポイント」までシステムの状態を戻すことができます。
「復元ポイント」は通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。「復元ポイント」の作成方法は次をご覧ください。
p.241 「復元ポイントを手動で作成する」

セキュリティ対策を行う

コンピュータを外部と接続することで高まる危険から、コンピュータを守るための設定や確認を行います。
インターネットなどに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。
p.149 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

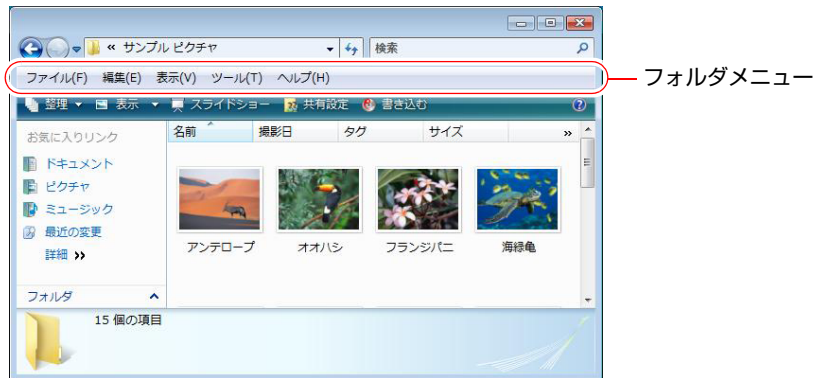
▶画面が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、コンピュータの電源ランプが点滅している場合は、「スリープ状態」になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すか、キーボードを操作すると元に戻ります。

p.165「省電力状態からの復帰方法」

▶フォルダメニューの表示

Windows Vistaでは、「ファイル」や「ツール」などのフォルダメニューが標準では表示されません。

フォルダメニューを表示したい場合は、Alt を押します。もう一度 Alt を押すと、フォルダメニューは表示されなくなります。

常にフォルダメニューを表示する

常にフォルダメニューが表示されるようにしたい場合は、次の設定をしてください。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「フォルダオプション」－「表示」タブ－「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」－「ユーザーアカウント」－「別のアカウントの管理」－「新しいアカウントの作成」

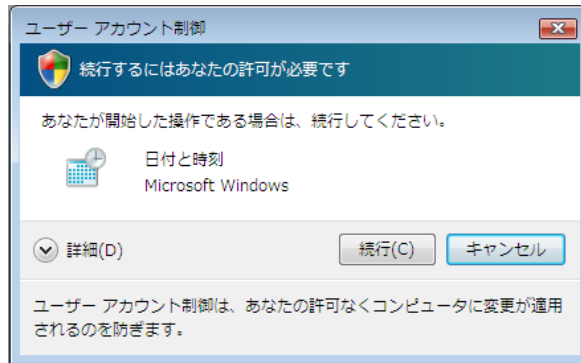
アカウント権限は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類には、次の2つがあります。

- **管理者**
  すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバ、ソフトウェアのインストールをすることができます。
  購入時やリカバリ時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。
- **標準ユーザー**
  一部のシステム項目の変更や、ドライバ、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようとすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。

表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、アカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでログオンした状態を前提に記載しています。

1

本機の終了方法

ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。
本機の終了方法には次の2つがあります。

● 通常の終了（スリープ）
通常は、本機を「スリープ状態」にして終了します。
p.54「通常の終了（スリープ）」
スリープ状態にすると、作業内容がメモリに保存され、画面表示が消えて本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。
スリープ状態についての詳しい説明は、p.162「省電力状態の種類」をご覧ください。

本機を使用するときは、必ずバッテリパックを装着してください。スリープ時、落雷などで電源が切れると、保存されていないデータは失われます。

● 電源を切る（シャットダウン）
次のような場合は、本機の電源を切って終了します。
p.55「電源を切る（シャットダウン）」
- 完全に電源を切りたいとき
- 数日使用しないとき
- 周辺機器、バッテリなどの取り付け、取り外しをするとき
- バッテリ残量が少なくなったとき

▶通常の終了（スリープ）

本機をスリープ状態にして終了する方法、スリープ状態から復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

1 **[スタート]（ ）－［⏻］をクリックします。**
本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプが点滅します。

ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- ［スタート］－［▶］－「スリープ」をクリックする
- 電源スイッチ（⏻）を押す
- Fn + F1（☾ᶻᶻ）を押す
- LCDユニットを閉じる

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。

制限

復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

1 電源スイッチ（⏻）を押します。

本機が通常状態に復帰します。
キーボードを操作しても復帰できます。

▶電源を切る（シャットダウン）

本機の電源の切り方、入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

制限

- 電源を入れなおす場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

1 ［スタート］－［▶］－「シャットダウン」をクリックします。

Windowsが終了し、自動的に本機の電源が切れます。

2 接続している周辺機器の電源を切ります。

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と表示されます。この場合は［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってからシャットダウンをしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

- 周辺機器の電源をいつ入れるか周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。
  電源を入れるタイミングがコンピュータより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続している場合は、外した状態で電源を入れてください。
  接続した状態で電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1　電源スイッチ（⏻）を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1　［スタート］ －［▶］ －「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れなおしてみてください。

ハングアップしたときは

アプリケーションやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップといいます。
ハングアップした場合は、アプリケーションの強制終了を行います。アプリケーションの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

アプリケーションの強制終了

アプリケーションの強制終了方法は、次のとおりです。

1 **Ctrl＋Alt＋Deleteを押します。**

2 **表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。**
「Windowsタスクマネージャ」が起動します。

3 **「アプリケーション」タブからハングアップしているアプリケーションを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

4 **「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

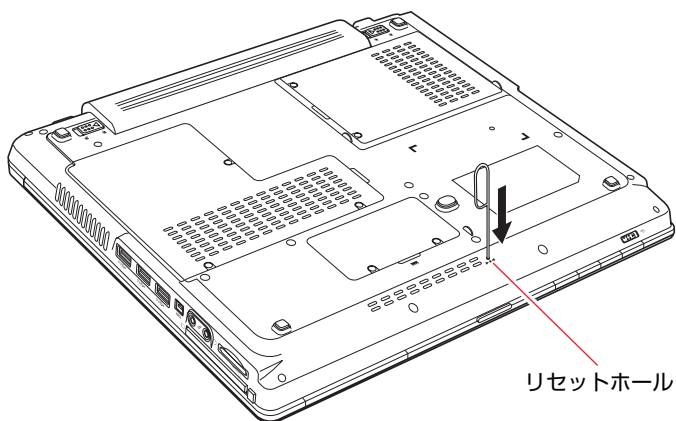
強制的に電源を切る

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

1 **コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続けます。**
これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホールでの強制終了

本機底面にあるリセットホールを使用して、本機を強制終了することもできます。リセットホールでの終了は、電源スイッチでの強制終了でも終了できない場合に使用してください。

1 **本機底面にあるリセットホール（▶●◀）の位置を確認し、リセットホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。**

第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。

- ACアダプタや、バッテリパックの分解や改造をしないでください。また、本機には、指定のACアダプタやバッテリパック以外は使用しないでください。感電、火傷や、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解、改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理を除く）は、安定性や製品に関する保証はできません。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

- 連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き、本機からバッテリパックを抜いてください。
- 付属の AC アダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

- ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着してください。スリープ時、落雷などで電源が切れると、保存されていないデータは失われます。
  p.162 「省電力状態の種類」
- 底面の通風孔をふさがないために、ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。
- バッテリパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。
- ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。
- AC アダプタを長時間接続して使用すると、AC アダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

ACアダプタの接続方法は、p.39 「ACアダプタを接続する」をご覧ください。

▶バッテリパック使用時の注意

バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。

次の注意事項を確認して、バッテリを正しくお使いください。

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力状態に入っているときも電力が消費されています。
  p.160「電源設定を行う（省電力機能を使う）」
- バッテリは本機の電源を切っていても自然放電によって電力が消費されています。長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリのみで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリは温度が10～30℃の環境で使用すると使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは性能が低下しています。10～30℃の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。
- バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリが急に終わって困らないようにバッテリ使用後は常に充電をすることをおすすめします。
  それでも正しく表示されない場合は、バッテリのリフレッシュを行ってください。
  p.66「バッテリのリフレッシュ方法」
- 本機の内部にホコリが入るのを防ぐために、ACアダプタを接続して使用するときも、バッテリパックはセットした状態で使用することをおすすめします。
- バッテリを長期間使用しないと、過放電になる可能性があります。過放電になると、バッテリ寿命が短くなったり、充電ができなくなったりします。過放電にならないように、予備のバッテリも含めて定期的に充電をしてください。少なくとも半年に1回、バッテリ容量の40パーセント程度の充電をすることをおすすめします。

バッテリの種類

本機で利用できるバッテリは、次の2種類です。

- 標準バッテリ
- 長時間バッテリ

バッテリを購入される場合は、当社のオプション一覧より専用のバッテリを選択してください。
バッテリのオプション一覧は、当社ホームページでご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
http://epsondirect.jp

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機のシステム構成、使用環境や状態などによって変化します。

バッテリの種類	使用可能時間（満充電の場合）＊
標準バッテリ	連続約4.1時間（インテルCore 2 Duo搭載時） 連続約3.0時間（インテルCeleron M搭載時）
長時間バッテリ	連続約6.5時間（インテルCore 2 Duo搭載時） 連続約5.5時間（インテルCeleron M搭載時）

＊JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと、電力消費を抑えて使用可能時間を延ばすことができます。

p.160 「電源設定を行う（省電力機能を使う）」

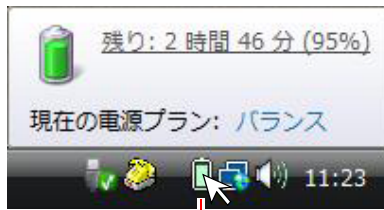
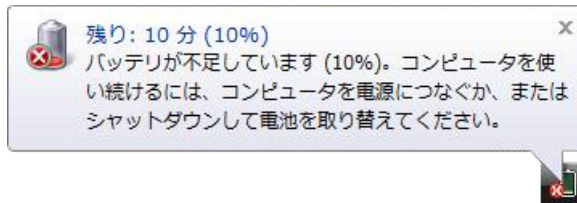
バッテリ残量の確認

バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。
p.66「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

通知領域の「バッテリ」アイコンの上にポインタをあわせると、バッテリ残量を確認することができます。

バッテリアイコン

バッテリ残量が少なくなったら

バッテリ低下の通知

バッテリ残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。

対処方法

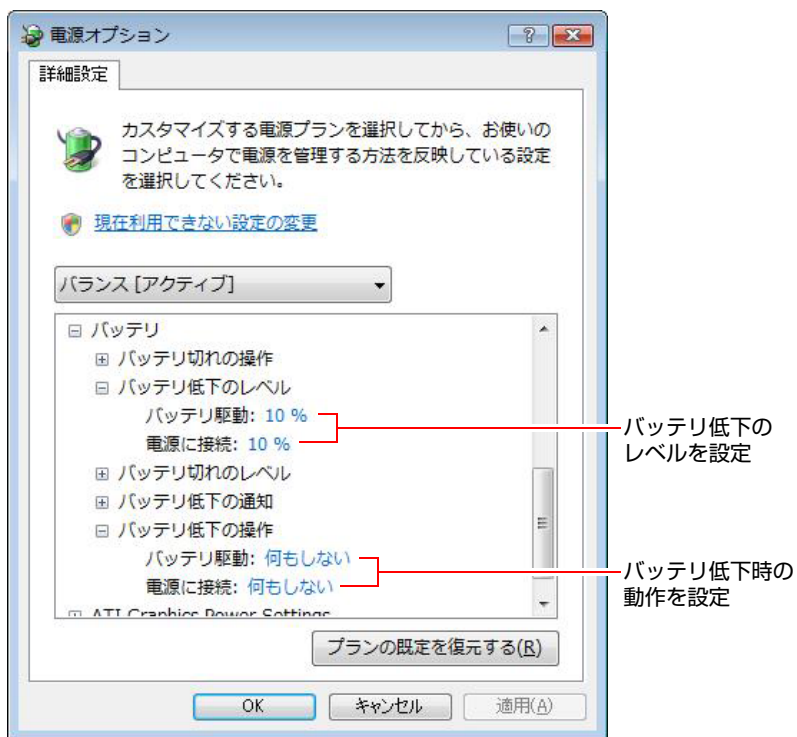
バッテリ低下の通知が表示されたら、すぐに次のいずれかの処置を行ってください。完全放電して電源が切断されてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

- **ACアダプタを接続する**
  電源が入ったままの状態で、ACアダプタを接続します。
- **電源を切る**
  作業中のデータをHDDなどに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

ACアダプタを接続しない場合は、すぐに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリ低下時の設定変更

バッテリ低下のレベルやバッテリ低下時の本機の動作は、変更することができます。変更は次の場所で行います。

通知領域の「バッテリ」アイコンを右クリック－「電源オプション」－選択している電源プランの「プラン設定の変更」－「詳細な電源設定の変更」－「バッテリ」

バッテリ低下のレベル設定

バッテリ残量が何%になったら「バッテリ低下」の通知をするかは、「バッテリ低下のレベル」で設定できます。初期値は10%に設定されています。

バッテリ低下時の動作設定

「バッテリ低下」になったときの本機の動作は、「バッテリ低下の操作」で設定できます。初期値は「何もしない」に設定されています。

▶バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（ ）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	オレンジ色点滅
充電中	オレンジ色点灯
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

バッテリの種類	コンピュータの動作状態	
	電源切断時	電源が入っている状態
標準バッテリ	約3.0時間	約3.0時間*
長時間バッテリ	約4.0時間	約4.0時間*

*コンピュータの使用状況により差があります。

温度条件について

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

温度が10～30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

▶バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、バッテリのリフレッシュを行ってみてください。

バッテリのリフレッシュ方法

バッテリのリフレッシュは、次の手順で行います。
バッテリのリフレッシュには数時間かかります。

1 **AC アダプタが接続されていることを確認します。**

2 **コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。**

p.179 「BIOS Setupユーティリティの起動」

3 **「Power」メニュー画面－「Start Battery Calibration」を選択し、[↵]を押すと「Battery Calibration Utility」が起動します。**

4 **画面のメッセージの最終行に「It is charging the battery, please wait」と表示されたら、バッテリの充電が開始されます。**

バッテリを完全に充電するには、標準バッテリでは最大約3.0時間、長時間バッテリでは最大約4.0時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押してコンピュータの電源を切ります。

5 **バッテリが完全に充電され、画面のメッセージの最終行に「Please remove AC adapter.」と表示されたら、AC アダプタを抜いてそのまま放置します。**

画面のメッセージの最終行に「PLEASE LEAVE THE BATTERY RUNNING OUT OF POWER.」と表示されて、バッテリの放電が開始されます。
バッテリを完全に放電するには、標準バッテリでは約2.5時間かかります。長時間バッテリでは、約2.9時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押してコンピュータの電源を切ります。

6 **バッテリの放電が完了すると、自動的に電源が切れます。**

これでバッテリのリフレッシュは終了です。
バッテリの充電をする場合は、AC アダプタを接続してください。

リフレッシュしても改善されないときは

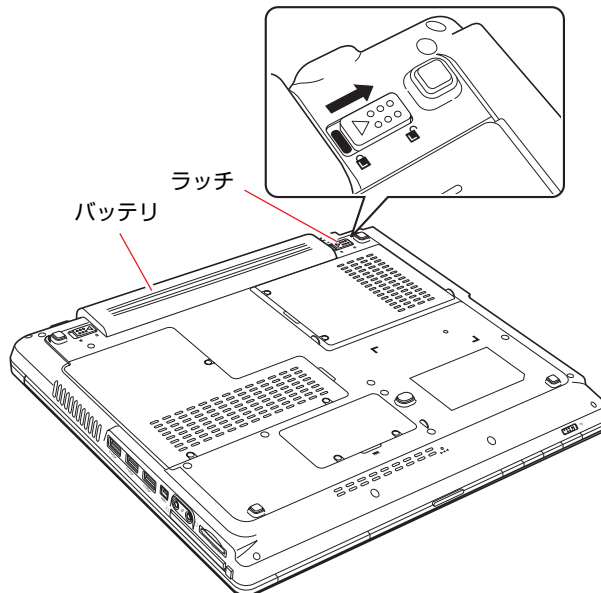
バッテリは、消耗品です。バッテリのリフレッシュを行っても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。当社純正の新しいバッテリに交換してください。

▶バッテリの交換

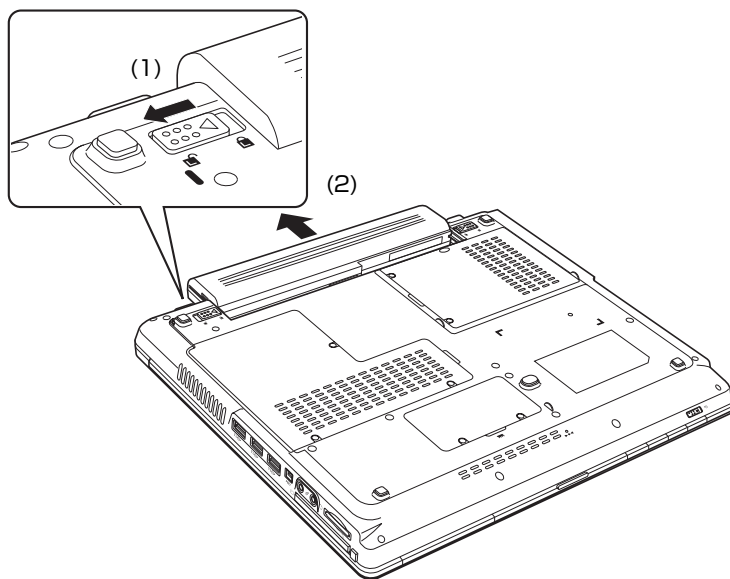
複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用バッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
　http://epsondirect.jp
長時間バッテリの場合、形状は異なりますが手順は同様です。

1 本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。

2 本機の底面部を上にして置きます。

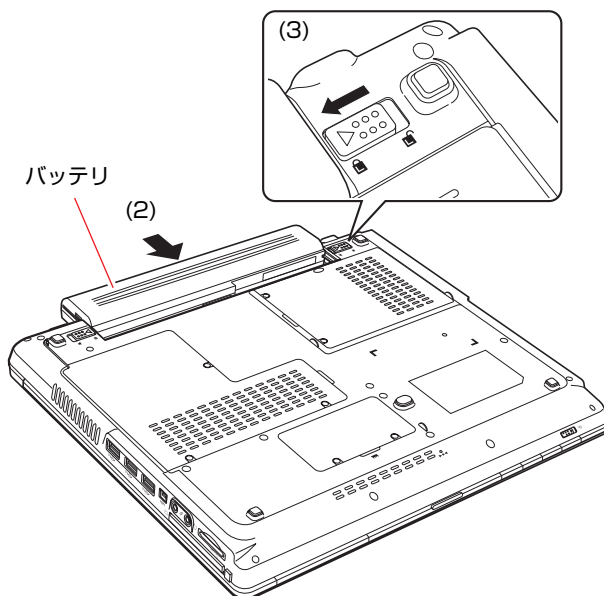
3 右側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。

4 **バッテリを取り外します。**

(1) 左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせ、指で押さえてロック解除位置（🔓）で固定します。

(2) バッテリを矢印の方向に押し出して取り外します。

5 **新しいバッテリを本機に取り付けます。**

(1) 下図のとおりバッテリを本機にあわせます。

(2) バッテリを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

(3) 右側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。

▶バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。
なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、バッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。
コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

▶使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。
不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

2

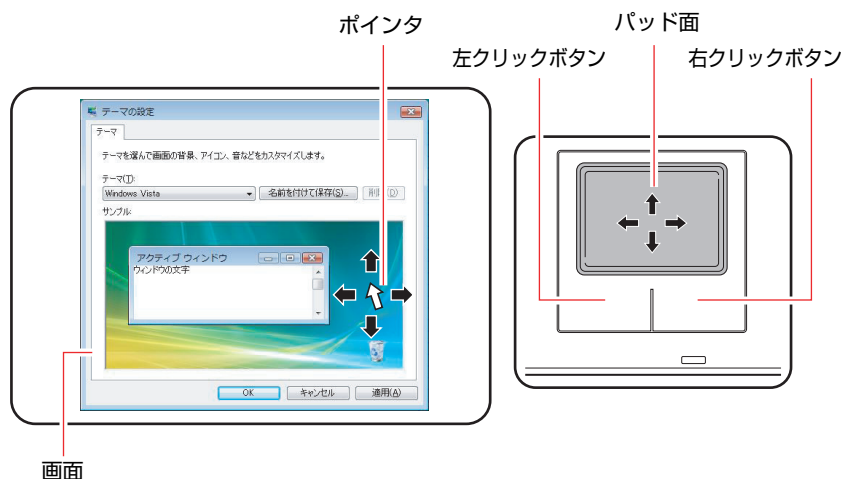
タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが装備されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

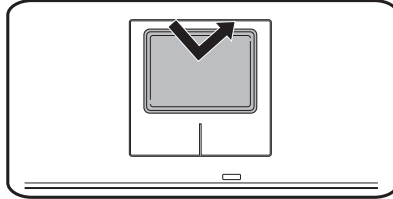
▶タッチパッドの操作

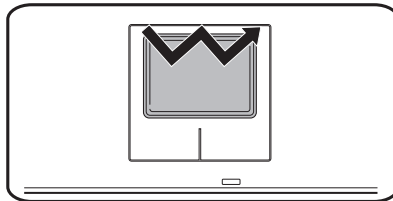
タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。
パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、左クリックボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

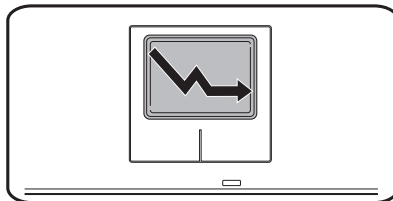
ポインタの移動

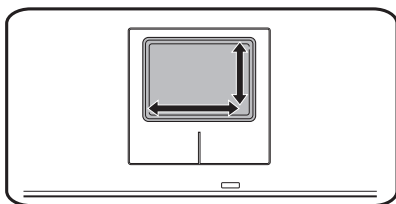
人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおしてみてください。
- 電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおしてみてください。

クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

スクロールバーのある画面を操作しているとき、パッド面で指を動かして画面をスクロールすることができます。
上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

▶タッチパッド機能を無効にする

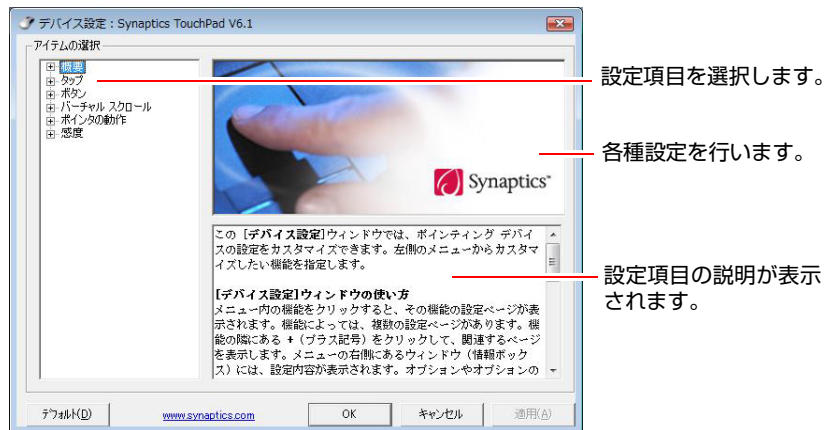
キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的に無効にすると便利です。
タッチパッド機能の有効・無効の切り替えは、タッチパッドキー（⊟/×）で行います。

p.79 「インスタントキー」

▶タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティの各種設定は、次の場所から実行します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「マウス」

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして、［設定］をクリックすると、次の画面が表示されます。

▶USBマウス（オプション）の接続

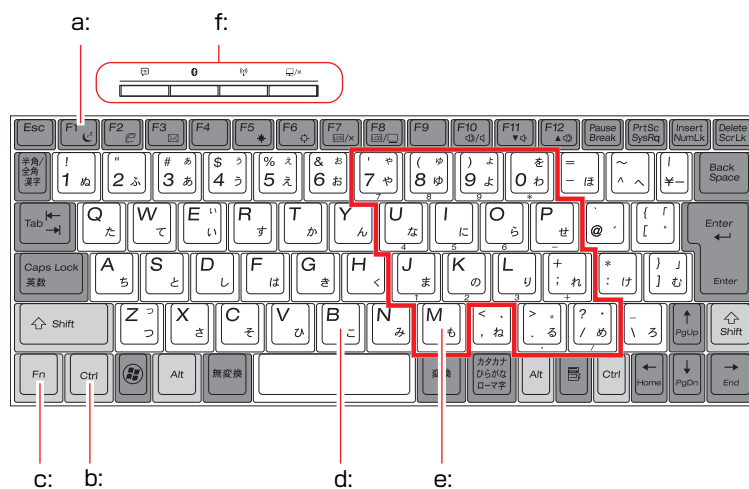
本機右側面および左側面のUSBコネクタ（●⇝2.0）にオプションのUSBマウスを接続して使うことができます。詳しくは、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機には、日本語対応87キーボードが標準で搭載されています。また、4個のインスタントキーも搭載しています。

▶キーの種類と役割

入力キー

87個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

a: **機能キー**
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: **制御キー**
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

c: **Fnキー**
制御キーの1つです。
キートップに青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.77「Fnキーと組み合わせて使うキー」

d: **文字キー**
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: **数値キー**
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字・演算子などを入力します。Fn ＋ Num Lk を押して数値キーと文字キーを切り替えます。

p.76「数値キー入力モード」

f: **インスタントキー**

p.79「インスタントキー」

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

a:　　b:　c:

a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　日本語入力の詳しい説明を見ることができます。

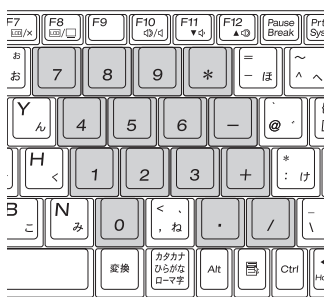
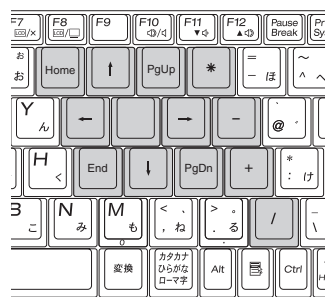
c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

Fn ＋ Num Lk を押すと、NumLockランプ（ ）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キー

Shift を押したとき

アルファベットの入力

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

Shift ＋ Caps Lock

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、Shift を押した状態でもう一度 Caps Lock を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ F1	本機を省電力状態（初期値：スリープ状態）にします。 p.161「本機を省電力状態にする」
Fn ＋ F2	Internet Explorerを起動します。
Fn ＋ F3	Windowsメールを起動します。
Fn ＋ F5	LCD画面を暗くします。 p.109「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F6	LCD画面を明るくします。 p.109「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F7　LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.110「バックライトの消灯」
Fn ＋ F8　LCD/	表示装置（外付けディスプレイとLCD画面）を切り替えます。 p.114「キーボードで操作する場合」
Fn ＋ F10	スピーカのミュート（消音）のON/OFFを切り替えます。 p.118「音量の調節」
Fn ＋ F11　▼	スピーカの音量を小さくします。 p.118「音量の調節」
Fn ＋ F12　▲	スピーカの音量を大きくします。 p.118「音量の調節」
Fn ＋ Num Lk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.76「数値キー入力モード」
Fn ＋ Scr Lk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
Fn ＋ End	行の最後に移動します。＊
Fn ＋ Home	行の最初に移動します。＊
Fn ＋ PgUp	前のページに移動します。＊
Fn ＋ PgDn	次のページに移動します。＊

＊ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能の入れ替え

BIOSの設定を変更することで、次のキーの機能を入れ替えることができます。
(1) キーボード左下にある［Fn］とその隣の［Ctrl］
(2) キーボード右下にある［Alt］とその隣の［アプリケーションキー］(アプリケーションキー)

p.188 「Advancedメニュー画面」

▶Windowsキーとアプリケーションキー

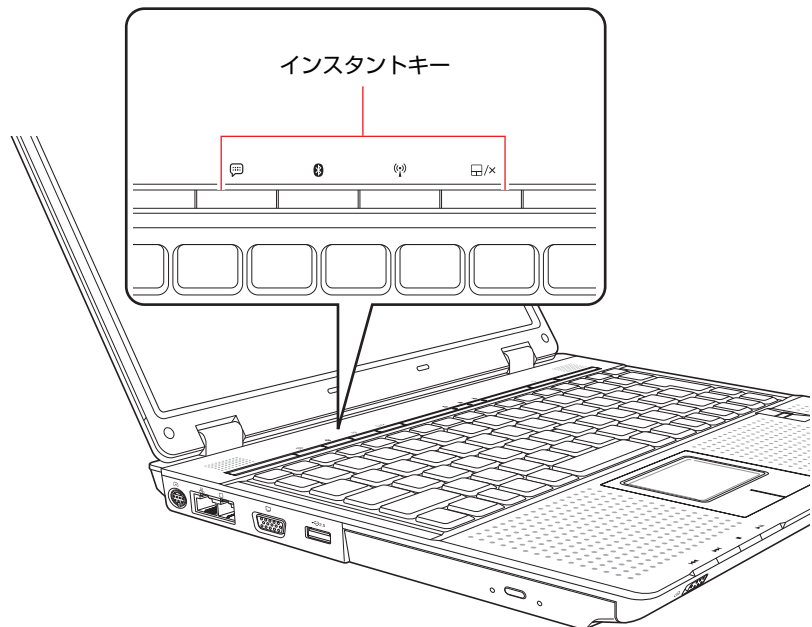
Windowsキー、アプリケーションキーを使用することにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機　能
［Windowsキー］(Windowsキー)	画面左下の［スタート］をクリックするのと同じ働きをします。
［アプリケーションキー］(アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶インスタントキー

本機には、4個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーには、インフォメーションメニューを起動するなどの機能が割り付けられています。インスタントキーを押すとキーに割り当てられた機能を実行します。
各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機　能
インフォメーションキー	インフォメーションメニューを起動します。 p.48「インフォメーションメニューを使う」
Bluetoothキー	Bluetooth機能の有効/無効を切り替えます。 p.104 「Bluetooth機能のON/OFF切替」
無線LANキー	無線LANの有効/無効を切り替えます。 p.139 「無線LANのON/OFF」
タッチパッドキー/×	タッチパッドの有効/無効を切り替えます。タッチパッドを使わないときは、タッチパッド機能を一時的に無効にしておくことができます。 p.72 「タッチパッド機能を無効にする」

これらのキーに割り当てられた機能を変更することはできません。

HDDを使う

本機には、HDD（ハードディスクドライブ）が内蔵されています。
HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、光ディスクなどのほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。
バックアップの方法は、次の場所で紹介しています。
p.249 「データのバックアップ」

購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

＜通常＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	残り

＜HDD設定変更サービスを選択された場合＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	購入時に選択された容量
Dドライブ	残り

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。
＊消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。
この領域は、絶対に削除しないでください。
削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。
「消去禁止領域」内の本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

p.250 「バックアップCDの作成」

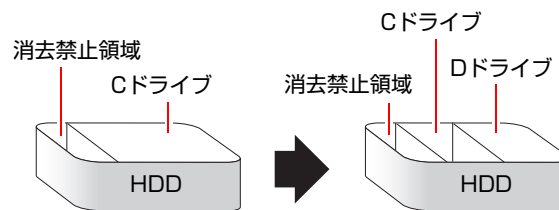
Windows REについての詳細は、次をご覧ください。

p.242 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

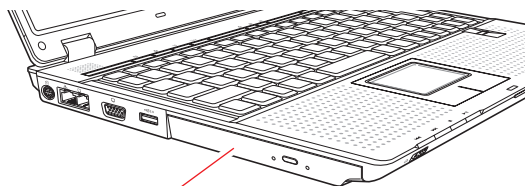
▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。

CドライブにはWindowsがインストールされているのでCドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。
詳しくは、p.256 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスク（CD/DVD）ドライブを使う

光ディスクドライブは、光ディスクメディアを使用するための機器です。購入時に選択された光ディスクドライブにより、機能や使用できるメディアは異なります。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。
なお、購入時の選択によっては、光ディスクドライブが搭載されていない場合もあります。

光ディスクドライブ

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクについては、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

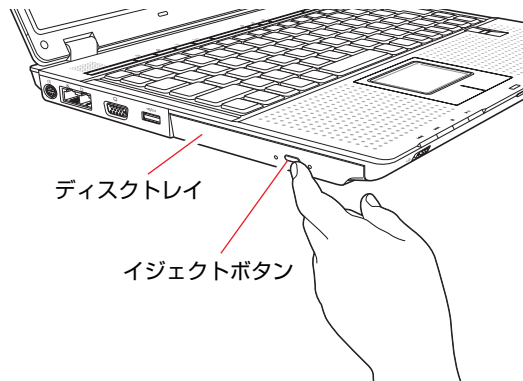
購入時に選択された光ディスクドライブで使用できるメディアは、「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルでご確認ください。
☞ p.48 「インフォメーションメニューを使う」
光ディスクメディアについての簡単な説明は、「インフォメーションメニュー」ー「PCお役立ち情報」をご覧ください。

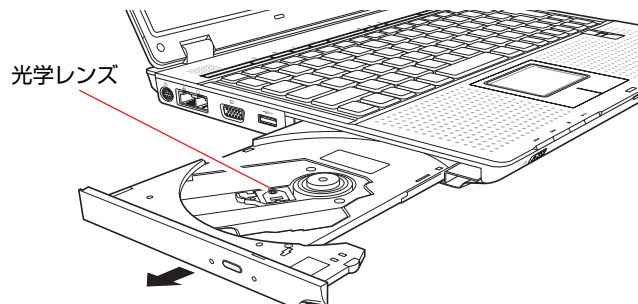
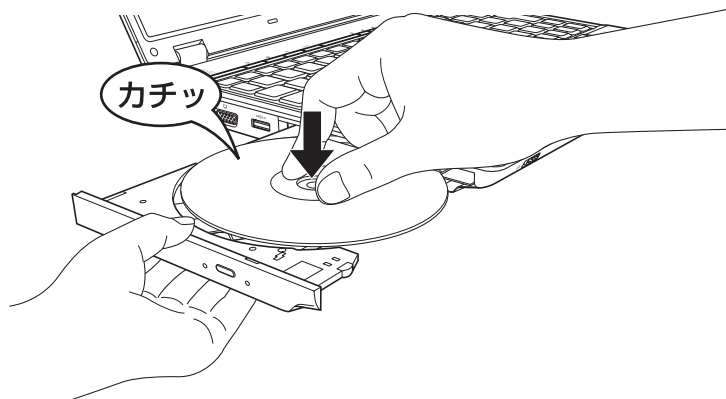
▶光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。

セット方法

1　イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。

2　ディスクトレイを静かに引き出します。

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
メディアのデータが読めなくなります。

3 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。

4 ディスクトレイを静かに閉じます。

取り出し方法

1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。そのまままっすぐ引き出します。

2 メディアをディスクトレイから取り出します。

3 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

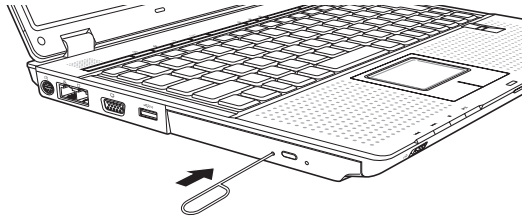
▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブが故障して、メディアが取り出せない場合
- メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

1 **本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。**

p.55「電源を切る（シャットダウン）」

2 **イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。**

3 **ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。**

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

DVDメディアの読み込み・再生機能のある光ディスクドライブを選択された場合、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には、「WinDVD」を使用します。
WinDVDは、次の場所から起動します。

[スタート] －「すべてのプログラム」－「Inter Video WinDVD」－「Inter Video WinDVD for EPSON」

WinDVDの詳しい使用方法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生することがあります。

- 解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を下げてみてください。
  p.111 「解像度や表示色の変更方法」

- 外付けディスプレイを接続して、クローンモードでの表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。
  p.114 「画面を切り替えるには」

▶光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。書き込み可能なメディアはお使いの光ディスクドライブにより異なります。
お使いの光ディスクドライブで書き込み可能なメディアについては、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルをご覧ください。
p.48 「インフォメーションメニューを使う」

作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。
p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

  メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。
  書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.163 「省電力状態に移行する方法」
  省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- **速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ**

  書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
  光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。

  「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

▶Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

「Nero 7 Essentials」と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックします。**

2 **Nero 7 Essentials画面が表示されます。**

Nero 7 Essentialsの詳しい使い方は、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Nero ユーザーガイド』をご覧ください。

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
パケットライトでメディアに書き込むには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
「InCD」の詳しい使い方は、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『InCDユーザーマニュアル』をご覧ください。

- 「InCD」で使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは「Nero 7 Essentials」で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

2

有償アップデートについて

本機にインストールされている「Nero 7 Essentials」は、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップの「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。

USB機器を使う

本機には、USB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に3個および左側面に1個、合計4個装備されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB 記憶装置を取り外した状態で行い、Windows 起動後に接続してください。

USB2.0の転送速度

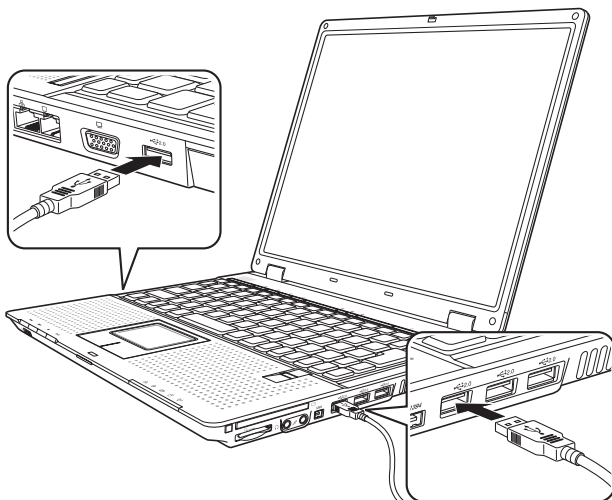
USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器は次のように接続します。

1 **USB機器のUSBコネクタを、本機のUSB2.0コネクタ（ 2.0）に接続します。**

2　**USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。**

＜取り外しアイコン＞

取り外し

USB機器の取り外し方法には、次の2とおりの方法があります。

- 通知領域に「取り外し」アイコンが表示されていない場合、または本機の電源を切った後はそのままUSB機器を取り外す。
- 通知領域に「取り外し」アイコンが表示されている場合、Windows上でUSB機器の終了処理をした後に取り外す。

USB機器の終了処理は、次の手順で行います。

1　**開いているファイルを閉じます。**

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

2　**通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。**

＜取り外しアイコン＞

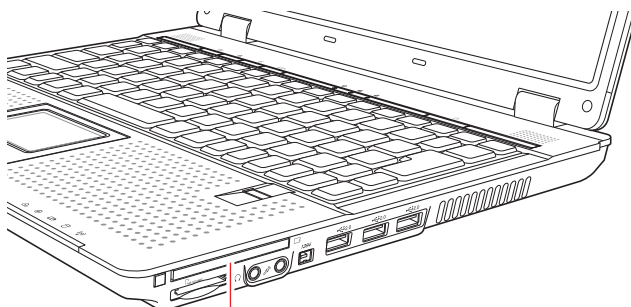
3　**表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。**

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します

4　**「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB機器を本機から取り外します。**

PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが、装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIのPCカード（CardBus対応）を使用することができます。

PCカードスロット

- PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- PCカードによっては、初回挿入時に再起動を要求される場合があります。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- FAX モデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.163 「省電力状態に移行する方法」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。
- PCカードの形状によっては装着できないカードがあります。

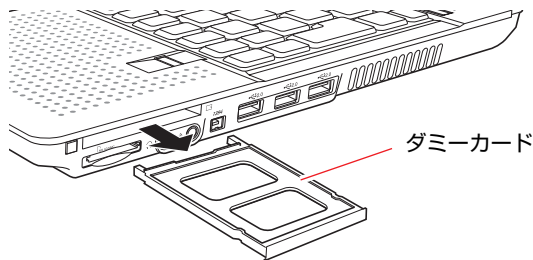
▶PCカードのセットと取り外し

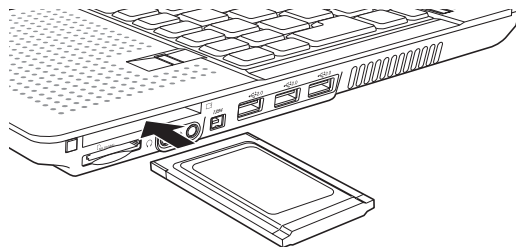
- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力状態移行時はPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

1　PCカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、p.94「PCカードの取り外し」の手順2、3を参照してダミーカードを取り外します。

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2　PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

3　コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4 認識されるとPCカードが使用できます。

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

<取り外しアイコン>

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。

PCカードの内容の確認

通知領域にある「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックすると、PCカードの内容を確認することができます。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

本機にセットされていた PC カードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 PCカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。

PCカードの終了処理は、次の手順で行います。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

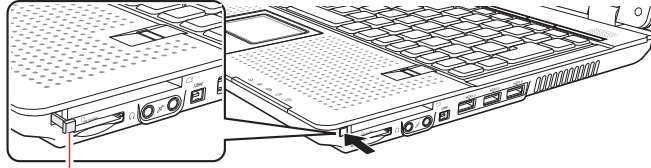
<取り外しアイコン>

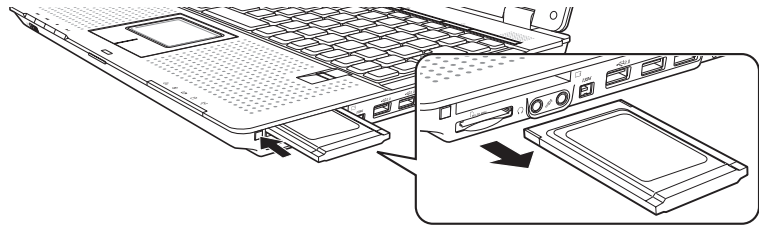
(2) 表示されたメニューから「(取り外したいPCカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。

(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

これでPCカードの終了処理は完了です。

2 **PC カードイジェクトボタンを「カチッ」と音がするまで押すと、イジェクトボタンが出てきます。**

PCカードイジェクトボタン

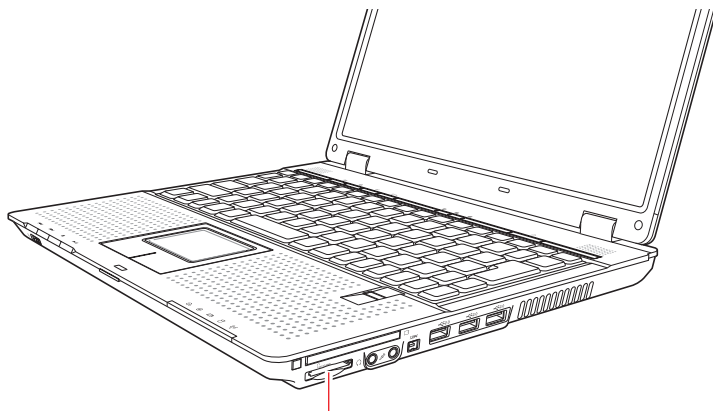
3 **出てきた PC カードイジェクトボタンを再び押し込むと、PC カードが出ます。**

4 **出てきたPCカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

5 **ダミーカードをPCカードスロットにセットします。**

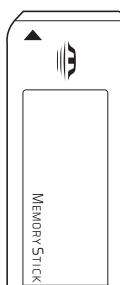
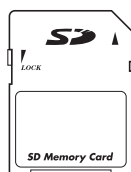
コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードをセットしておいてください。

メモリカードを使う

本機右側面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードとは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。

▶本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカードの3種類です。下記のイラストは、各メモリカード表面のイラストです。

<メモリースティック>　<マルチメディアカード>

<SDメモリーカード>

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する前に、必ずお読みください。

● メモリカードにアクセス中は、メモリカードを抜かないでください。
● 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
● メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能に移行しないように設定してください。
p.163 「省電力状態に移行する方法」

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモリカードのセットと取り出し

メモリカードを使用する前に、必ず「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

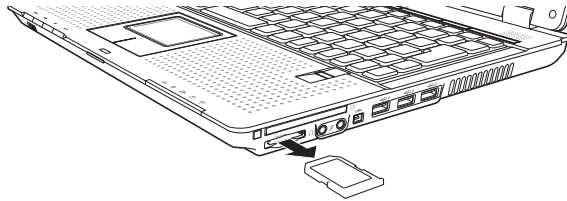
p.97 「メモリカード使用時の注意」

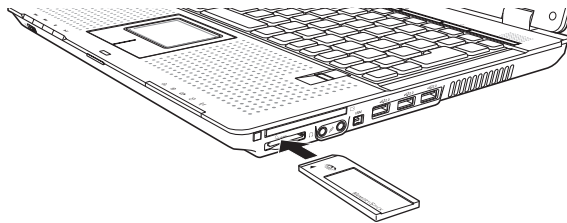
メモリカードのセット

メモリカードは、次の手順でセットします。

1 メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押し、少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜き、取り外します。

ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 メモリカードをメモリカードスロットに挿入します。

メモリカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。
メモリカードの表面は、「本機で使用できるメモリカード」をご覧ください。

p.96 「本機で使用できるメモリカード」

3 認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

＜取り外しアイコン＞

メモリカードの取り出し

メモリカードは、次の手順で取り出します。

1　メモリカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。

メモリカードの終了処理は、次の手順で行います。

(1) 開いているファイルを閉じます。
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

(2) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

<取り外しアイコン>

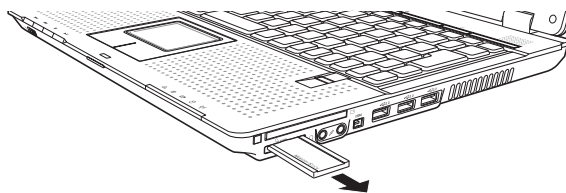
(3) 表示されたメニューから、「(取り外したいメモリカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。
メニューに複数表示される場合は、別のデバイスを選択しないよう、注意してください。

MMC Memory Card - ドライブ (E:) を安全に取り外します

(4)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
これでメモリカードの終了処理は完了です。

2　メモリカードを「カチッ」と音がするまで押すと、メモリカードが少し出ます。

強く押すと、メモリカードが飛び出すことがあるので注意してください。

3　メモリカードをまっすぐに引き抜きます。

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合はダミーカードをセットしておきます。

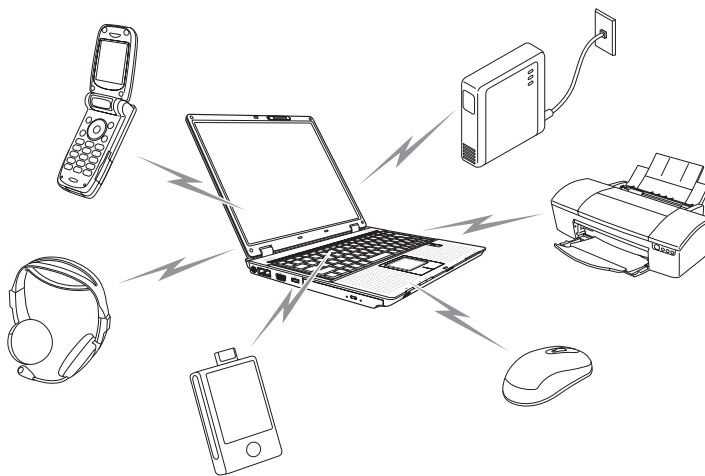
2

Bluetooth機能を使う

本機には、Bluetooth機能が搭載されています。
Bluetoothとは、無線の通信方式の1つです。ここでは、Bluetooth機能の使い方について説明します。

Bluetooth機能でできること

本機では、Bluetooth機能を使用して、次のようなことができます。

- Bluetooth対応の周辺機器を使用できます。
  マウス、プリンタ、カメラ、ステレオヘッドフォン、ヘッドセット、携帯電話、ワイヤレスモデムステーション、アクセスポイントなど
- Bluetooth機能が搭載されているコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。

仕様

本機に搭載されているBluetooth機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth標準規格 Ver 2.0 + EDR	2.4GHz

Bluetooth機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm 以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - ・手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・医療機関が個々に使用禁止､持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自宅療養など、医療機関以外で植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。
- 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意事項

- 本機のBluetooth機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機のBluetooth機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

- 本機のBluetooth機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解/改造すると法律で罰せられることがあります。

- 2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機のBluetooth機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機のBluetooth機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合もありますが、故障ではありません。

通信可能な距離

Bluetoothで通信可能な距離は、10m以内です。Bluetooth通信を行うときは、本機と通信を行う機器とを10m以内に設置してください。
推奨される通信距離は3m以内です。

通信可能距離は 10m 以内ですが、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

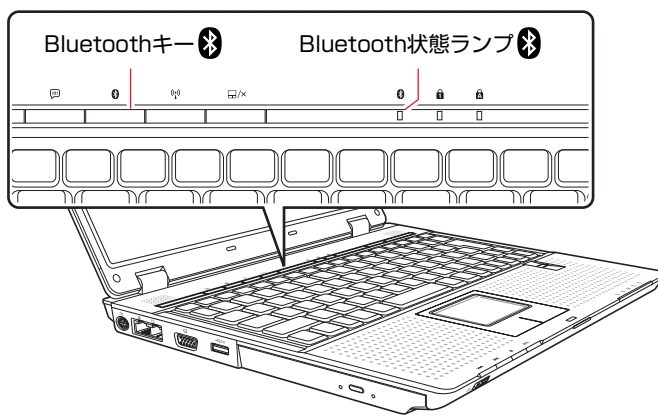
- 使用する機器がBluetoothに対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数のBluetooth機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。
- 大容量データを送受信する場合は、途中で通信が途切れることがあります。その場合は、再度送受信してください。

- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、Bluetooth 機能を使用できません。再起動してログオンしてください。

▶Bluetooth機能のON/OFF切替

Bluetooth機能のON/OFFの切替方法について説明します。

Bluetooth機能をONにする

Bluetooth機能を使用する場合は、Bluetoothキー（）を押して、Bluetooth機能をON（有効）にします。

Bluetooth状態ランプ

BluetoothのON/OFFの状態は、Bluetooth状態ランプ（）で確認できます。

Bluetoothの状態	Bluetooth状態ランプ
ON	青点灯
OFF	消灯

▶Bluetooth対応の周辺機器を使用する

Bluetooth対応のマウスやキーボードなどの周辺機器を使用する方法について説明します。

周辺機器の検出・登録

新規で周辺機器を使用する場合、周辺機器を検出して登録をする必要があります。登録の手順は次のとおりです。

周辺機器によっては、設定中に、Bluetoothパスキー（PINコード）の入力を促す画面が表示される場合があります。この場合は、周辺機器の取扱説明書を参照してパスキーを入力してください。

1　本機と周辺機器を10m以内に設置します。

p.102 「通信可能な距離」

2　本機と周辺機器のBluetooth機能を「ON」にします。

p.104 「Bluetooth機能のON/OFF切替」

周辺機器のBluetooth機能をONにする方法については、周辺機器に添付の取扱説明書を参照してください。

3　周辺機器を検出し、登録します。

(1) 通知領域のBluetoothアイコン（ ）をクリックし、「Bluetoothデバイスの追加」を選択します。
Bluetoothアイコンが表示されていない場合は、Bluetooth機能を一度OFFにし、再度ONにしてください。

(2)「Bluetoothデバイスの追加ウィザード」画面が表示されたら、「セットアップを完了し、デバイスは発見可能になりました」にチェックを付け、［次へ］をクリックします。

(3)「追加するBluetoothデバイスを選択してください。」と表示されたら、デバイスを選択し、［次へ］をクリックします。

(4)「パスキーをデバイスに追加しますか？」と表示されたら、「パスキーを使用しない」を選択し、［次へ］をクリックします。

(5)「Bluetoothデバイスの追加ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

これで周辺機器の登録は完了です。

周辺機器を使用する

設定が完了すると、「Bluetoothデバイス」の一覧に周辺機器が表示され、使用できるようになります。
一度設定を行うと、次回以降は自動的に周辺機器を使用できます。

▶コンピュータ同士でBluetooth通信する

本機では、Bluetooth機能を搭載したコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。

データの送信

ここでは、本機からBluetooth機能を搭載したコンピュータにデータを送信する方法について説明します。

1 本機と送信先のコンピュータを10m以内に設置します。

p.102 「通信可能な距離」

2 本機と送信先のコンピュータのBluetooth機能を「ON」にします。

p.104 「Bluetooth機能のON/OFF切替」

3 本機と送信先のコンピュータがお互いに検出できるように設定します。

(1) 本機の通知領域のBluetoothアイコン（）をクリックし、「Bluetoothの設定を開く」を選択します。

Bluetoothアイコンが表示されていない場合は、Bluetooth機能を一度OFFにし、再度ONにしてください。

(2)「Bluetoothデバイス」画面が表示されたら、「オプション」タブをクリックします。

(3)「Bluetoothデバイスによる、このコンピュータの検出を許可する」にチェックを付け、[OK]をクリックします。

送信先のコンピュータも検出を許可する設定が必要です。設定に関しては、送信先のコンピュータに添付のマニュアルをご覧ください。

4 送信先のコンピュータで受信の設定をします。

受信の設定方法は、送信先のコンピュータに添付のマニュアルをご覧ください。

本機が送信先の場合は、本機の通知領域のBluetoothアイコン（）をクリックし、「ファイルの受信」を選択します。「Bluetoothファイル転送ウィザード」画面が表示されたら、そのまま待機します。

5 本機の通知領域のBluetoothアイコン（）をクリックし、「ファイルの送信」を選択します。

6 「ファイルの送信先を選択してください。」と表示されたら、[参照]をクリックします。

7 送信先の一覧が表示されたら、送信先のコンピュータを選択し、[OK]をクリックします。

8 パスキーを使用する場合は、「パスキーを使用する」にチェックを付け、パスキーを入力して[次へ]をクリックします。

9 **「送信するファイルを選択してください。」と表示されたら、［参照］をクリックしてファイルを選択し、［開く］をクリックします。**

10 **［次へ］をクリックすると、ファイルが送信されます。**

手順8でパスキーを設定した場合は、送信先のコンピュータでもパスキーの入力が求められます。

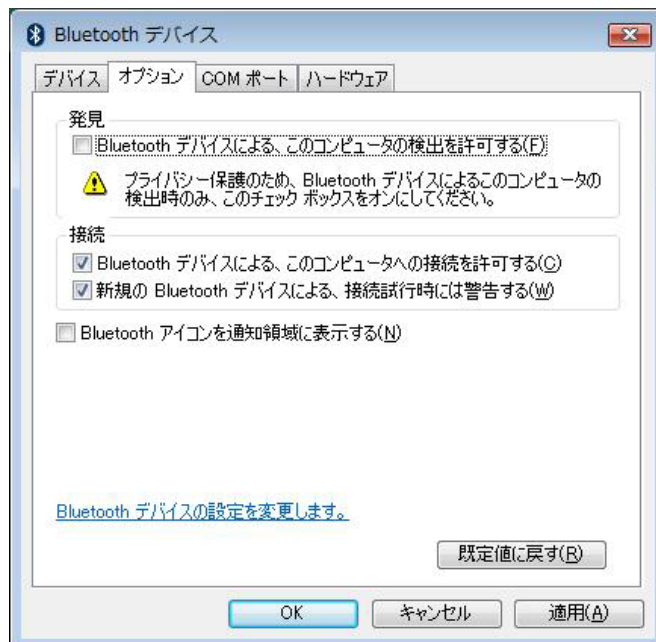
11 **「Bluetoothファイル転送ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

これでファイル転送は完了です。
送信先のコンピュータで受け取ったファイルを保存します。ファイルは次の場所に保存されるように設定されています。

［スタート］－「ドキュメント」

▶セキュリティの設定

Bluetooth使用時のセキュリティを確保するために、本機をほかのBluetooth機器から検出できないようにしたり、接続時に警告を表示するように設定することができます。
設定は、次の場所で行います。

通知領域のBluetoothアイコン（）をクリック－「Bluetoothの設定を開く」－「オプション」タブ

▶Bluetoothアイコンを常に表示する

Bluetoothアイコン（ ）を常に通知領域に表示するには、次の設定を行います。

1 **通知領域のBluetoothアイコン（ ）をダブルクリック－「オプション」タブ－「Bluetoothアイコンを通知領域に表示する」にチェック**

画面表示をする

ここでは、本機のLCDユニットでの画面表示について説明します。
本機ではLCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。
p.112「外付けディスプレイに表示する」

▶LCDユニットの仕様

本機では次のいずれかのLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 14.1型　XGA　　最大解像度　1024×768
- 14.1型　SXGA＋　最大解像度　1400×1050

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるものので故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、全ドットの0.00034%以下に相当します。

*「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。
本機の場合は、2,359,296個の副画素があります。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

▶LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

次の場所で調整することもできます。

[スタート]－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」－「ディスプレイの輝度を調整」

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は次の方法で行います。

キー操作/LCDユニットの操作	状態
Fn ＋ F7　LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じると、本機は「スリープ状態」になります。

p.162 「省電力状態の種類」

LCDユニットを閉じたときの動作は、変更することができます。

p.163 「省電力状態に移行する方法」

▶表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

画像が正常に再生できない場合は

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

次の解像度の場合、表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

表示装置 解像度	14.1型XGA	14.1型SXGA＋
800×600	○	○
1024×768	○	○
1280×1024	－	○
1400×1050	－	○

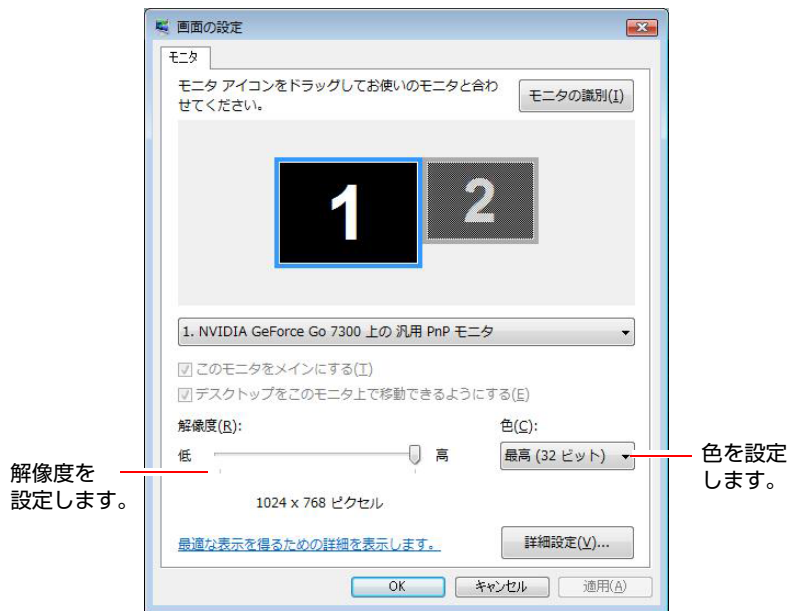
解像度や表示色の変更方法

セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.240「セーフモードでの起動」

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」をクリックします。

2 「解像度」、「色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3 項目を変更したら、［適用］をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

外付けディスプレイに表示する

本機には次の表示装置を接続して画面を表示することができます。

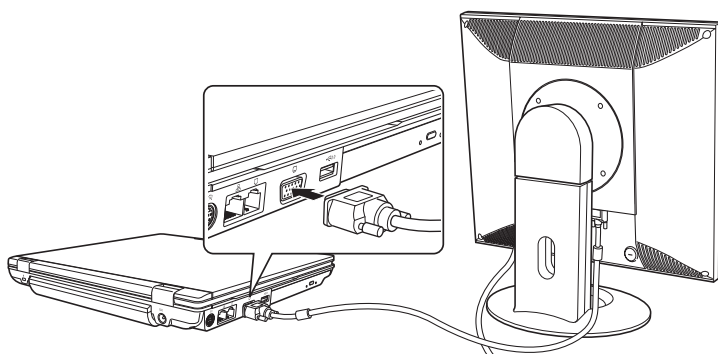
- 外付けディスプレイ/ビデオプロジェクタ（VGAで接続）
- TV（S-ビデオで接続）

テレビへの表示については、p.116「テレビに表示する」をご覧ください。

▶ディスプレイの接続

本機に外付けディスプレイを接続すると、自動的に認識され、表示可能になります。

1 本機と外付けディスプレイの電源が切れていることを確認します。

2 外付けディスプレイの接続ケーブルを本機左側面のVGAコネクタ（▭）に接続します。

3 外付けディスプレイと本機の電源を入れます。

Fn + F8（LCD/▭）を押すと、表示装置の切り替えができます。
「画面の外観を選択してください」と表示された場合は、表示方法を選択し、[OK] をクリックします。

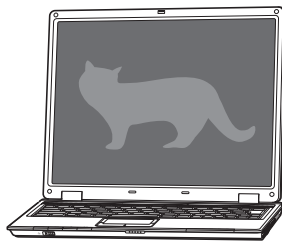
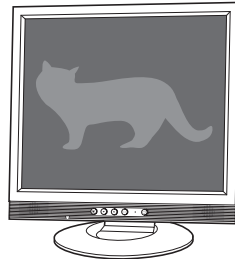
ビデオプロジェクタへの接続

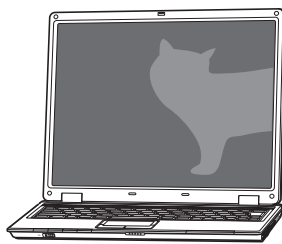
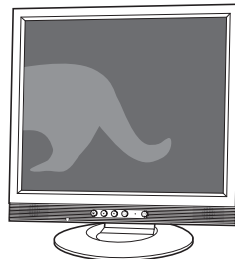
ビデオプロジェクタも外付けディスプレイと同様に、本機のVGAコネクタに接続して使用します。
プロジェクタ側の接続方法はプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

▶表示できる画面の組み合わせ

本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

- 1つのディスプレイに表示（1つのディスプレイモード）
  LCDユニットのみ、または外付けディスプレイのみに表示します。
  外付けディスプレイが接続されていてもLCDのみで表示できます。

- 2つのディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）
  解像度は2つのディスプレイのうち設定の低い解像度に合わせて表示します。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

- 2つのディスプレイに1つの画面を分割して表示（デュアルビューモード）
  2つのディスプレイで別々の解像度を設定できます。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

▶画面を切り替えるには

表示画面の切り替え方法は、次の2とおりの方法があります。

● キーボードで操作する。
キーボードで簡単に切り替えができます。
ただし、2画面表示はクローンモードのみ切り替え可能です。
● コントロールパネルから操作する。
すべての組み合わせの切り替えが可能です。

キーボードで操作する場合

[Fn]＋[F8]（LCD/□）を押すたびに表示画面が切り替わります。
表示は次の組み合わせで行うことができます。接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

● LCD Only （LCDのみに表示）
● CRT Only （外付けディスプレイのみに表示）
● LCD+CRT （クローンモードで表示）

● 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。
● LCD+CRT に切り替えたときに、2 つの解像度が違う場合は、設定の低い解像度にあわせて表示します。

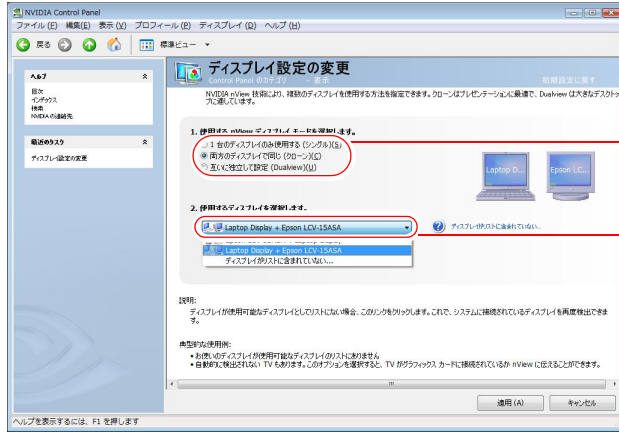
コントロールパネルから操作する場合

コントロールパネルから操作する手順は次のとおりです。
接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置に切り替えることはできません。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」－［詳細設定］をクリックします。

2 「（マルチモニタ）とNVIDIA GeForce Go 7300のプロパティ」画面で「GeForce Go 7300」タブ－［Start the NVIDIA Control Panel］をクリックします。

3 「NVIDIA Control Panel」画面で［表示］をクリックし、次に表示された画面で「ディスプレイ設定の変更」をクリックします。

4 「ディスプレイ設定の変更」と表示された画面で、表示させたいモードを選択します。

「1. 使用するnViewディスプレイモードを選択します。」項目で表示モードを、「2.使用するディスプレイを選択します。」項目で表示するディスプレイを選択します。

5 [適用] をクリックします。

これで、画面の切り替えは完了です。

▶表示できる解像度と表示色

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。
実際に表示できる解像度は、表示モードや接続しているディスプレイによって異なります。

- **表示色**

  中（16ビット）/ 最高（32ビット）

- **解像度**　ピクセル（横×縦）

  800×600
  1024×768
  1280×1024
  1400×1050
  1600×1200

解像度や表示色の変更方法は、p.111 「解像度や表示色の変更方法」をご覧ください。

表示できる解像度

実際に表示できる最大解像度はコンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度の低い方になります。ディスプレイに添付のマニュアルで確認してください。

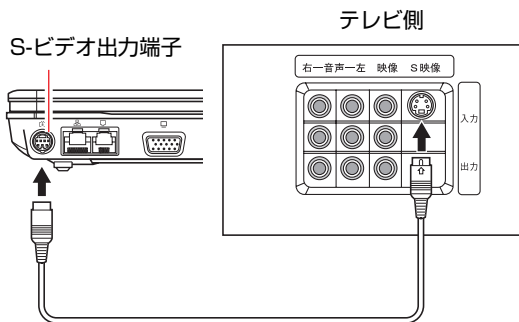
▶テレビに表示する

S端子ケーブルを使用して、本機とテレビを接続すると、本機の画像をテレビに表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。

S-ビデオ出力端子から出力される信号は、一般のテレビで表示可能に変換したNTSC 信号です。NTSC 信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログ RGB 信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。

接続

1 テレビと本機の電源を切ります。

2 市販のＳ端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ（Ｓ端子）と、本機左側面のS-ビデオ出力端子（[S]）を接続します。

3 テレビと本機の電源を入れます。

表示の切り替え方法

[Fn]＋[F8]（LCD/□）を押すたびに表示装置が切り替わります。表示装置の切り替えは、接続している表示装置を自動的に認識して行われます。

キーボードで切り替えできる表示の組み合わせは次のとおりです。

- TV Only（テレビ画面のみに表示）
- LCD＋TV（LCD画面とテレビの両方に表示）
- LCD Only（LCD画面のみに表示）

- テレビとの組み合わせで設定できる解像度は1024×768までです。LCD画面で1024×768より高い解像度を設定していた場合に、テレビに切り替えると1024×768の解像度で設定されます。
- テレビに表示を切り替えて解像度が変更された場合に、再びLCD画面に表示を戻しても、解像度は自動的に元に戻りません。

画面が入りきらないときは

本機の画像をテレビ画面に表示したときに、画面が入りきらない場合は、次の設定をします。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」をクリックします。**

画面に表示されていないときは、[↓]でスクロールして表示させてから選択します。

2 **「画面の設定」画面で、「解像度」を「高」に設定し、［OK］をクリックします。**

［OK］がクリックできない場合は、[Alt]＋[A]を押します。

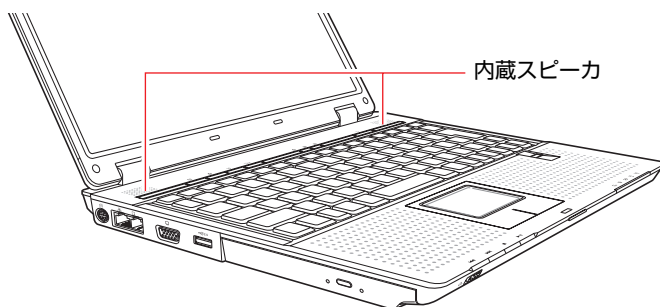
これで、画面が正常に表示されるようになります。

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵スピーカ

本機には、スピーカ（ステレオ）が内蔵されており、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

スピーカの音量は次のキーを押して調整します。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10　🔊/🔈	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11　▼🔈	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12　▲🔊	音量が大きくなります。

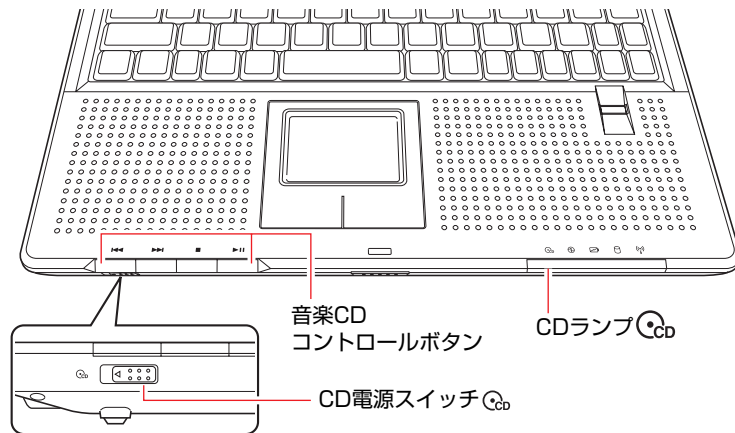
PC カードやアプリケーションによっては、上記の方法で音量調節ができないものがあります。詳しくは、PC カードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

▶音楽CD再生機能

音楽CD再生機能とは、音楽CDコントロールボタンで、音楽CD再生などのコントロールができる機能です。
この機能は、Windowsが起動していなくてもACアダプタやバッテリから電源供給がされていれば、使用できます。

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクについては、動作保証しておりません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

ボタンの機能

音楽CDコントロールボタンは、本機前面の左側にあります。各ボタンの機能は次のとおりです。

ボタン / ランプ	機　能
CD電源スイッチ	Windowsが起動していないときに、左側にスライドさせてCD電源の入/切を行います。
頭出しボタン ⏮	1回押すと、前のトラックへ戻ります。 長押しすると、音量が小さくなります。＊
頭出しボタン ⏭	1回押すと、次のトラックへ進みます。 長押しすると、音量が大きくなります。＊
停止ボタン ■	押すと再生を停止します。 コンピュータの電源が切れている場合は、停止中に押すと、ディスクトレイを開きます。
再生ボタン ▶II	押すと再生/一時停止します。
CDランプ	音楽CD再生時に、CD電源スイッチで電源を入れると点灯します。

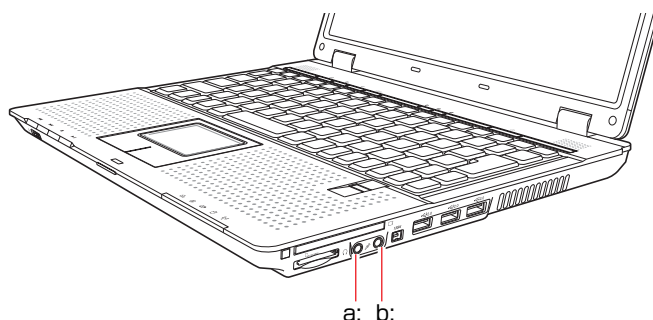
＊長押しの機能は、Windowsが起動している状態では動作しません。

音楽CD再生機能を無効にする

音楽CD再生機能を使用しない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で音楽CD再生機能を無効にすることができます。
コンピュータの電源が切れている状態でのみ無効になります。

p.188 「Advancedメニュー画面」ー「Audio DJ Interface」

マイクなどの接続

本機右側面には、ヘッドフォンやスピーカ、マイクを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

a: **ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ**
ヘッドフォンやスピーカを接続した場合はヘッドフォンコネクタとして機能します。
MDデッキなど光デジタルオーディオ機器と接続すると、光デジタルオーディオ出力コネクタとして機能します。

b: **マイク入力コネクタ**
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

ヘッドフォンやスピーカの接続
ヘッドフォンやスピーカを接続すると内蔵スピーカの機能は自動的に無効になります。

録音するには

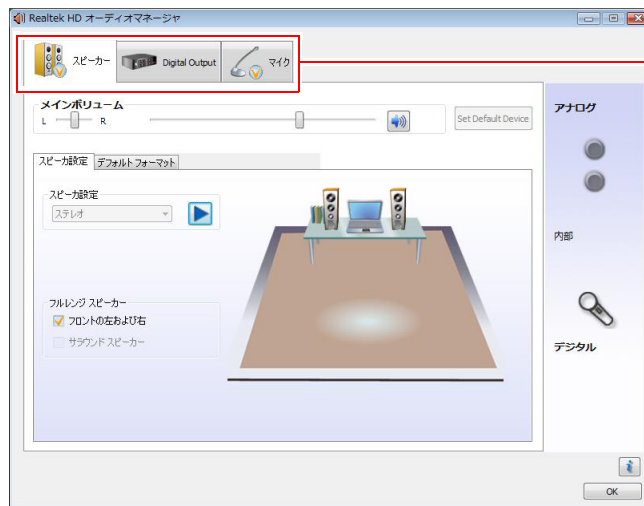
Windows標準の「サウンドレコーダー」を使用します。
「サウンドレコーダー」は次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「サウンドレコーダー」

本機にマイクを接続して音声を録音する場合、音量の調節方法は、p.123「マイク使用時の音量調節」をご覧ください。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカやマイク音量、音響効果などの設定ができます。
サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の次のアイコンをダブルクリックします。

次の画面が表示されます。

設定項目を選択

Bluetoothヘッドフォンを使用する場合はサウンドユーティリティの音響効果が機能しない（有効にならない）場合があります。サウンド機能は通常通り使用できます。

S/P DIF出力の設定

S/P DIFにオーディオ機器を接続して音声を出力する場合は、次の設定が必要です。

1 **通知領域の次のアイコンを右クリックします。**

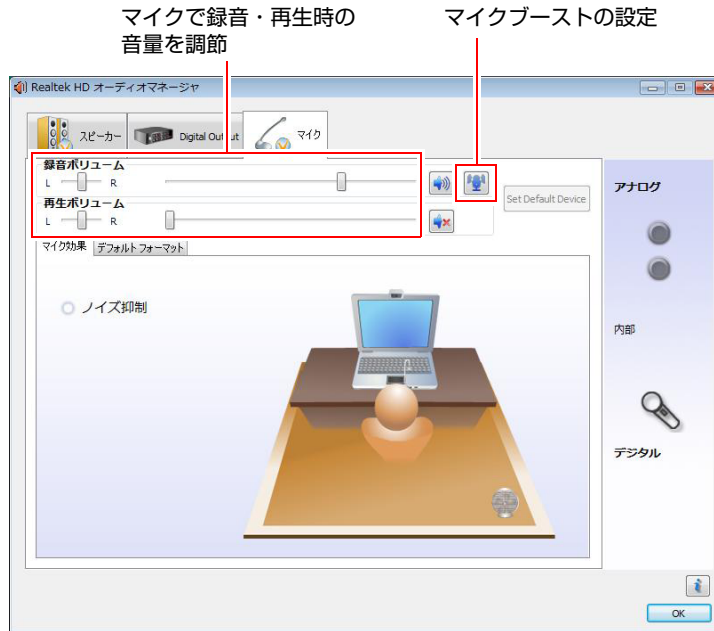
2 **表示された項目から、「再生デバイス」を選択します。**

3 **「サウンド」画面が表示されたら、「Realtek Digital Output」を右クリックし、「既定のデバイスとして設定」を選択して［OK］をクリックします。**

S/P DIFが通常の出力デバイスとして設定されます。

これで、S/P DIF出力の設定は完了です。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

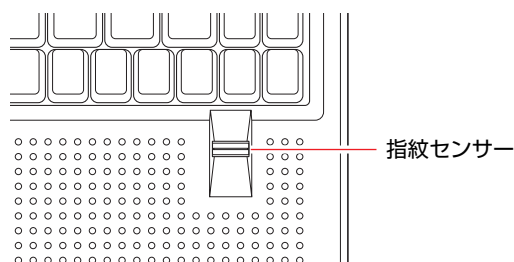
指紋認証機能を使う

本機は、指紋認証機能を搭載しています。
指紋認証機能とは、指紋を登録して起動時のパスワードとして使用する機能です。
指紋認証機能を使用すると、Windowsのログオンのほかにもアプリケーションの入力画面で指紋をパスワードとして使用することができます。

本機では、指紋認証ユーティリティ（コントロールセンター）を利用して、指紋の登録や各種設定を行います。
p.125「指紋認証ユーティリティの概要」

- 登録した指紋は、BIOS Setupユーティリティのパスワードとして使用することはできません。
- 一部ブラウザ（Operaなど）では指紋認証機能が使用できないことがあります。
- 指紋認証機能は100%の完全な本人認証を保証するものではありません。
- 指紋認証機能を使用したことで発生したいかなる損害についても当社といたしましては責任を負いかねますのでご了承ください。

指紋センサー

指紋は、指紋センサーで登録や読み取りを行います。指紋センサーは、キーボードの右下にあります。

指紋登録時および認証時に関する注意事項

登録に使う指が次のような状態の場合、指紋の登録や認証ができないことがあります。
場合によって対処してください。

- 指がぬれている
  ：水分を拭き取ってください。

- 指が非常に乾燥している
  ：ハンドクリームを塗るなどして保湿してください。

- 指が汚れている、汚れや泥・油で着色している
  ：汚れや着色を洗い落としてから、水分を拭き取ってください。

● 指にしわが多い、ざらざらしている、傷がある、登録したときの指紋から著しく変化している。
：違う指で指紋登録および認証を行ってください。

上記の対処を行っても、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で指紋を登録できない場合があります。

指紋センサーの取り扱いに関する注意事項

指紋センサーに傷が付いたり正常に作動しなくなるおそれがありますので、次の注意事項を必ず守って指紋センサーをお使いください。

● 指紋センサー表面を、爪や硬いもの、先の尖ったもので引っかかないでください。
● 汚れた指で指紋センサーを使用したり触ったりしないでください。

お手入れ

次のような場合は、指紋センサーを、乾いた柔らかい布で拭いてください。

● 指紋センサー表面に汚れ、湿り、または着色がある場合。
● 指紋センサーが、指紋の登録や認証に頻繁に失敗する場合。

▶指紋認証ユーティリティの概要

ここでは、指紋認証ユーティリティの主な機能や、指紋認証機能を使用するまでの流れについて説明します。

インストール

指紋認証機能を使用するには、指紋認証ユーティリティのインストールが必要です。購入時には、指紋認証ユーティリティはインストールされていません。

p.210 「指紋認証ユーティリティのインストール」

指紋認証ユーティリティでできること

指紋認証ユーティリティには、次のような機能があります。

● 指紋の登録
各種パスワード設定でパスワードとして使用する指紋を登録します。
指紋は最大で21まで登録できます。
設定は、コントロールセンターで行います。
p.127 「指紋の登録」

● 指紋ログオン
指紋を登録すると、Windowsログオン時に、登録した指紋を読み取らせてWindowsを起動します。
p.128 「指紋ログオン」

- パスワードバンク

パスワードバンクには、パスワード入力が必要なWebページやダイアログを登録できます。登録したWebページやダイアログにアクセスしたときに、ユーザーIDやパスワードなどの項目を入力するかわりに指紋を読み取らせると、画面が表示されます。

p.129 「パスワードバンクへの登録」
p.131 「登録済みWebページの表示」

- File Safe（ファイルやフォルダの暗号化）

File Safeを使用すると、ファイルやフォルダをHDD上の暗号化アーカイブに格納できます。格納したファイルやフォルダはロックされ、指紋の読み取りでロックが解除されます。

指紋認証ユーティリティの使い方

指紋認証ユーティリティの詳細な使い方は、指紋認証ユーティリティのヘルプをご覧ください。

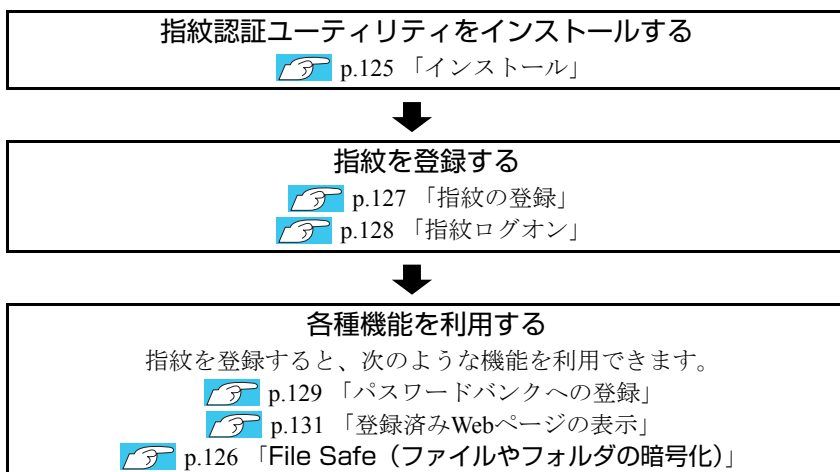
[スタート] − [すべてのプログラム] − [Protector Suite QL] − [ヘルプ]

▶指紋認証機能を使用するまでの流れ

指紋認証機能を使用するまでの流れは次のとおりです。

指紋認証ユーティリティをインストールする
p.125 「インストール」

指紋を登録する
p.127 「指紋の登録」
p.128 「指紋ログオン」

各種機能を利用する
指紋を登録すると、次のような機能を利用できます。
p.129 「パスワードバンクへの登録」
p.131 「登録済みWebページの表示」
p.126 「File Safe（ファイルやフォルダの暗号化）」

▶指紋を登録する

指紋の登録

指紋認証ユーティリティに指紋を登録する場合は、次の手順で指紋の登録を行います。

指紋の登録は、「コントロールセンター」で行います。

p.129 「指紋の追加登録・変更・削除」

1 [スタート] ー [すべてのプログラム] ー [Protector Suite QL] ー [コントロールセンター] をクリックします。

2 「Protector Suiteソフトウェア」(指紋コントロールセンター) 画面が表示されたら、[指紋] ー [初期化] をクリックします。

3 「指紋ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されたら、「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付けてOK] をクリックします。

4 「ようこそ」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[次へ] をクリックします。

5 「終了」画面が表示されたら、「バイオメトリックスデバイスへの登録」にチェックが付いていることを確認して、[完了] をクリックします。

Windowsパスワードを設定している場合は、手順7に移ります。

6 Windowsパスワードを設定していない場合は、「指紋ログオン」画面が表示されます。[はい]をクリックし、画面の指示に従って、Windowsパスワードを設定してください。

このパスワードは指のケガなど、指紋がうまく認識されないときに使用します。

7 「ようこそ」(ユーザー登録) 画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

8 「パスワード」(ユーザーのパスポート) 画面が表示されたら、「パスワード入力」にWindowsパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

9 「登録のヒント」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[次へ] をクリックします。

10 「指紋チュートリアル」(正しい読み取り手順) 画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[次へ] をクリックします。

11 「指紋チュートリアル」(スキャンの練習) 画面が表示されたら、画面の指示に従って指紋センサーで指紋の読み取りをします。

12 **「練習問題に合格しましたので、登録する準備ができました」と表示されたら、[次へ]をクリックします。**

13 **「登録」(ユーザーの指紋)画面が表示されたら、登録したい指を選択して、指紋センサーで指紋の読み取りをします。「成功」と表示されたら、登録が完了します。2つ以上の指を登録して[次へ]をクリックします。**

認証されにくい場合やケガをした場合に備えて、2つ以上の指紋を登録することをおすすめします。

14 **「ユーザー登録」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK]をクリックします。**

15 **「拡張セキュリティ」画面が表示されたら、「バックアップパスワード」を入力して、[次へ]をクリックします。**

このパスワードは、「コントロールセンター」の設定に使用するパスワードです。

認証されにくい場合やケガをした場合に使用します。絶対に忘れないようにしてください。

16 **「終了」画面が表示されたら、[完了]をクリックします。**

これで指紋の登録は終了です。

指紋ログオン

本機の電源を入れたときに、登録した指紋を指紋センサーで読み取らせてWindowsを起動します。

指紋認証機能を使用して起動する方法は次のとおりです。

1 **電源スイッチ(⏻)を押して、本機の電源を入れます。**

「Swipe finger to…」と指紋の読み取りを促すメッセージが表示されます。

2 **指紋センサーで登録済みの指紋を読み取ります。**

指紋認証に成功したら、コンピュータが起動します。

コンピュータを複数のユーザーで使用している場合は、指紋の読み取りをしたユーザーアカウントでWindowsが起動します。

指紋ログオンをキャンセルするには

指紋が認証されにくい場合や、指にケガをした場合などは、指紋ログオンをキャンセルできます。指紋ログオンをキャンセルするには、指紋読み取りメッセージが表示されたときに、[Back space]を押します。Windowsログオン画面が表示されたら、「パスワードの入力」にWindowsパスワードを入力してログオンしてください。

指紋の追加登録・変更・削除

指紋の追加登録・変更・削除は、コントロールセンターで行います。

1 ［スタート］－［すべてのプログラム］－［Protector Suite QL］－［コントロールセンター］をクリックします。

2 操作を選択します。

＜指紋を登録・変更したい場合＞

「Protector Suiteソフトウェア」（指紋コントロールセンター）画面が表示されたら、［指紋］－［指紋の登録、または編集］をクリックします。

「ようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

＜登録した指紋を削除したい場合＞

「Protector Suiteソフトウェア」（指紋コントロールセンター）画面が表示されたら、［指紋］－［削除］をクリックします。

「指の読み取り」と表示されたら、以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

指をケガした場合などに、ほかの指を登録したいときは

コントロールセンターで指紋登録時に、「パスワード」画面でコントロールセンターのパスワードを入力して［次へ］をクリックします。画面の指示に従って操作を進め、「拡張セキュリティ」画面が表示されたら、「現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする」のチェックを外して［次へ］をクリックします。これにより、以前に登録した指紋のセキュリティが無効になります。以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

▶各種設定をする

ここでは、パスワードバンクへの登録と登録済みWebページの表示方法を説明します。

パスワードバンクへの登録

パスワードバンクに、パスワード入力が必要なWebページやダイアログを登録できます。パスワードバンクにWebページやダイアログを登録する方法は次のとおりです。ここでは、Internet Explorerを使用して、パスワードバンクにWebページまたはダイアログを登録する方法を説明します。

お使いのブラウザによっては、この機能を使用できない場合があります。

1 **Internet Explorerを起動して、登録したいWebページまたはダイアログを表示します。**

「このページ（またはダイアログ）には、パスワードバンクの登録に・・・」というメッセージが表示されます。

2 **そのWebページまたはダイアログを開いたときに入力するユーザー IDやパスワードなどのデータを入力します。**

<入力欄のイメージ>

3 **指紋センサーで指紋を読み取って、バイオメトリックメニューを起動します。**

<バイオメトリックメニュー>

4　バイオメトリックメニューの［登録］をクリックします。

＜Webページを登録した場合＞

「このサイトは、パスワードバンクにxxxという名前で正常に登録されました」というメッセージが表示されます。

＜ダイアログを登録した場合＞

「登録は‘xxxに接続’という名前で保存されました」というメッセージが表示されます。

これでパスワードバンクにWebページやダイアログが登録されます。

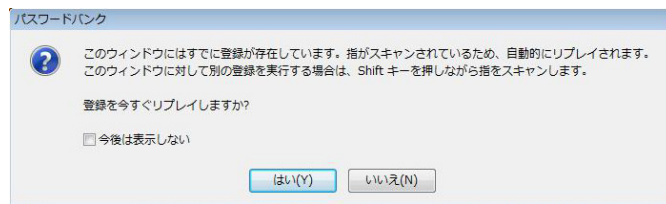
登録済みWebページの表示

パスワードバンクに登録したWebページやダイアログを表示する方法は次のとおりです。

ここでは、Internet Explorerを使用して、登録済みWebページを表示する方法を説明します。

1　Internet Explorerを起動して、登録したWebページまたはダイアログを表示します。

2　指紋センサーで指紋を読み取ります。

3　「パスワードバンク」画面が表示されたら、「はい」をクリックします。

Webページまたはダイアログは、ユーザーIDやパスワードが入力された状態で表示され、指定された動作が実行されます。

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機左側面には、1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tに対応したLANコネクタが標準で搭載されています。
本機のネットワーク機能（有線LAN）を使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する。
  - ・省電力状態に移行しないように設定する。
    p.163 「省電力状態に移行する方法」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。

おもな機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時やスリープ状態、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。電源切断状態からの復帰が正常にシャットダウンし、ACアダプタを接続した状態でのみ使用可能です。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsをインストールすることができます。

接続先の切り替え機能

本機を自宅や会社など複数の場所でネットワークに接続して使用する場合、接続先を簡単に切り替えることができます。設定した有線LANのネットワーク環境を「ネットワーク切替えツール」のプロファイルに登録して切り替えます。
p.133 「ネットワーク切替えツールを使う」

▶ネットワーク切替えツールを使う

会社や自宅など、複数のネットワーク環境で本機をご使用の場合、「ネットワーク切替えツール」を使って、ネットワークの接続を簡単に切り替えることができます。
ネットワーク切替えツールは、有線LANのネットワークを切り替える場合に使用します。

プロファイルの登録

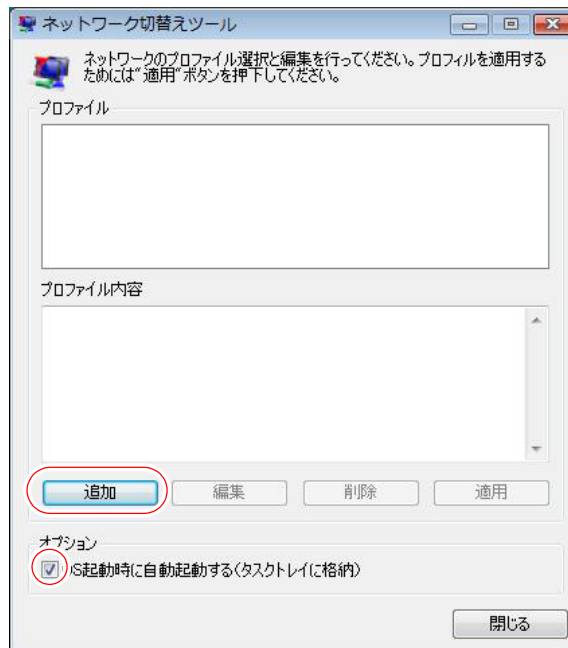
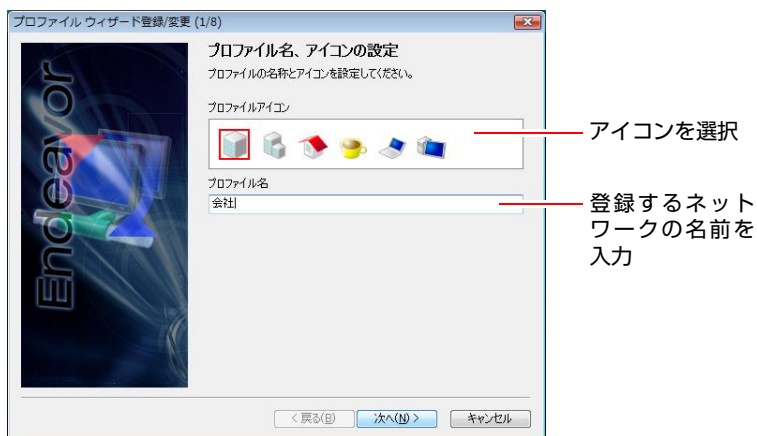
ネットワーク切替えツールでは、ネットワーク環境をプロファイルとして管理します。複数のネットワーク環境をプロファイルに登録して使用します。

プロファイルを登録する手順は、次のとおりです。

プロファイルの登録は、登録するネットワークに接続した状態で行ってください。

1 登録するネットワークに接続します。

2 [スタート] －「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックします。

3 「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、「OS起動時に自動起動する（タスクトレイに格納）」にチェックを付けて、[追加] をクリックします。

4 **「プロファイルウィザード登録/変更」画面が表示されたら、登録するネットワークのアイコンを選択し、名前を入力して、［次へ］をクリックします。**

5 **以降は、表示される画面の指示に従って、登録するネットワークの情報を入力してください。**

ネットワークの切り替え

プロファイルを登録した別のネットワークに接続したら、「ネットワーク切替えツール」のプロファイルを切り替えます。

切り替え方法は、次の2つです。

- 通知領域の次の「ネットワーク切替えツール」アイコンをクリックし、表示されたメニューから接続したネットワークのプロファイルをクリックします。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックし、「ネットワーク切替えツール」画面から接続したネットワークのプロファイルを選んで［適用］をクリックします。

無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）

無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。
本機には、IEEE802.11a/b/gの3つの規格に準拠した無線LAN機能が搭載されています。

対応規格

- IEEE802.11a（J52/W52/W53）
  5GHzの周波帯域で通信し、高速な転送速度を実現しています。家電製品と異なる周波帯域を使用するため、電波の干渉を避けることができます。
  ただし、電波法の規定により、屋内のみの使用に限られます。
- IEEE802.11b、IEEE802.11g
  IEEE802.11bは、従来より広く使用されている通信規格で、2.4GHzの周波帯域を使用します。IEEE802.11g は、同じく 2.4GHz の周波帯域を使用し、IEEE802.11bより高速な通信が可能です。

IEEE802.11aとIEEE802.11b/gでは互換性がありません。

▶無線LAN機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - ・手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
- 自宅療養など、医療機関以外で植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に入ると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・ 再起動する。
  ・ 省電力状態に移行しないように設定する。
  p.163 「省電力状態に移行する方法」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。
- IEEE802.11aとb/gでは、使用する周波帯域が異なります。データ通信を行う場合は、同じ方式での通信が可能かどうか、事前に確認してください。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートに対応していません。

電波に関する注意事項

無線LANをお使いの前に、次の電波に関する注意事項をお読みください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- IEEE802.11aは、電波法の規定により屋外では使用できません。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機の裏面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

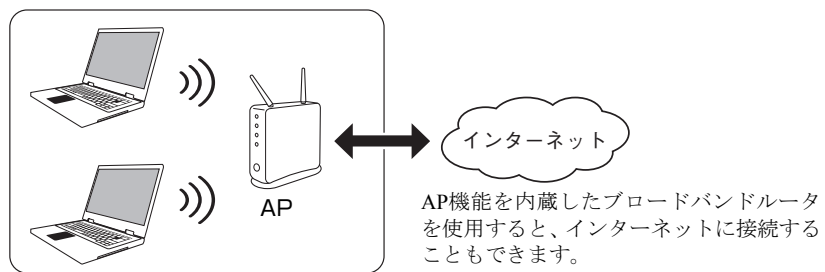
- IEEE802.11b/gを使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1 構内無線局（免許を要する無線局）
    2 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

● Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

無線LANによる通信の概要

無線LANでは、電波を送受信する無線LANアクセスポイント（以降、AP）を介して通信します。

無線LANのセキュリティの概要

無線LANは、電波を使用して通信するため、第三者に電波を傍受され、ネットワークに不正に侵入されたり通信データを盗み読みされたりする可能性があります。

p.11 「無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）」

ここでは、無線LANで通信する際に必要なセキュリティの概要について説明します。

SSID

SSIDとは、無線LANの名前です。ほかの無線LANと識別するために、AP側で任意のSSIDを設定します。

SSIDは、第三者でも簡単に読み取ることができるため、APにSSIDの非通知機能が搭載されている場合は、非通知にすることをおすすめします。

MACアドレスフィルタリング

ネットワーク製品には、MACアドレスという固有の番号がそれぞれ割り当てられています。MACアドレスフィルタリングとは、AP側に無線LANのMACアドレスを登録することでそれ以外のMACアドレスからのアクセスをAP側が拒否する機能です。

情報の暗号化（WEPキー /WPA/WPA2）

無線LAN通信をする場合、通信データを暗号化してデータが読み取られないようにします。まず、APで暗号化の設定を行い、コンピュータ側で同じ暗号化設定を行います。
暗号化には次のような方法があります。

● WEPキー
WEPキーを設定すると、データが暗号化されるため情報が傍受されにくくなります。WEPキーは従来から使用されている暗号化の規格です。

● WPA/WPA2
WPAは、WEPキーの機能をさらに強化した方式です。WPAでは、暗号鍵を一定時間ごとに自動更新するため、より安全です。
WPA2は、WPAの暗号化機能をさらに強化した方式です。

無線LAN機器に関する用語一覧
無線LAN機器のマニュアルによって設定項目の呼び方が異なる場合があります。本書での記述と無線LAN機器のマニュアルが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント（AP）	ワイヤレスLANステーションアクセスポイント、親機、各社の製品名称
インフラストラクチャ通信	アクセスポイント通信、 アクセスポイント経由通信
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、 サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠ぺい、SSIDを見せない設定、 SSIDマスクビーコン、SSIDステルス
WEPキー	WEP暗号化キー、暗号化キー
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限
キーインデックス	WEPキー番号、キー番号

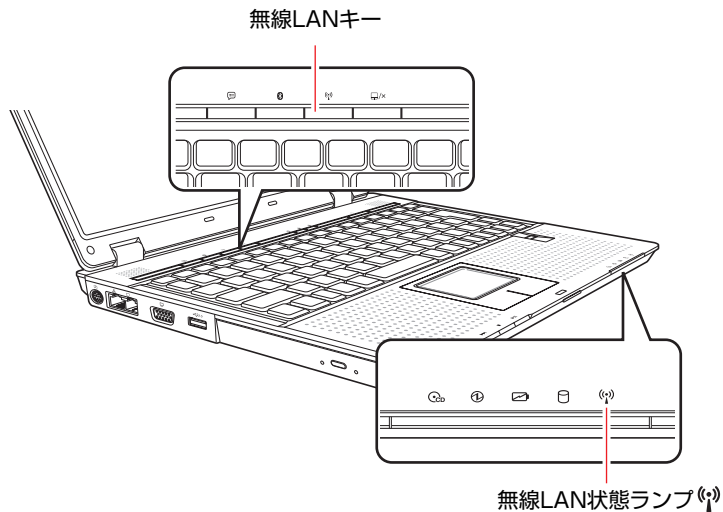
▶無線LANのON/OFF

航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電子機器や医療電気機器に影響をおよぼす場合があります。

次のような場合は、無線 LAN を OFF にしてください。
- 航空機や病院など、使用を禁止された区域に持ち込む場合
- ネットワーク（有線LAN）に戻して使用する場合

2

無線LANをONにする

無線LANを使用する場合は、無線LANキーを押して、無線LANをONにします。
購入時には、無線LANがOFFに設定されています。

無線LAN状態ランプ

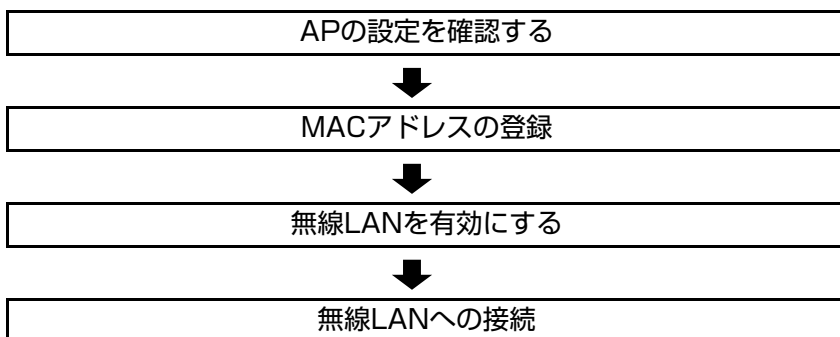
無線LANの通信状態は、無線LAN状態ランプ（）で確認できます。

無線LANの状態	無線LAN状態ランプ
AP接続中（ON）	点　灯
AP検索中（ON）	点　滅
無　効（OFF）	消　灯

▶無線LANで接続する

ここでは、本機の無線LAN機能を使ってAPに接続するための方法について説明します。

無線LAN接続の作業の流れ

無線LANで接続するための作業の流れは次のとおりです。

APの設定を確認する

コンピュータ側で設定を行う際に、APに登録されている「SSID」や「WEPキー」、「WPA」などの設定内容を入力する必要があります。APに添付のマニュアルを参照して、「SSID」と「暗号化」の設定を確認しておいてください。

MACアドレスの登録

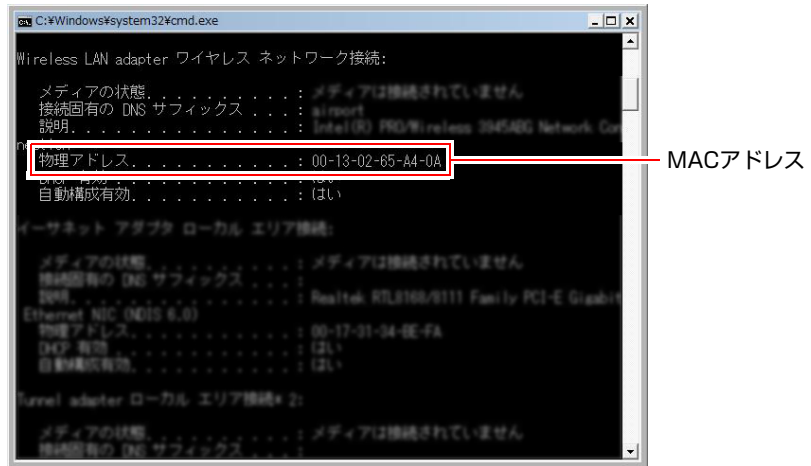
本機の無線LANのMACアドレスをAPに登録するために、MACアドレスを確認します。MACアドレスの確認方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。

2 コマンドプロンプトが表示されたら、「C:¥・・・>」のあとに次のように入力して、[↵]を押します。

ipconfig□/all　（□は、スペースを意味します。）

3 **無線LANアダプタのMACアドレス（物理アドレス）が表示されるので、確認して書き写します。**

複数ネットワークアダプタがある場合は、各アダプタの物理アドレスが個別に一覧表示されます。

4 **書き写したMACアドレスをAPに登録します。**

APへの登録方法は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

無線LANを有効にする

本機の無線LANがOFFに設定されている場合は、無線LANをONにしてください。

p.139 「無線LANのON/OFF」

無線LANへの接続

Windowsの標準機能を使って、無線LANに接続します。
無線LANに接続する方法は次のとおりです。ここでは、自動的にプロファイルを作成して接続する方法を説明します。

1 **［スタート］－「接続先」をクリックします。**

2 **「ネットワークに接続」画面が表示されたら、接続するAPを選択し、[接続]をクリックします。**

APがSSID（ネットワーク名）非通知機能を有効にしている場合は、プロファイルを作成してからネットワークに接続してください。プロファイルを作成したネットワークが本機のネットワークの範囲内にあれば、「ネットワークに接続」画面に表示されます。

p.142「プロファイルを作成して接続する」

<イメージ>

3 **「・・・のネットワークセキュリティキーまたはパスフレーズを・・・」と表示されたら、セキュリティキーまたはパスフレーズを入力して、[接続]をクリックします。**

セキュリティキーまたはパスフレーズ（WEPキーなどの暗号化キー）は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

4 **「・・・に正しく接続しました」と表示されたら、「この接続を自動的に開始します」にチェックが付いた状態で［閉じる］をクリックします。**

これで、無線LANへの接続は完了です。

▶プロファイルを作成して接続する

複数のネットワーク環境でネットワークに接続したい場合やAPがSSID（ネットワーク名）非通知機能を有効にしている場合に、ネットワーク環境をプロファイルとして登録しておくと、簡単にネットワークに接続できるようになります。

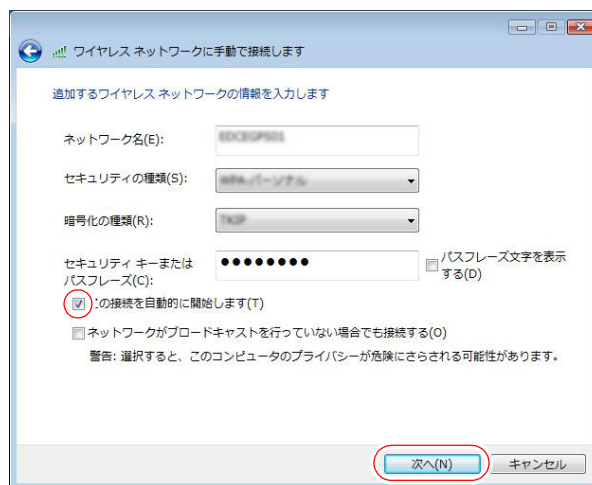
プロファイルの作成方法は、次のとおりです。

1 **[スタート] －「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」－「ワイヤレスネットワークの管理」をクリックします。**

2 **「使用するワイヤレスネットワークを管理します」と表示されたら、「追加」をクリックします。**

3 **「どのような方法でネットワークを追加しますか？」と表示されたら、「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックします。**

4 **「追加するワイヤレスネットワークの情報を入力します」と表示されたら、接続するAPで設定されているセキュリティ情報を入力します。**

APのセキュリティ情報は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

(1)「ネットワーク名（SSID）」を入力します。
(2)「セキュリティの種類」を選択します。
(3)「暗号化の種類」を選択します。
「セキュリティの種類」で選択した内容によっては、選択する必要はありません。
(4)「セキュリティキーまたはパスフレーズ」がAPで設定されている場合は、入力します。
(5)「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。

5 **「正常に・・・を追加しました」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。**

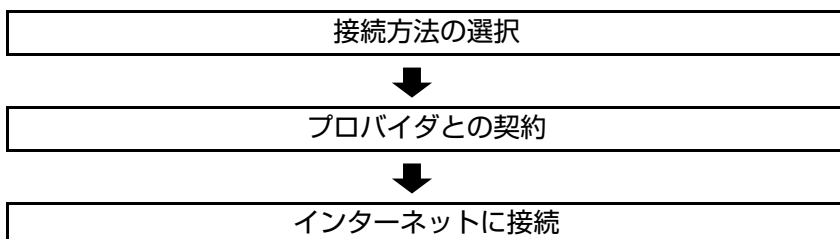
これで、プロファイルの作成は完了です。

2

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続方法やインターネットを利用する上での注意事項について説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。
接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダに確認してください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと呼び、光ファイバー、ADSL、CATVなどでの接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと呼びます。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー（FTTH）
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- ADSL
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- CATV
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- そのほかの接続方法（ナローバンド）
  ほかにもアナログ電話回線やISDN回線を使った低速な接続方法があります。

ダイヤルアップ接続
ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と呼びます。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順を記載した説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータが障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、コンピュータが障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法については、p.149 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Windowsメール

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

☞「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Windowsメールの初期設定

Windowsメールをはじめて起動した際は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1　次のいずれかの方法でWindowsメールを起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windowsメール」
- Fn+F3（✉）を押します。

2　「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。

3　「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

4　「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。

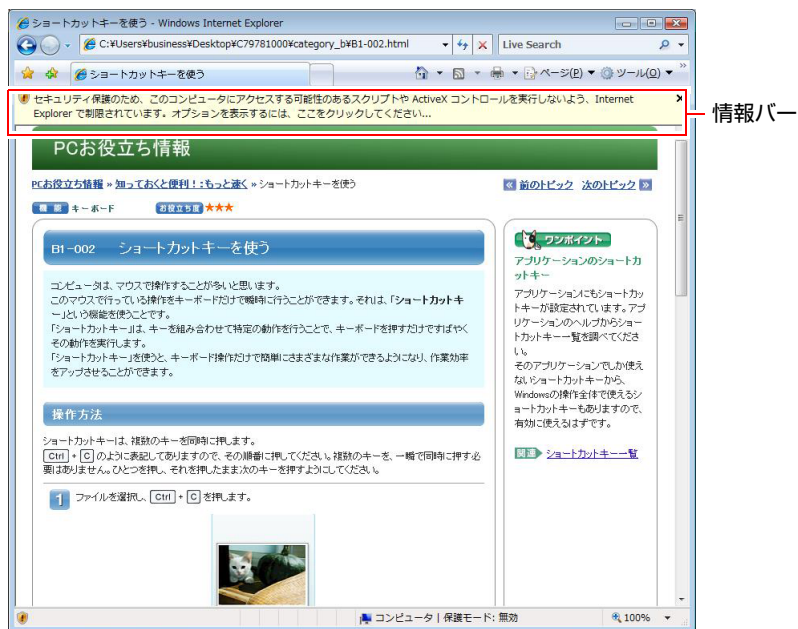
5　「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているユーザー名とパスワードを入力して［次へ］をクリックします。

6　「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

設定を変更する
一度行った設定は、次の場所から変更することができます。
「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「電子メールアカウント」

2

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。

＜画面はイメージです＞

Internet Explorerの便利な追加機能

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「簡単検索JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。

● gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際のコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。
ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶Windows Update

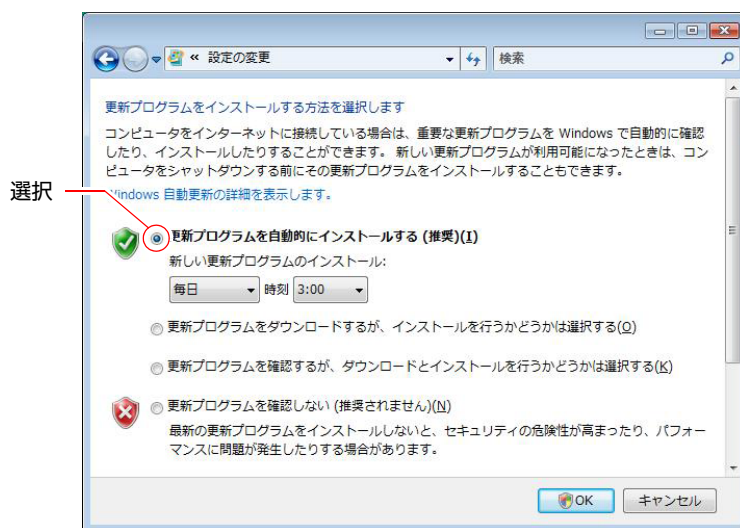
「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

自動更新の設定

本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。
自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。

Windowsのセットアップ時に「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」－「設定の変更」

手動で更新プログラムをインストールする

重要度の高い更新プログラムは自動更新でインストールされますが、それ以外の更新プログラムは手動でインストールする必要があります。

更新プログラムがダウンロードされると、画面右下の通知領域に「Windows Update」アイコンが表示されます。

＜Windows Updateアイコン＞

アイコンをクリックして表示される「Windows Update」画面で更新プログラムを確認し、必要に応じてインストールを行ってください。

▶セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。「Norton Internet Security 90日版」の使い方は、本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスについての詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」はインストールしないでください。
インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法については、本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんや破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」をインストールすると、自動的にファイアウォール機能が有効になります。そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合＞
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合＞
Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート]－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows ファイアウォール」－「設定の変更」

▶Windows Defender

Windows Vistaには、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。
「Norton Internet Security 90日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defenderが自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。
スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defenderを使用してください。

Windows Defenderは次の場所から起動します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows Defender」

▶フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報を搾取する詐欺のことです。
本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

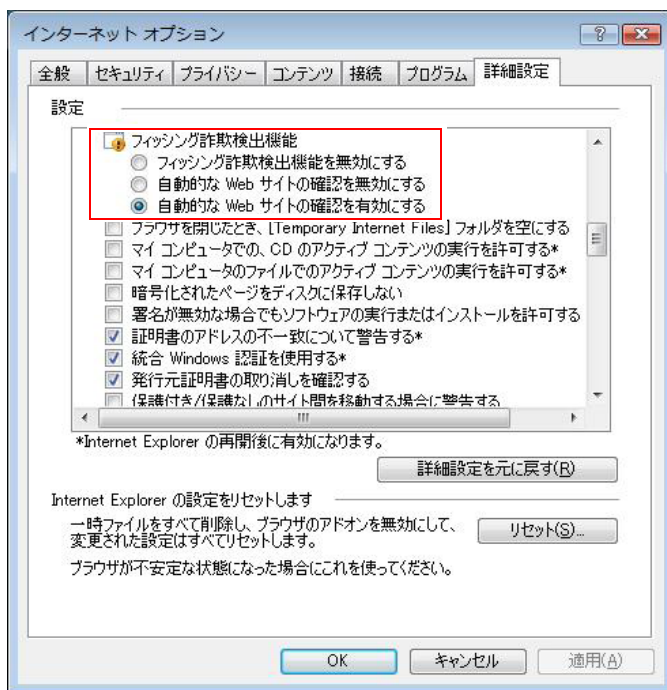
Norton Internet Security 90日版のフィッシング詐欺検出機能

本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。機能を「有効」にしてお使いください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」のフィッシング詐欺検出機能を「有効」にしている場合は、機能が重複するため、Internet Explorerの機能は自動で「無効」に設定されます。そのまま使用してください。
フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorerの機能を「有効」に設定してください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能の有効／無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorerの「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」

FAXモデムを使う

本機には56Kbps（V.92対応）の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されていて、ナローバンドでの通信が可能です。ここでは、FAXモデムを使用し、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続するための設定について説明します。

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。
- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

2

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）
  回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）
  押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- PBXやホームテレホン回線への接続
  本機のFAXモデムは、構内交換機（PBX）やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。
- キャッチホンサービスについて
  NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92＊通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、48000bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
＊V.92 ：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windowsの通信機能を使用する場合は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドについては、p.264「ATコマンドの使用」をご覧ください。

▶ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2 **「所在地情報」画面が表示されたら、「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定して［OK］をクリックします。**

3 **「電話とモデムのオプション」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、［プロパティ］をクリックします。**

4 **「（モデムの名称）のプロパティ」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、「ダイヤルの管理」項目ー「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外し、［OK］をクリックします。**

これでダイヤル情報の設定は終了です。
インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定が必要です。
p.157 「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

▶手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPPパスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ（POP3）
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ（SMTP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「接続先」をクリックします。**

2 **「接続またはネットワークをセットアップします」をクリックします。**

3 **「接続オプションを選択します」と表示されたら、「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択し、［次へ］をクリックします。**

4 **「インターネットサービスプロバイダ（ISP）の情報を入力します」と表示されたら、プロバイダからの資料をもとに、次の項目を入力します。**

- ダイヤルアップの電話番号
- ユーザー名
- パスワード
- 接続名（アクセスポイント（プロバイダ）の名前）

5 **［接続］をクリックすると、インターネットへの接続が開始します。**

6 「インターネットに接続されています」と表示されたら、接続完了です。[閉じる]をクリックして画面を閉じます。

7 「(接続先の名前)ネットワークの場所を選択します」と表示されたら、場所をクリックします。

8 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]をクリックします。

9 「ネットワーク設定が正しく設定されました」と表示されたら、[閉じる]をクリックします。

10 インターネット接続を終了する場合は、[スタート]－「接続先」－「(手順4で設定した接続名)」をクリックし、[切断]をクリックします。

DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合

プロバイダから、DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は、次の設定を行います。

1 [スタート]－「接続先」をクリックします。

2 「ネットワークに接続」画面が表示されたら、(接続名)を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「(接続名)のプロパティ」画面が表示されたら、次の設定を行います。

(1) 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」の[プロパティ]をクリックします。
(2) 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
(3) 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

4 「全般」タブ－「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて、[OK]をクリックします。

これでDNS（ネーム）サーバのアドレス設定は完了です。

▶接続に関する詳細設定

ダイヤルアップ接続の設定をしたら、接続に関する詳細設定を行います。

- **接続方法の設定**
  電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。
- **切断画面の設定**
  Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット」－「インターネットオプション」－「接続」タブをクリックします。

2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
（接続方法の設定）

3 ［設定］－［詳細設定］をクリックします。

4 「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。（切断画面の設定）

5 「（接続先の名前）の設定」画面で［OK］をクリックします。

6 「インターネットのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。

2

電源設定を行う（省電力機能を使う）

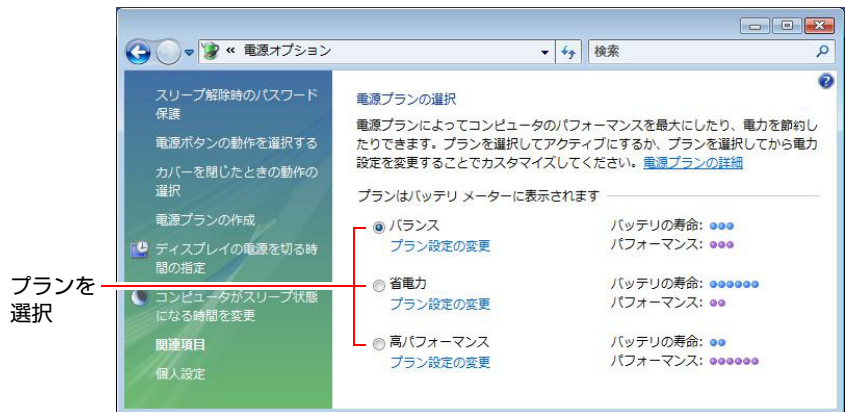
ここでは、本機の電源の設定について説明します。

▶電源プランの設定

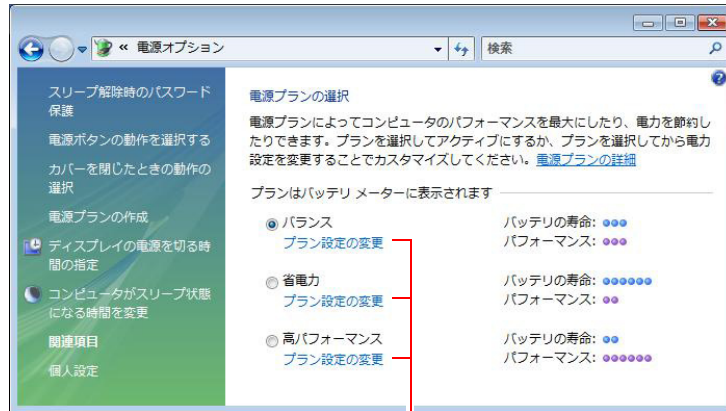
本機には、次の3つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。使い方にあわせた電源プランを選択して本機を使用してください。

- **バランス**
  パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。
- **省電力**
  コンピュータの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。
- **高パフォーマンス**
  電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」

購入時は「バランス」に設定されています。

電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。

プラン内容の変更

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定や、LCD画面の輝度の調節などを行うことができます。

p.163 「省電力状態に移行する方法」

▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。特にバッテリだけで使用している場合は、本機を省電力状態にしておくことで使用時間を延ばすことができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の制限

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に、必ず確認してください。

- 周辺機器を接続している場合やアプリケーションを起動している場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態に復帰できない場合があります。
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 再起動する。
  - 省電力状態に移行しないように設定する。
    p.163 「省電力状態に移行する方法」

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書など）は保存しておいてください。
- FAX モデムやネットワーク機能などを使って通信を行っている場合は、省電力状態に移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音・再生している場合に、省電力状態に移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 光ディスクメディアへの書き込み中に省電力状態に移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.163 「省電力状態に移行する方法」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- **ディスプレイの電源を切る**

  省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- **スリープ状態**

  作業内容をメモリに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。スリープ状態で18時間経過した場合、またはバッテリ切れした場合は、自動的にメモリの内容がHDDに書き込まれ、本機は「休止状態」になります。
- **休止状態**

  作業内容をHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

▶省電力状態に移行する方法

本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピュータを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピュータがスリープ状態になります。
省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピュータをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所で変更することができます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」

時間経過で移行させない
光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間を全て「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
［スタート］－［⏻］をクリックする	スリープ状態（初期値）
電源スイッチ（⏻）を押す	
Fn + F1（zZ）を押す	
LCDユニットを閉じる	
［スタート］－［▶］から項目を選択する	スリープ状態、休止状態、シャットダウン

各操作を行ったときに移行する省電力状態の種類は、次の場所で変更することができます。初期値はすべて「スリープ状態」になっています。

［スタート］－［コントロールパネル］－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源ボタンの動作を選択する」

バッテリ低下時に移行する

本機が「バッテリ低下」の状態になったとき、省電力状態に移行するよう、設定することもできます。

p.64「バッテリ低下時の設定変更」

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ（⏻）で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯
スリープ状態	点滅
休止状態	消灯
電源切断時（シャットダウン時）	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯	タッチパッドやキーボードを操作する
スリープ状態	点滅	・電源スイッチを押す ・キーボードを操作する
休止状態	消灯	電源スイッチを押す

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

IEEE1394コネクタ

本機右側面にはIEEE1394コネクタ（4ピン）が1個用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

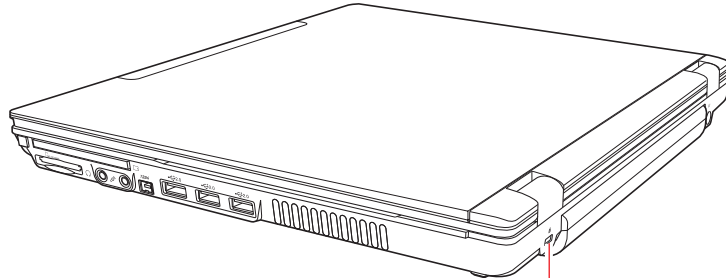
IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、通知領域にアイコン（「取り外し」アイコンなど）が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

＜取り外しアイコン＞

スピードステップ機能

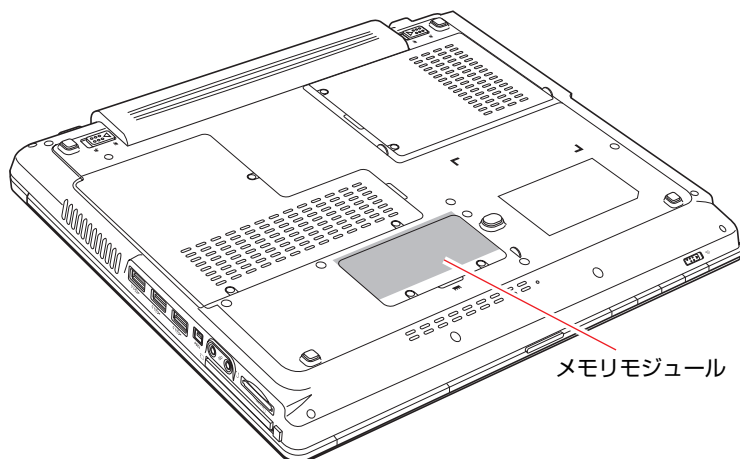
本機では、「スピードステップ」機能が自動的に機能しています。スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせて、CPUの処理速度を自動で調整する機能です。
CPUの使用率が少ないときは、CPUの処理速度を抑え、消費電力を少なくします。また、CPUの使用率が高いときはCPU処理が高速になります。

セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。
専用の盗難抑止ワイヤーは、当社ホームページで購入することができます。
http://epsondirect.jp

第3章
システムの拡張

アップグレードサービスや本機に接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機内部に、次の装置を増設・交換して、機能を拡張することができます。

メモリモジュール

本機には512MBの内蔵メモリのほかに、本機底面に増設用メモリスロット1本が用意されています。最大1536MB（512MB内蔵メモリ＋1GB増設メモリ）までメモリを拡張できます。

p.171 「メモリの装着」

本機は、ご自身でメモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービスについて

当社ではコンピュータをお預かりして装置の増設・交換をする、アップグレードサービスを有償で行っています。
本機のアップグレードサービスは、次のとおりです。

- メモリ　：増設・交換
- 内蔵HDD　：交換
- 光ディスクドライブ：交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
ご自身での装置の交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で、使用可能なメモリの仕様と取り付け方法について説明します。

メモリの仕様

本機底面には、メモリスロットが1本用意されていて、メモリの増設または交換をすることができます。
メモリを増設する場合は、下記仕様と一致するメモリを、当社のオプション一覧より選択してください。

- PC2-4200 SODIMM（DDR2-533 SDRAM使用、200ピン）
- メモリ容量　256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- CL=4

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。
http://epsondirect.jp

作業時の注意

メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）の増設・交換をする場合は、次の点に注意してください。

- 電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま分解しないでください。感電や火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- コンピュータ内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設・交換

メモリの増設・交換は、次の手順で行います。

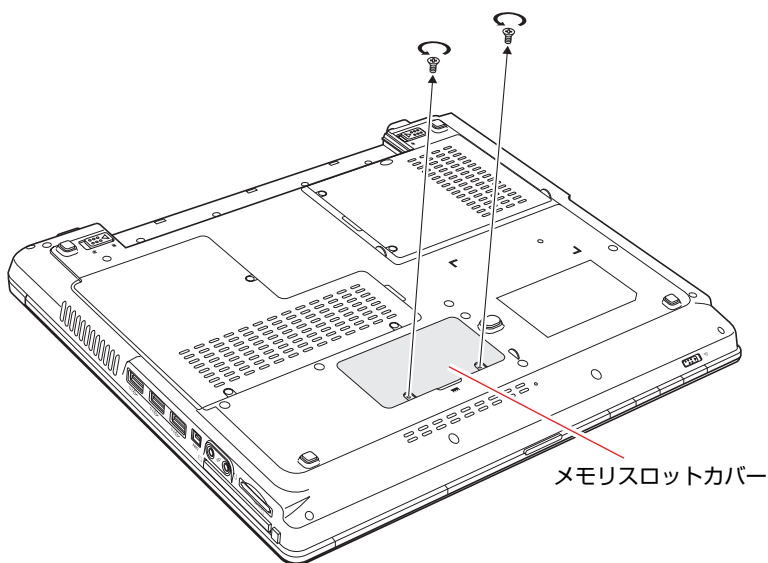
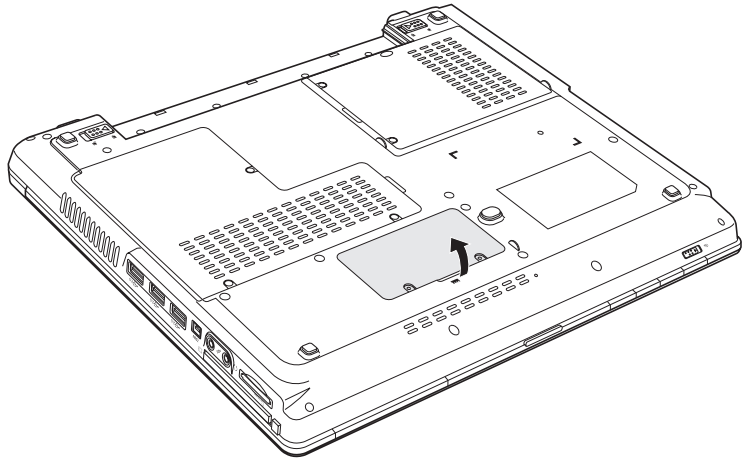
メモリの取り付け

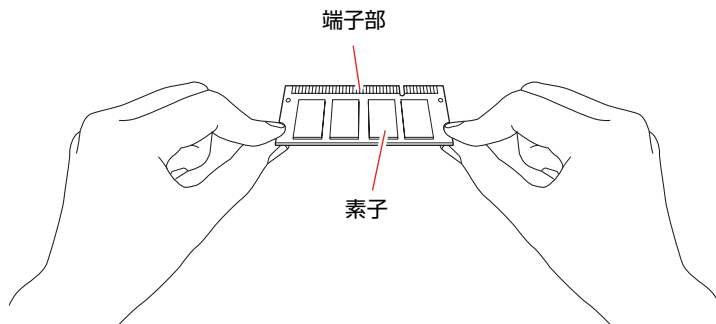
1 本機の電源を切ります。

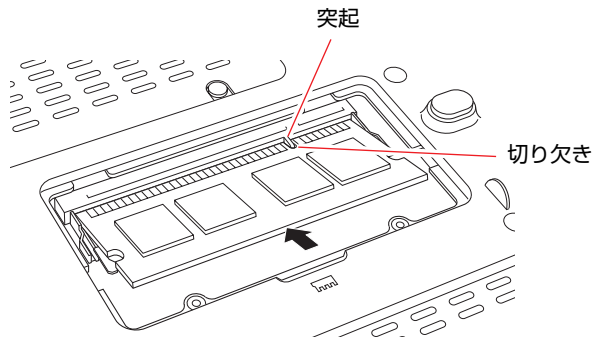
2 接続しているすべてのケーブルを外します。

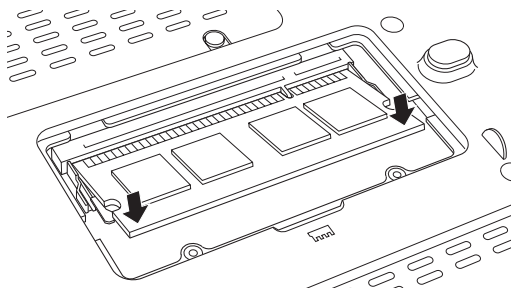
3 本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。

p.67「バッテリの交換」

4 メモリスロットカバーのネジ（2本）を外します。

5 メモリスロットカバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。

6 増設するメモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

7 メモリを、メモリスロットに差し込みます。

切り欠きを突起にあわせ、メモリを約15度の角度でメモリスロットに差し込みます。

8 **メモリを静かに倒します。**

正しく装着すると「カチッ」と音がして固定タブに固定されます。

9 **メモリスロットカバーを取り付け、ネジ（2本）で固定します。**

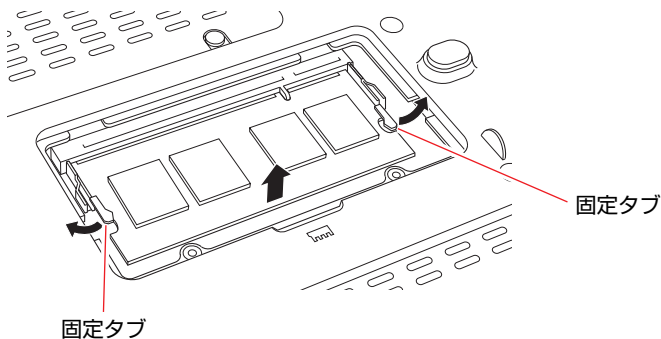
10 **取り外したバッテリと、ケーブル類を元に戻します。**

p.67 「バッテリの交換」

11 **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。**

p.175 「メモリの増設・交換後の作業」

メモリの取り外し

1 **メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。**

2 **起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。**

取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

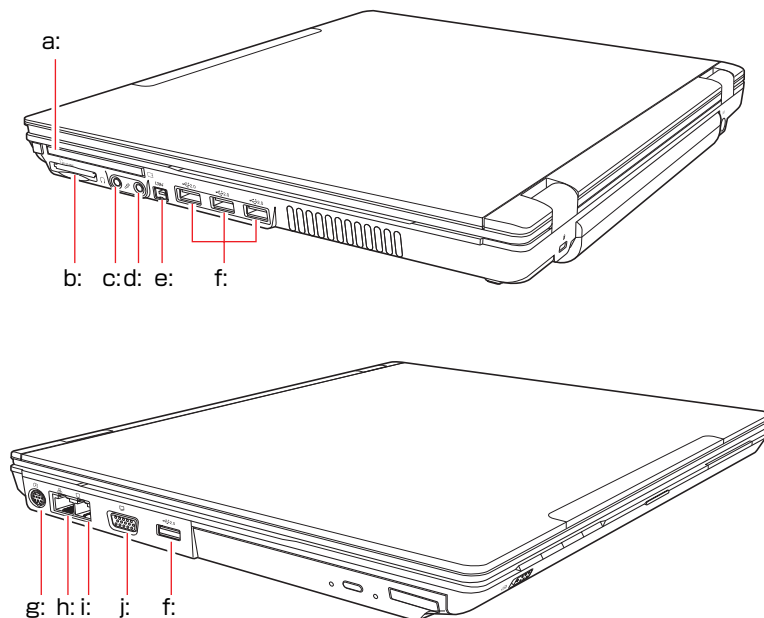
1 **コンピュータの電源を入れたら、F2 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.179 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2 **「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。**

総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。

外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。
接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

a: PCカードスロット
- PCカード
  PC Card Standard準拠のPCカード（Type II）が利用できます。

b: メモリカードスロット
- メモリースティック（メモリースティックPro対応）
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

c: ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン
- MDデッキ

d: マイク入力コネクタ
- マイク

e: IEEE1394コネクタ
- DV機器
  IEEE1394対応機器が接続できます。

f: USB2.0コネクタ
- USB FDD
- プリンタ
- USBマウス
  USB対応機器が接続できます。

g: S-ビデオ出力端子
- テレビ

h: LANコネクタ
- ネットワーク

i: モデムコネクタ
- 電話回線

j: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ
- ビデオプロジェクタ

そのほかの接続可能な周辺機器

本機には以下の機器が接続できます。

- 無線LAN対応機器（無線LAN搭載時のみ）
- Bluetooth対応機器

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能を有効/無効にした場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。
設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。
  p.193「BIOS Setup ユーティリティの設定値」
- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Optimal Defaults」（初期値に戻す）または「Discard Changes」（前回保存した設定値に戻す）を実行することで、もとの値に戻すことができます。
  p.183「設定値を元に戻すには」
- 当社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

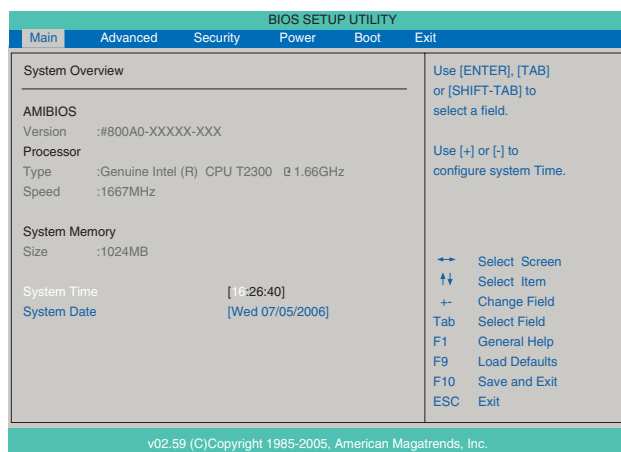
本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。手順2では、すばやく F2 を押す必要があります。

1 **本機の電源を入れます。**

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2 **本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**

BIOS Setupユーティリティ（イメージ）

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、起動時に次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行して終了します。

p.186 「BIOS Setupユーティリティの終了」

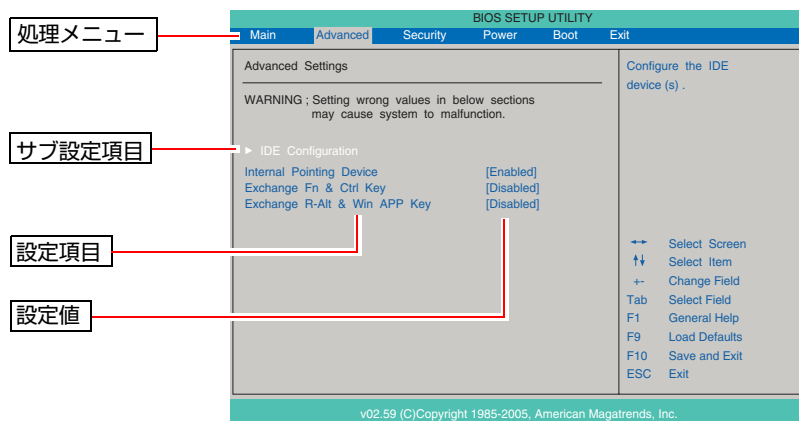
F1 を押すとWindowsが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

4

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

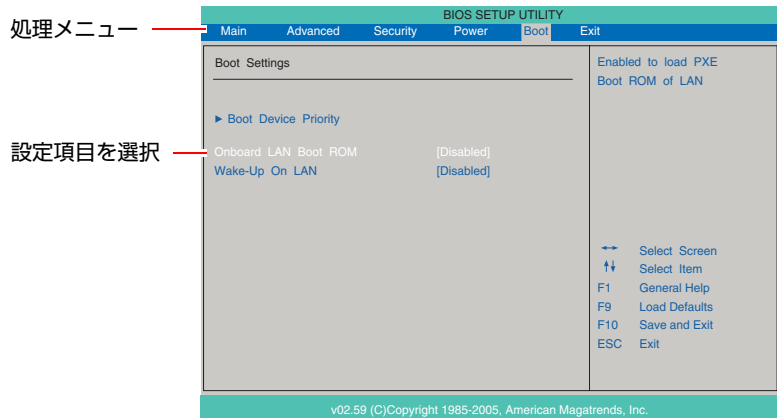
BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。

＜メニュー画面＞

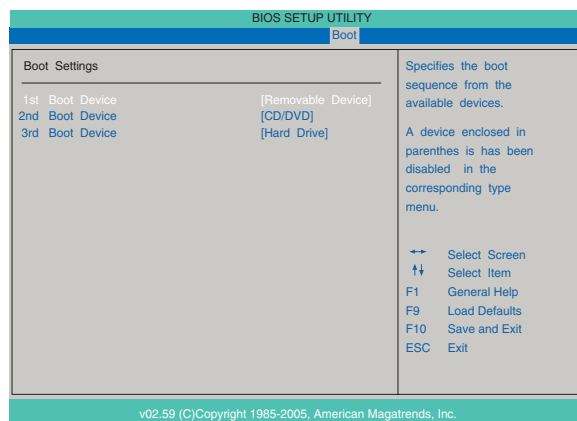
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は、p.187「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の操作方法

「BIOS Setupユーティリティ」の操作方法は、次のとおりです。

1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

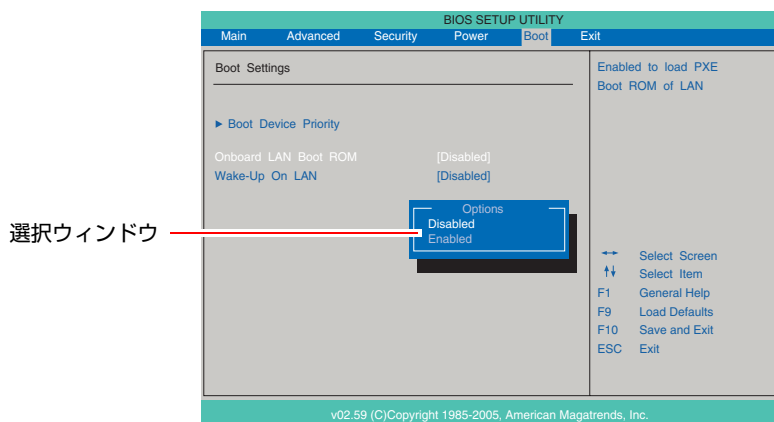
【→】【←】でメニュー間を移動します。
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、【↵】を押すとサブメニュー画面が表示されます。
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには【Esc】を押します。

4

2 設定値を変更します。

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し、[↵]で決定します。

キー操作一覧

BIOSの画面では、次のキーを使って操作を行うことができます。

キー	操作できる内容
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了するか確認するメッセージを表示します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-] [Fn]+[+]	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[F1]	ヘルプを表示します。
[F7]	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に戻します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶設定値を元に戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Optimal Defaults	
［Ok］	［Cancel］

2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、［Ok］を選択して ↵ を押します。
変更しない場合は［Cancel］を選択して ↵ を押します。

次のような場合は、Load Optimal Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

- セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合
  メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にするため、「Security」メニュー画面－「TPM Security」を「Enabled」に設定します。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。
p.186「Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 BIOS の設定を前回保存した値に戻す場合は、［Ok］を選択して ↵ を押します。
変更しない場合は［Cancel］を選択して ↵ を押します。

▶Passwordの設定

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。
パスワードの設定は、「BIOS Setupユーティリティの設定項目」の「Security」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

p.189 「Securityメニュー画面」

パスワード入力時の注意

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更

管理者パスワードおよびユーザーパスワードを設定すると、「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。
管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter Password
```

2 **パスワードを入力し、↵ を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

3 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、[↵]を押します。**

Confirm Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で[↵]を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。

4 **「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で[↵]を押します。**

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

管理者パスワードの削除

管理者パスワードを削除する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」起動時に管理者パスワードを入力してください。

1 **「Change Supervisor Password」を選択して[↵]を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter Password

2 **何も入力せずに[↵]を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Password uninstalled.
［Ok］

3 **「Ok」が選択された状態で[↵]を押します。**

「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。

ユーザーパスワードの削除

1 **「Clear User Password」を選択して、[↵]を押すと、次の画面が表示されます。**

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して、[↵]を押します。「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。**

これで、ユーザーパスワードが削除されます。

4

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」の終了方法には、次の2つがあります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 **F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Save configuration changes and exit now?
［Ok］　　　　［Cancel］

2 **［Ok］を選択し、↵ を押します。**

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 **Esc を押す、または［Exit］メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard configuration changes and exit now?
［Ok］　　　　［Cancel］

2 **変更した設定値を保存せずに終了する場合は、［Ok］を選択し、↵ を押します。**

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Powerメニュー画面
- Bootメニュー画面
- Exitメニュー画面

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付と時刻の設定を行います。
設定項目と詳細は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

AMI BIOS	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日 月/日/年）の順で表示されています。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目と詳細は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

項目		説明
IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Primary IDE Slave	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*SMART Monitoring	SMART（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Audio DJ Interface		コンピュータの電源が切れた状態で音楽CD再生機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled：音楽CD再生機能を使用します。 Disabled：音楽CD再生機能を使用しません。
Exchange Fn & Ctrl key		キーボードの左下側にあるFnキーと、その隣にあるCtrlキーの機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Enabled：FnキーとCtrlキーの機能を入れ替えます。 Disabled：FnキーとCtrlキーの機能を入れ替えません。
Exchange R-Alt & Win APP key		キーボードの右下側にあるAltキーと、その隣にあるアプリケーションキーの機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Enabled：Altキーとアプリケーションキーの機能を入れ替えます。 Disabled：Altキーとアプリケーションキーの機能を入れ替えません。

▶Securityメニュー画面

システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.184「Passwordの設定」をご覧ください。

「Security」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

＊Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed：パスワードが設定されていません。 Installed：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーが「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスすることを4段階で制限します。 No Access：「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。 View Only：「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited：「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 ↵ を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup：「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always：「BIOS Setupユーティリティ」やWindows起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。

項目		説明
Boot Sector Virus Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。書き込みを禁止すると、ウイルスがHDDのブートセクタ（システム領域）への感染を防ぐことができます。 Disabled : 書き込みを許可します。 Enabled ：書き込みを禁止します。
TPM Security		セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。 Disabled : セキュリティチップを使用しません。 Enabled ：セキュリティチップを使用します。
TPM Security Clear		「TPM Security」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化（消去）します。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。 セキュリティチップの初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。 ↵ を押すと初期化確認ウィンドウが表示されます。
I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。 「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	Audio/Modem	サウンド機能とFAX モデム機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : サウンド機能とFAX 機能の使用を可能にします。 LOCKED : サウンド機能とFAX 機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED : LAN 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN （無線LAN搭載時のみ表示）	無線LAN 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : 無線LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED : 無線LAN 機能の使用を不可にします。
	PC Card/SD/MS/ MMC/IEEE1394	PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にします。 LOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394 機能の使用を不可にします。
	USB	USB 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : USB機能の使用を可能にします。 LOCKED : USB機能の使用を不可にします。
Hard Disk Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDD保護のパスワードの有効・無効を設定します。有効に設定すると、「BIOS Setupユーティリティ」やWindows起動時に設定したパスワードの入力を要求します。 Disabled : パスワード入力を要求しません。 Enabled ：パスワード入力を要求します。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、バッテリのリフレッシュを行います。

項目	説明
Start Battery Calibration (バッテリのリフレッシュの実行)	バッテリのリフレッシュを行う場合に実行します。 p.66 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

Bootメニュー画面

Bootメニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する項目を設定します。
「Boot」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

項目		説明
Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Dev.」またはFDDの型番（オプションのUSB FDDを接続している場合）です。
	2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されている光ディスクドライブの型番です。
	3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、HDD の型番です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定すると表示されます。初期設定は「Realtek Boot Agent」です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。電源切断状態からの起動は、正常にシャットダウンし、ACアダプタを接続した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 起動しません。 Enabled ：起動します。

起動するドライブとは

「Boot」メニュー画面の「Boot Device Priority」では、順番にシステムを検出し、起動（boot）するドライブを設定しています。
コンピュータが、[1st Boot Device]、[2nd・・・] という順番でドライブを検出して、システムが見つかったドライブからシステムを起動します。
設定内容は、サブメニューに表示される項目を設定しなおすことで変更することができます。
サブメニューには、次のような項目が表示されます（購入時のシステム構成により異なります）。

- Removable Dev.またはUSB FDDの型番（オプションのUSB FDDを接続している場合）
- 接続されている光ディスクドライブの型番
- 接続されているHDDの型番
- Disabled(検出するドライブなどを割り付けないときに設定します。)

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Audio DJ Interface	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange Fn & Ctrl key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win APP key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
*User Access Level		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
*Password Check		Setup	Always	Setup	Always
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
TPM Security		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
I/O Interface Security	Audio/Modem	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	PC Card/SD/MS/MMC/IEEE1394	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

*「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

4

第5章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールしなくても、問題が解決する場合があります。

p.242 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストールの方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールの際には、次のメディアが必要です。

- **Windows VistaリカバリDVD**
  Windows Vistaが登録されているDVD-ROMです。

- **リカバリツールCD**
  本体ドライバやソフトウェアをHDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが登録されているCD-ROMです。

- **そのほか必要なメディア**
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に登録されています。
専用のメディアは添付されていません。
p.27 「添付されているソフトウェア」
HDDの消去禁止領域に登録されているドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルで、ソフトウェアの再インストールを行う際は、外付けの光ディスクドライブが必要です。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

Windows
p.200 「Windowsのインストール」

⬇

リカバリツール
p.204 「リカバリツールのインストール」

⬇

本体ドライバ
p.205 「本体ドライバのインストール」

⬇

5

Adobe Reader
p.206 「Adobe Readerのインストール」
セキュリティソフトウェア
p.207 「セキュリティソフトウェアのインストール」
JWord Plugin
p.207 「JWord Pluginのインストール」
Nero 7 Essentials
p.208 「Nero 7 Essentialsのインストール」
WinDVD
p.208 「WinDVDのインストール」
マニュアルびゅーわ
p.209 「マニュアルびゅーわのインストール」
gooスティック
p.209 「gooスティックのインストール」
そのほかの作業
p.210 「そのほかの作業」

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

コンピュータの管理者（Administrator）権限でログオン

インストール作業は、管理者（Administrator）のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：FDD（オプション）
Cドライブ　：HDD
Dドライブ　：光ディスクドライブ

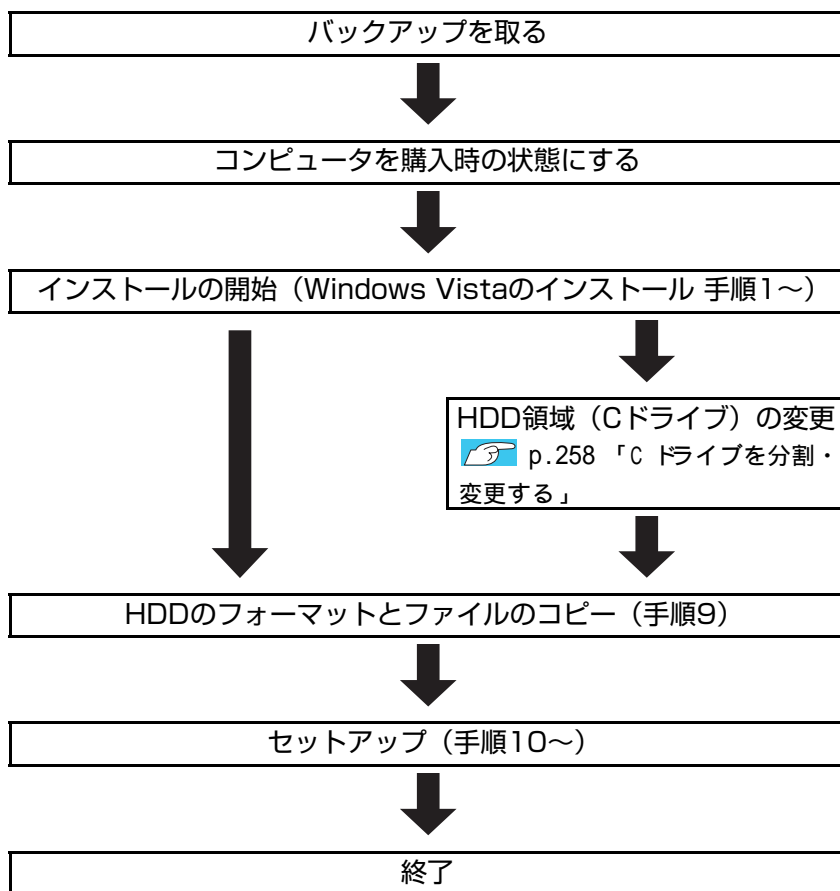
各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと設定した事項が、元に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

p.201「バックアップを取る」

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.201「Windows Vistaをインストールする」以降の手順に従って行ってください。

HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、p.255「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

Windows Vistaをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- ネットワークやモデムの設定
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- Internet Explorerの「お気に入り」、Windowsメールの「連絡先」「メールデータ」
  p.249「データのバックアップ」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- セキュリティチップユーティリティの設定
  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。
  『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』－「Windowsを再インストールする前に」
- 重要なデータ
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータをバックアップすることをおすすめします。
  p.249「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。コンピュータを購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

指紋を削除する

指紋認証機能を使用していた場合には、Windowsの再インストールを行う前に、すべての指紋を必ず削除してください。指紋の情報が残っていると、Windows再インストール後の起動時に、残った情報での指紋認証を要求されます。

p.129「指紋の追加登録・変更・削除」
p.238「指紋認証機能の不具合」

Windows Vistaのインストール

Windows Vistaのインストールは、次の手順で行います。

1　コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示されたら、[×]をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

2 **「スタート」－［▶］－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、［次へ］をクリックします。**

ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で［次へ］をクリックします。**

6 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。**

7 **「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、［再インストール］をクリックします。**

8 **「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。**

9 **「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

(1)「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。

(2)「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。

(3)「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、［OK］をクリックします。

フォーマットが開始されます。

(4) フォーマットが終了すると、［次へ］がクリックできる状態になります。「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で［次へ］をクリックします。

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

＜領域変更を行う場合＞

p.258「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

10 「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、［次へ］をクリックします。

p.43 「セットアップ中に入力する項目について」

11 「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、［次へ］をクリックします。

p.43 「セットアップ中に入力する項目について」

12 「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

13 「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、［次へ］をクリックします。

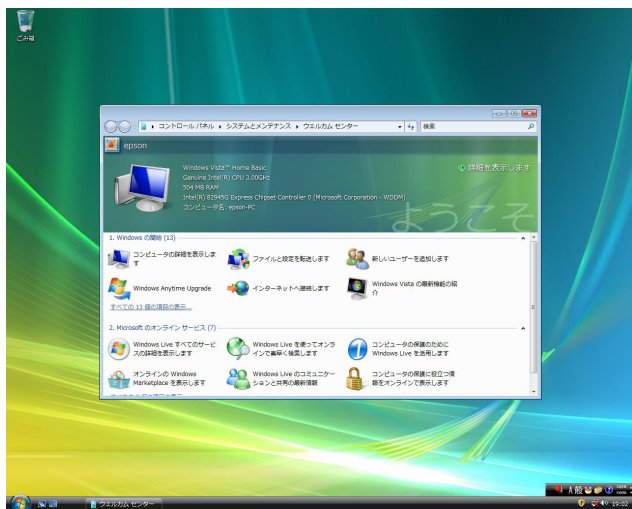
14 ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。

15 「ありがとうございます」と表示されたら、［開始］をクリックします。

設定が行われます。設定には約5分かかります。

16 手順 10 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、［↵］を押します。

17 Windows Vistaのデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows Vista リカバリDVD」を取り出します。

デスクトップの背景は、手順11で選択した背景が表示されます。

これでWindows Vistaのインストールは完了です。

5

18 **手順9で領域変更を行った場合は、未割り当ての領域に領域（パーティション）を作成します。**

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。

p.259「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Setup.exe の実行」をダブルクリックします。**

「自動再生」画面が表示されない場合は、［スタート］－「コンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

4 **「リカバリツール セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

インストールが完了すると、デスクトップ上に次のアイコンが表示されます。「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出してください。

▶本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスドライバ類を一括してインストールします。

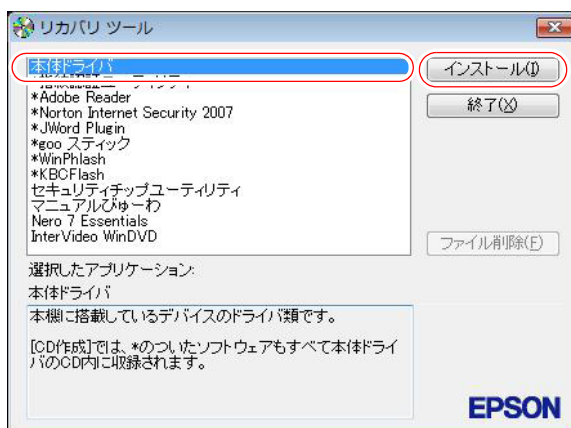
インストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**

手順5の画面が表示されるまでには、数分かかります。

<イメージ>

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

5 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。**

6 **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには十数分かかります。

7 **「インストールが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

8 **「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して［PC再起動］をクリックします。**

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは終了です。

リカバリツールの［ファイル削除］の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で［ファイル削除］が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。［ファイル削除］をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

「Adobe Reader」のインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して［インストール］をクリックします。**

「このファイルを実行しますか？」と表示された場合は、［実行］をクリックします。

5 **「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

6 **「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。

7 **「セットアップ完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

8 **「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。**

9 **「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、［同意する］をクリックします。［同意しない］を選択すると、「Adobe Reader」は使用できません。

10 **「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。**

内容を確認してください。
以上で、「Adobe Reader」のインストールは終了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して［インストール］をクリックします。**

5 **「JWord　プラグイン…セットアップウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶Nero 7 Essentialsのインストール

「Nero 7 Essentials」は、書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時に添付されています。
Nero 7 Essentialsのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。

5 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。

6 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶WinDVDのインストール

「WinDVD」はDVD再生機能のある光ディスクドライブを搭載時のみ添付されています。
WinDVDのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD」を選択して [インストール] をクリックします。

5 「WinDVD　をインストールする前に・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。

6 「WinDVDセットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

マニュアルびゅーわのインストール

「マニュアルびゅーわ」のインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」と表示されたら、「次へ」をクリックします。

6 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。

7 「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
これで「マニュアルびゅーわ」のインストールは終了です。

gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
gooスティックのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは終了です。

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.259 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証ユーティリティをインストールすると、指紋認証機能を使用することができます。必要に応じてインストールを行ってください。
指紋認証ユーティリティをインストールすると、ユーザー切り替え時の画面に、ユーザーアカウントに似た注意アイコンが表示されます。
指紋認証ユーティリティのインストールは次の手順で行います。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**
3. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
4. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「指紋認証ユーティリティ」を選択して [インストール] をクリックします。**
5. **「Protector Suite …インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
6. **「保存先フォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
7. **「アプリケーションのインストール準備をする」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
   インストールが開始されます。インストールにはしばらく時間がかかります。
8. **「Protector Suite …は、正常にインストールされました。」と表示されたら、[完了] をクリックします。**
9. **「Protector Suite …セットアップ」画面が表示されたら、内容をお読みになり、[はい] をクリックします。**
   Windowsが再起動したら、指紋ユーティリティのインストールは完了です。
   指紋の登録を行ってください。
   p.127 「指紋を登録する」

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用する場合は、BIOSの設定を変更し、セキュリティチップユーティリティをインストールする必要があります。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

ネットワークの設定

ネットワーク機能（有線LAN）や無線LAN機能搭載モデルの無線LAN機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.132 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.135 「無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）」

モデムの設定

モデムを使用してダイヤルアップ接続をする場合は、設定を行います。

p.156 「ダイヤル情報の設定」

インターネットの設定

FAXモデムを使ってインターネットに接続する場合の設定を行います。

p.144 「インターネットに接続するには」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

- **Internet Explorer、Windowsメールの設定の復元**

  p.249 「データのバックアップ」

- **重要なデータ**

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

5

そのほかのソフトウェアのインストール

そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法についてはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

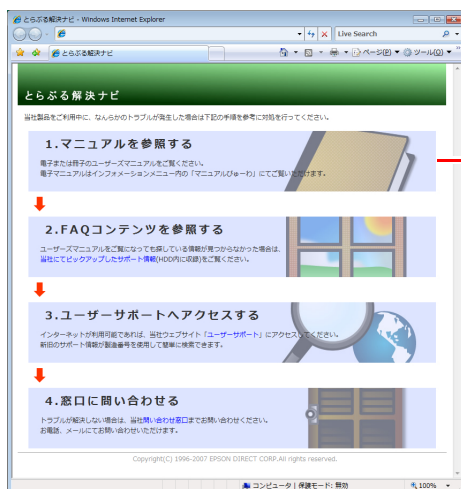
本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

● 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

p.215「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

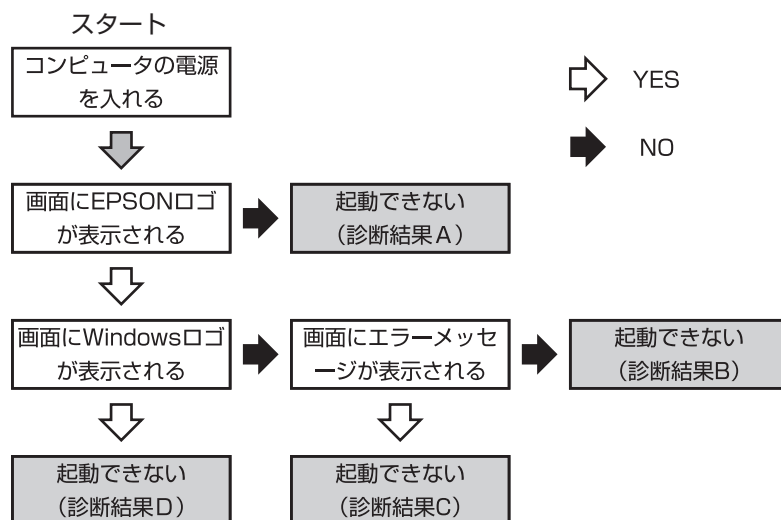
困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。
対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合一覧

LAN（インターネット接続）の不具合
LAN（インターネット接続）の不具合については 「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。
p.214 「とらぶる解決ナビ」

6

コンピュータが起動できない場合

シャットダウン状態からコンピュータが起動できない場合は、次の診断表をご覧ください。各問いにお答えいただき、たどりついた結果の指示に従ってください。

診断結果

診断結果A

次の対処を順に行ってみてください。

(1) → (2) → (6) → (13) → (14)

p.217 「対処方法」

診断結果B

次の対処を順に行ってみてください。

(6) → (7) → (9) → (10) → (11) → (12) → (14)

p.217 「対処方法」

診断結果C

表示されるメッセージによって対処方法が異なります。次の対処を順に行ってみてください。

C-1

「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(14)

p.217 「対処方法」

C-2
「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合
(3) → (4) → (5) → (11) → (12) → (14)
p.217 「対処方法」

C-3
上記以外のメッセージが表示された場合
(3) → (6) → (11) → (12) → (14)
p.217 「対処方法」

診断結果D

次の対処を順に行ってみてください。
(6) → (7) → (8) → (9) → (10) → (12) → (14)
p.217 「対処方法」

対処方法

(1) 出力先を切り替える…A

外部ディスプレイへの出力が有効になっていると、LCD画面に何も表示されません。Fn+F8を押し出力先を切り替えることで、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する…A

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータの電源を切ってからコンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
電源プラグはコンセントに接続してください。
バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続して使用してください。
p.39 「ACアダプタを接続する」

(3) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す…C-2・C-3

外付けのFDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが装着されていると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して問題が解決されるかどうか確認してください。また、起動に使用するドライブの優先順位の設定でHDD を最優先に設定しておくことで、外付けのFDD やUSB 機器を接続した状態でもコンピュータを起動できるようになります。
p.191 「Bootメニュー画面」

6

(4) しばらく放置する…C-2

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。結露した水分が自然に蒸発するまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れなおしてみてください。

(5) 認識と接続を確認する…C-2

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。
   p.179 「BIOS Setupユーティリティの起動」
2. 「Advancedメニュー画面」で「Primary IDE Master」の設定を確認します。
   正常に認識されている場合は、HDDの型番が表示され、正常に認識できていない場合は、「Not Detected」、「None」などと表示されます。
   BIOSで正常に認識できていない場合は、(11)(12)の作業を行ってみてください。

(6) 周辺機器および増設した装置を取り外す…A・B・C-3・D

プリンタやスキャナなどの周辺機器など、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) セーフモードで起動する…B・D

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.240 「セーフモードでの起動」

(8) 常駐ソフトを停止する…D

常駐ソフトとは、システム稼働中、常にメモリ上に存在しているソフトです。これらのソフトが稼働していることにより現象が発生している可能性があるため、セーフモードで起動できた場合は、ソフトを一時的に停止させ、正常に動作するか確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] －「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、[↵]を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
   ※常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

(9) システムの復元を行う…B・D

セーフモードで起動できた場合は「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.240 「システムの復元」

(10) 前回正常起動時の構成で起動する…B・D

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

前回正常起動時の構成で起動する手順は次のとおりです。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. EPSONと表示され、消えた直後に[F8]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。

   キーを押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、[↑]もしくは[↓]を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、[↵]を押します。

(11) BIOSの設定を初期値に戻す…B・C-2・C-3

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻して問題が解決されるか確認してください。

p.183 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(12) Windowsを再インストールする…B・C-2・C-3・C-4・D

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って問題が解決されるかどうか確認してください。

p.195 「ソフトウェアの再インストール」

(13) 電源保護回路を解除する…A

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（マウスを含む）を外して電源コードを抜いた後、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

(14) カスタマーサービスセンターに問い合わせる…A・B・C・D

対処を行っても不具合が改善されない場合は、故障の可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターへお問い合わせください。

▶コンピュータ本体の不具合

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter Password:
```

```
Hard Drive Locked, enter password:
```

確認と対処

● 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。

p.189 「Securityメニュー画面」

● パスワードを正しく入力しているか確認してください。Num Lkの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

p.74 「キーボードを使う」

● パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

Windowsが起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。

確認と対処

● Windowsに不具合が起きると、HDD内に設定されている「Windows回復環境（Windows RE）」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面はWindows REの画面です。Windows REの機能を使用して、不具合を修復してください。Windows REの概要は、p.242 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

● 応答のないプログラムをタスクマネージャで終了させます。
応答のないプログラムを終了させる手順は、次のとおりです。

p.57 「ハングアップしたときは」

● 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

● 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

BitLockerでドライブを暗号化した状態でBIOSのアップデートやBootの順番の変更を行ったところ、BitLockerのパスワード入力やパスワードを保存してあるUSBフラッシュの挿入を求められた。
（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です。）

確認と対処

● パスワードを入力するか、パスワードを保存してあるUSBフラッシュを挿入してください。BIOSのアップデートやBootの順番の変更を行うときは、BitLockerのドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。

現象

終了処理をしても電源が切れない。

確認と対処

● Windows Vistaでは、［スタート］－［⏻］を押すと、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、［スタート］－［▶］－「シャットダウン」で電源を切ってください。

● 正しい処理を行っても電源が切れない場合は、電源スイッチを5秒以上押し続けてみてください。

6

▶省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

- バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態になった場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。

- 省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 省電力状態で PC カードや周辺機器などを接続したり取り外したりすると、正しく復帰できません。
  Ctrl+Alt+Delete を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 周辺機器の状態が変わると、省電力状態から復帰できないことがあります。周辺機器を省電力状態に入る前と同じ状態にしてみてください。

▶バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電しなおしてください。
  p.66 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してください。

- 電源コンセントに問題がない場合は、AC アダプタまたは本機に問題があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用時間が短い。

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電しなおしてください。
  p.66 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

- バッテリのリフレッシュを行っても改善されない場合は、バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.69 「使用済みバッテリの取り扱い」

▶キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。

- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

- プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。
  p.220 「コンピュータ本体の不具合」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
  p.75 「文字を入力するには」

現象

Fn と Ctrl が機能しない。
Alt と （アプリケーションキー）が機能しない。

確認と対処

- Fn と Ctrl または Alt と （アプリケーションキー）の機能が入れ替わっている可能性があります。
  ＜Fn と Ctrl が機能しない場合＞
  BIOSの設定で、「Advancedメニュー画面」の「Exchange Fn & Ctrl key」が「Enabled」になっていないか確認してください。
  ＜Alt と （アプリケーションキー）が機能しない場合＞
  BIOSの設定で、「Advancedメニュー画面」の「Exchange R-Alt & Win APP key」が「Enabled」になっていないか確認してください。
  p.78 「入力キーの機能の入れ替え」
  p.188 「Advancedメニュー画面」

▶タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

- 手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。

- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。

- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

- タッチパッドが無効になっていないか確認してください。
  p.72 「タッチパッド機能を無効にする」

画面表示の不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

- 画面の明るさを調節してください。Fn+F5/Fn+F6で調節できます。
  p.109 「LCDユニットの調整」

- バックライトが消灯していないか確認してください。Fn+F7を押してみてください。
  p.110 「バックライトの消灯」

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.165 「省電力状態からの復帰方法」

- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スリープ状態に移行します（購入時の設定）。ACアダプタを接続してください。

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

- 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。警告音（ビープ音）が鳴った場合は、警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
  p.245 「警告メッセージ/警告音」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
p.180 「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動しなおし、解像度を正しく選択してください。
セーフモードで起動する方法は、次をご覧ください。
p.240 「セーフモードでの起動」

現象

LCD画面の画像をTVに表示したら、画面が入りきらない。

確認と対処

- LCD画面の画像がTV画面に入りきらない場合は、次の設定を行ってください。
p.117 「画面が入りきらないときは」

HDDの不具合

現象

それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
p.188 「Advancedメニュー画面」

現象

Windowsの再インストールをしたら、HDDの空き容量が大幅に減ってしまった。

確認と対処

- p.201 「Windows Vistaのインストール」手順9で、Cドライブのフォーマットを行わずにWindowsのインストールをしてしまうと、以前のWindowsのデータがWindows.oldフォルダに保存されるため、HDDの空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.oldフォルダが不要な場合は、削除してください。Windows.oldフォルダは次の場所にあります。

  [スタート] －「コンピュータ」－「Cドライブ」

  通常は、手順どおりにCドライブをフォーマットしてからWindowsのインストールをしてください。

▶光ディスクドライブの不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「音量0」に設定されていないか確認します。
  p.118 「音量の調節」

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないと、メディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。

- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面に傷などがないか確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

書き込み機能のある光ディスクドライブで、メディアに書き込みができない。またはエラーが発生する。

確認と対処

- 書き込み機能のある光ディスクドライブには、購入時にライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。光ディスクメディアの書き込みに関する不具合については、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Nero ユーザーガイド』を参照してください。
  p.48 「インフォメーションメニューを使う」
- メディアへの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
  p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- 「InCD」で使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
  p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。
  p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- Windowsが省電力状態になると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.163 「省電力状態に移行する方法」

● お使いの光ディスクドライブに対応しているメディアかどうか確認してください。対応メディアは「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルを参照してください。
p.48 「インフォメーションメニューを使う」

● メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。

● メディアの表面に汚れや傷などがないか、確認してください。

● メディアに書き込み可能な残量があるか確認してください。

● ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。

● 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVD VIDEOの再生ができない。

確認と対処

● DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。購入時には「WinDVD」がインストールされています。

● DVD VIDEOの再生に関する不具合は、WinDVDのヘルプを参照してください。

● 外付けディスプレイを接続して、クローンモードでの表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。
p.114 「画面を切り替えるには」

▶無線LAN機能の不具合（無線LAN搭載時のみ）

現象

無線LAN機能が使用できない。

確認と対処

- 無線LAN機能がONになっているか確認してください。
  p.139 「無線LANのON/OFF」

- 無線 LAN の電波がほかの無線装置や家電製品などと干渉している可能性があります。電波に関する注意事項を確認してください。
  p.102 「電波に関する注意事項」

現象

無線LANユーティリティの「SSID」や「暗号化」に関する設定で、何を入力すればよいかわからない。

確認と対処

- AP側で設定した「SSID」や「暗号化」に関する情報を入力してください。
  設定内容をAPに添付の取扱説明書を参照して、確認してください。

▶セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対処

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
  「Security」メニュー画面－「TPM Security Clear」で［↵］を押します。表示されたセキュリティチップ設定の初期化ウィンドウで「OK」を選択します。
  「OK」を選択後、「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。
  p.189 「Securityメニュー画面」

- 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化していたHDD内のデータも使用できなくなります（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です）。
  セキュリティチップの初期化を行う場合は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）を参照し、お客様の責任において十分に注意して行ってください。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止（ハングアップ）する場合があります。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションのUSB FDDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- 「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
  p.209「マニュアルびゅーわのインストール」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社で作成した電子マニュアルをダウンロードすることができます。ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。
  p.252「電子マニュアルのダウンロード」

現象

Internet Explorerの使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

- 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

WindowsメールでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
  HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
  添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
  Windowsメールの［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

● コンピュータを外部の不正な侵入から保護するため、セキュリティセンターでファイアウォールが有効に設定されていると、市販のネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
詳細についてはアプリケーションの販売元にお問い合わせください。

現象

アプリケーションやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

● アプリケーションやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。

● 安全なアプリケーションを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、アプリケーションの製造元へお問い合わせください。

● 問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

▶メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

● Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Mainメニュー画面」－「System Memory」でメモリ容量を確認してください。
p.180 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.187 「Mainメニュー画面」

● 購入時から不具合がある場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象

PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処

- 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
  p.92 「PCカードを使う」

- PC カードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.92 「PCカードを使う」

- PC カードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

- メモリカードがメモリカードスロットの仕様に対応しているか確認してください。
  p.97 「メモリカード使用時の注意」

内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音がしない。

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.118 「音量の調節」

- 内蔵スピーカの不良が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows VistaリカバリDVDを入れて再起動をし、どれかのキーを押してもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブのブートの順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Bootメニュー画面」でブートの優先順位を変更してください。
  p.180 「BIOS Setupユーティリティの操作」
  p.191 「Bootメニュー画面」

6

▶FAXモデムの不具合

現象

「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処

- 「モデムのプロパティ」で［詳細情報］または［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象

インターネットへ接続できない。

確認と対処

- モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認してください。

- 次の場所で電話番号や、設定を再確認してください。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認してください。

［スタート］－「接続先」－「接続名」を右クリック－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

- 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - 全角の文字を使用していないか（全角文字は使用できません）。
  - 大文字と小文字を区別しているか。
  - 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
  - 接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。
  - 接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

- DNS（ネーム）サーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認してください。正しくない場合は修正してください。

次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認してください。

(1)［スタート］－「接続先」－「接続名」を右クリック－［プロパティ］をクリックします。
(2)「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP）」－［プロパティ］でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認してください。

● 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

● 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

● 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
- 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- プロバイダのサーバが停止している。

現象

V.92通信方式で通信できない。

確認と対処

● 回線状況によって、V.92通信方式で接続できない場合があります。V.92通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている最寄りの電話局の交換機から、プロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.92通信方式で接続することができます。

● PBX回線では、V.92通信方式では接続できません。V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。

現象

V.92、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

● V.92、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

▶指紋認証機能の不具合

現象

Windowsを再インストール後、コンピュータの起動時に指紋認証を要求される。

確認と対処

- Windowsを再インストールする前に使用していた指紋の情報が残っていると、コンピュータの起動時に、残った情報での指紋認証が必要になります。次の方法で残った指紋情報を削除してください。

(1) 指紋認証を要求されたら、Back space を押します。
(2) Windowsが起動したら、指紋認証ユーティリティをインストールします。
p.210 「指紋認証ユーティリティのインストール」
(3) 新しい指紋を登録します。
p.127 「指紋の登録」
(4) [スタート] －「すべてのプログラム」－「Protector Suite QL」－「コントロールセンター」をクリックします。
(5)「Protector Suiteソフトウェア」(指紋コントロールセンター)画面が表示されたら、「設定」－「指紋デバイス内データ管理」をクリックします。
(6)「指紋デバイス内データ管理」画面が表示されたら、削除したいユーザーを選択して [削除] をクリックします。
(7) [OK] をクリックします。
(8)「確認してください」画面が表示されたら [はい] をクリックします。
「指紋デバイス内データ管理」で削除できない場合は、p.129「指紋の追加登録・変更・削除」の<登録した指紋を削除したい場合>の操作を行ってみてください。

システム診断ツールを使う

ここでは「システム診断ツール」について説明します。
システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。本機に添付の「リカバリツールCD」に収録されています。

▶システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

1　リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。

2　[スタート] － [▶] － [再起動] をクリックして、本機を再起動します。

Windowsが起動できないときは、Ctrl+Alt+Deleteを押して、コンピュータを再起動します。

3　黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4　診断が終了したら、診断結果を確認します。

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5　光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。

これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。

2 EPSONと表示され、消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。

F8 を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「セーフモード」を選択し、 ↵ を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータを他のメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3 「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」が選択された状態で、［次へ］をクリックします。

復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して［次へ］をクリックし、ポイントを選択して［次へ］をクリックします。

4 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。

5 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい] をクリックします。

コンピュータが再起動します。

6 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 [スタート] －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。

4 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて、[作成] をクリックします。

5 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、[作成] をクリックします。

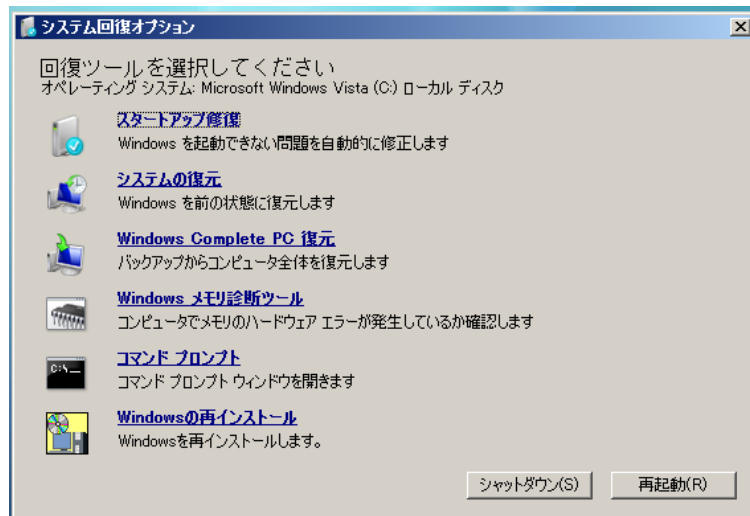
6 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

以上で復元ポイントの作成は完了です。

▶Windows回復環境（Windows RE）を使う

本機のHDD内の「消去禁止領域」には、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。

●スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。

●システムの復元

コンピュータの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。

●Windows Complete PC復元

バックアップしてあったデータを使用してコンピュータ全体を復元します。Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basicには、Windows Complete PC復元のためのバックアップ機能はありません。

●Windowsメモリ診断ツール

メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

●コマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。
「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows REの項目を表示させ、対処を行います。

1 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。**

2 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

3 **Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

HDD内のWindows REを手動で起動する

HDD内のWindows REは、手動で起動することもできます。
手動で起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **「EPSON」と表示され、消えた直後に [F8] を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

[F8] を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、[↵] を押します。**

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。**

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

6 **Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

DVDのWindows REを使用する

Windows REは本機に添付の「Windows VistaリカバリDVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。
DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。**
「自動再生」画面が表示されたら［×］をクリックし、画面を閉じてください。

2 **［スタート］－［▶］－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、［次へ］をクリックします。**

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で［次へ］をクリックします。**

6 **Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、警告音（ビープ音）が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明および対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS　Setupユーティリティ」−「Bootメニュー画面」−「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、「Exit」メニュー画面−「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面−「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音（ビープ音）

警告音の回数	警告の内容	説明および対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/ write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

自分で作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

●「PCお役立ち情報」の見方

バックアップ方法は、次の場所から見ることができます。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく、安全に使おう！」項目の「Windowsシステム」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

バックアップCDの作成

ここでは、リカバリツールを使用して、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データをCDメディアにバックアップ（コピー）する方法について説明します。
作成したバックアップCDを使用すると、CDから本体ドライバやソフトウェアをインストールできます。
バックアップCDは、書き込み機能のある光ディスクドライブでのみ作成できます。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

1　デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2　「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3　「リカバリツール」画面が表示されたら、［CD作成］をクリックします。

4　本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して［CD作成］をクリックします。

バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順5の画面が表示されるまでに数分時間がかかります。

<イメージ>

項目名の前に「＊」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

5　画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。
ここでは、本体ドライバのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

1 **作成した本体ドライバのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
クリックする記載内容は、「Setup.exeの実行」など、作成したバックアップCDによって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] ‒「コンピュータ」‒「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「許可」をクリックします。**
ソフトウェアによっては、「続行」をクリックします。

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。**
本体ドライバ以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップCDによって異なります。
以降の手順は、p.197「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロードしたい」タブ－「マニュアル」

製造番号を
入力して検索

※ 画面の内容は予告なく変更する場合があります。

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロードしたい」タブからは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。
ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- 壁紙

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。

- セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定が必要です。パスワードを忘れてしまった場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。
- セキュリティ機能を使用する際は、十分に注意し、お客様の責任において暗号化を行ってください。
  セキュリティ機能の使用方法については、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず、本機に添付の『セキュリティ機能設定ガイド』をご覧ください。
セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

- BIOSの設定

  セキュリティ機能を使用するには、BIOSで次の項目の設定を「Enabled」に変更します。
  「Security」メニュー画面 ―「TPM Security」

  「Disabled」設定時　：　セキュリティ機能を使用しません。
  「Enabled」設定時　：　セキュリティ機能を使用します。

  購入時は、「Disabled」に設定されています。
  p.189 「Securityメニュー画面」

- セキュリティチップユーティリティのインストール

  購入時、本機にセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行ってください。
  インストール方法は、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

指紋認証機能をインストールしている場合

指紋認証機能をインストールしている場合、セキュリティチップ（TPM）を使用してデータを暗号化することにより、指紋認証機能のセキュリティを強化することができます。

指紋認証ユーティリティの詳細な使い方はヘルプをご覧ください。

[スタート] － [すべてのプログラム] － [Protector Suite QL] － [ヘルプ]

TPMの初期化
指紋認証ユーティリティをインストールした状態で、セキュリティチップユーティリティをインストールすると、TPMの初期化を促すメッセージが表示されます。その場合は、メッセージに従って初期化を行ってください。初期化を行うと、TPMと指紋認証機能との連携が可能になります。

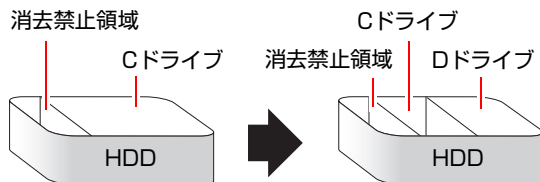
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶ HDD領域を分割して使用する（概要）

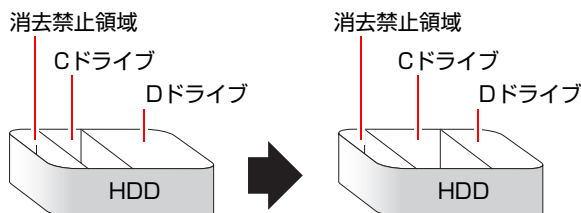
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも呼びます。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

消去禁止領域
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>
例：Cドライブのサイズを大きくします。

この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

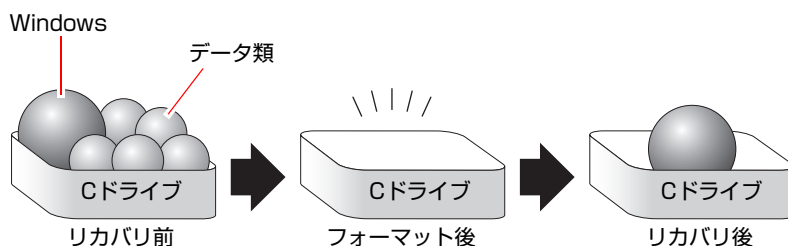
Cドライブを分割・変更する

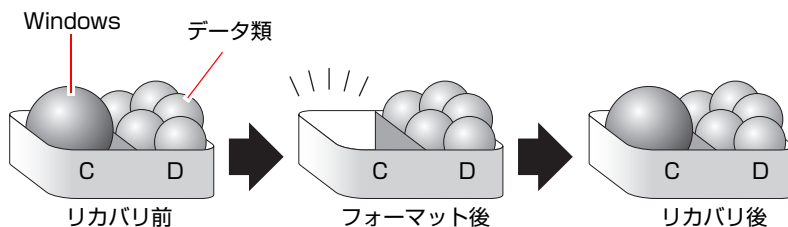
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

● メリット

HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>

リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>

たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

HDD 領域を分割した HDD のリカバリをする場合は、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.259 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。

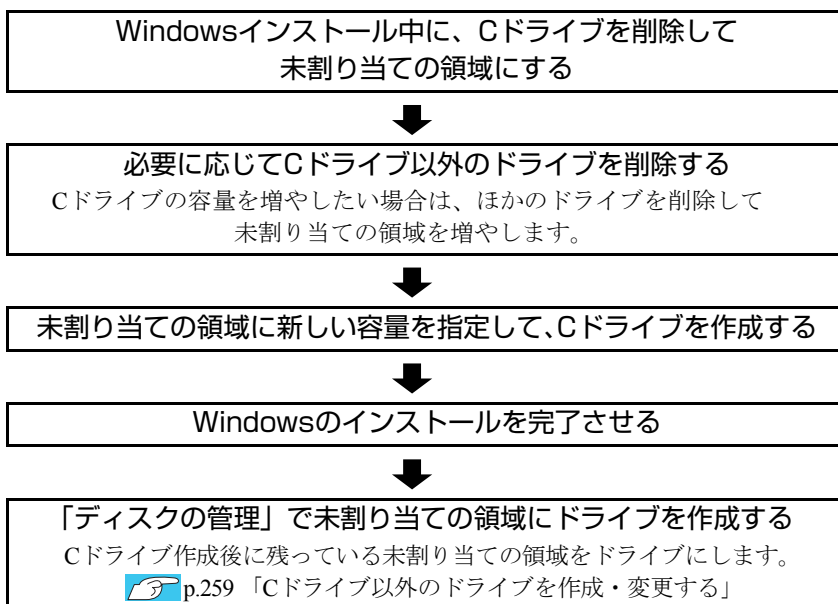
Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除して未割り当ての領域にする

必要に応じてCドライブ以外のドライブを削除する
Cドライブの容量を増やしたい場合は、ほかのドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。

未割り当ての領域に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

Windowsのインストールを完了させる

「ディスクの管理」で未割り当ての領域にドライブを作成する
Cドライブ作成後に残っている未割り当ての領域をドライブにします。
p.259 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。p.201「Windows Vistaのインストール」の手順9を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

1 **「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。**

2 **「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「削除」をクリックします。**

3 **「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

削除したパーティション（Cドライブ）が未割り当て領域となります。

4 **次のとおり作業を続けます。**

<Cドライブを分割したい場合>

(1)「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やしたい場合>

(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。
(2)「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5 **Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。**

Cドライブには、最低でも40GB（40000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。

続いてp.201「Windows Vistaのインストール」手順10に進みます。

手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）を作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された未割り当ての領域をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.256「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

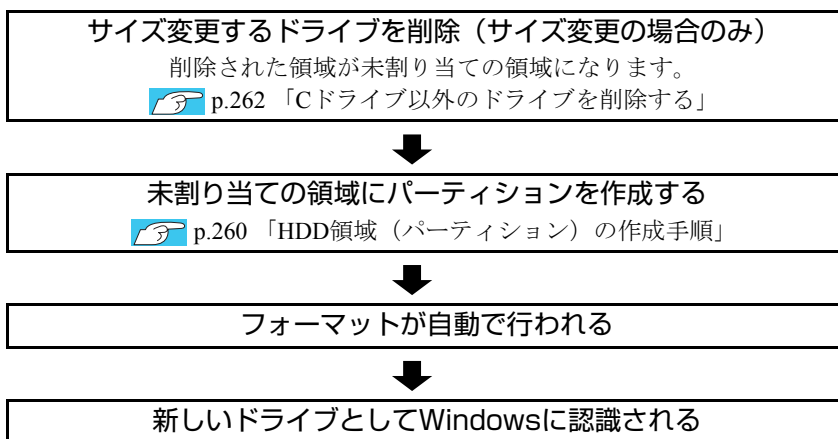
ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。
ドライブの作成の流れは次のとおりです。

サイズ変更するドライブを削除（サイズ変更の場合のみ）
削除された領域が未割り当ての領域になります。
p.262「Cドライブ以外のドライブを削除する」

未割り当ての領域にパーティションを作成する
p.260「HDD領域（パーティション）の作成手順」

フォーマットが自動で行われる

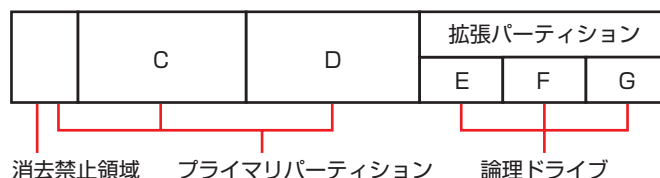
新しいドライブとしてWindowsに認識される

HDD内の未割り当ての領域にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、p.260「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。
ドライブの削除方法は、p.262「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

パーティションとは

Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。消去禁止領域もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

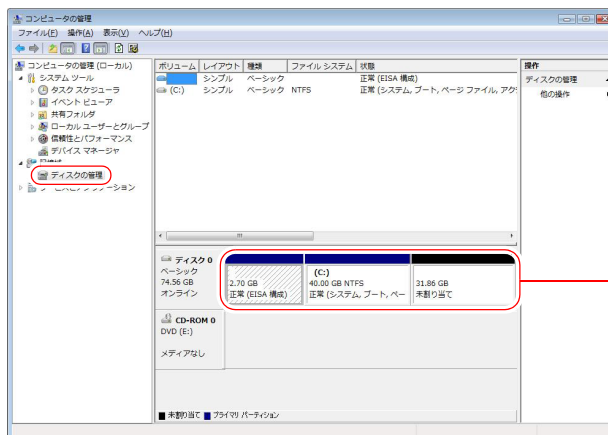
＜パーティションの組み合わせの例＞

HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。

＜イメージ＞

4 パーティションを作成したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。

5 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

6 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。

7 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。

8 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

9 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は終了です。

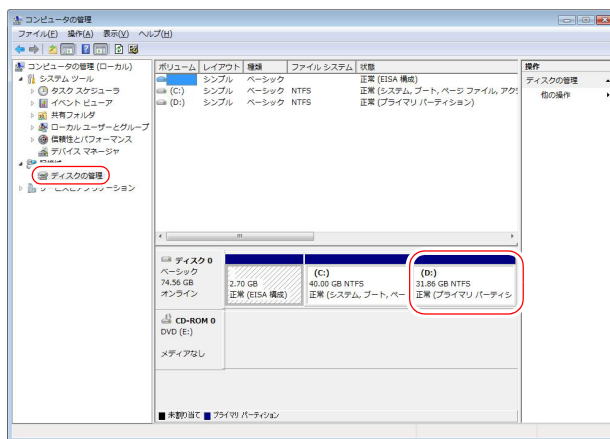
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。

＜イメージ＞

4 **削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。**

5 **「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。**

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.260「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本機のモデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア（Internet ExplorerやWindowsメールなど）でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。
次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」の欄を表示させる方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］をクリックします。**

2 **「全般」タブの［設定の変更］をクリックします。**

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

4 **「詳細設定タブ」をクリックすると、「追加設定」欄が表示されます。**

現　象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」（V34） 「AT+MS=92」（V92） 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定（10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう）。	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』(別冊)の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
リカバリツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。
消去を開始すると、HDDのデータはもとには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示された場合は、[×] をクリックして画面を閉じてください。

2 [スタート] − [▶] − [再起動] をクリックして、本機を再起動します。

3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 (Ctrl)+(C) を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。

5 選択項目画面が表示されたら、(↓) で「HD Erase」を選択して (↵) を押します。

6 選択項目画面が表示されたら、(↓) で「Full　Erase」を選択して (↵) を押します。

7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して (↵) を押します。

「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、(Esc) を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。

9 「Erase of HDD :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピュータの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

項目		仕様
CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ、またはインテルCeleron Mプロセッサ
BIOS		AMI BIOS
チップセット		インテル945PM Express Chipset+ICH7-M
セキュリティチップ	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635
メモリ		PC2-4200 SODIMM （DDR2-533 SDRAM）を使用して最大1536MBまで搭載可能
ビデオコントローラ		NVIDIA GeForce Go7300　ビデオメモリ：128MB VRAM
画面表示	液晶タイプ	14.1型XGA カラー液晶 1024×768ピクセル True Color （32ビット）＊1
		14.1型SXGA＋ カラー液晶 1400×1050ピクセル True Color（32ビット）＊1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek製 ALC660
キーボード		日本語対応87キー（Windowsキー付き）
ポインティングデバイス		タッチパッド （スクロール機能付き）
記憶装置	HDD	2.5型IDE HDD1台内蔵
	光ディスクドライブ	購入時の仕様により異なります。
インタフェース	USB	4（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	TV出力	1（S端子）
	LAN	1（RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T自動認識）＊2
	FAXモデム	1（RJ-11 V.92対応）＊2
	サウンド	マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタまたはS/P DIF×1
	ディスプレイ（VGA）	1（アナログRGB　ミニD-SUB　15 ピン）
PCカードスロット		1　TypeII　PC Card Standard準拠 （CardBus 対応）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%＊3、1.5A（50/60Hz）、出力19V、3.42A、65W 質量320g（含 電源コード）
	標準バッテリ	容量 4800mAh　Li-ion 11.1V　動作時間＊4　約4.1時間（Core 2 Duo搭載時） 約3.0時間（Celeron M搭載時）　JEITA測定方法Ver.1.0
	長時間バッテリ	容量 7800mAh　Li-ion 11.1V　動作時間＊4　約6.5時間（Core 2 Duo搭載時） 約5.5時間（Celeron M搭載時）　JEITA測定方法Ver.1.0
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法（突起部除く）		本体：315（幅）× 260（奥行）× 23.4～38.6（高さ）mm （標準バッテリパック装着時） 315（幅）× 278（奥行）× 23.4～38.6（高さ）mm （長時間バッテリパック装着時）
質量		本体：約2.1kg（標準バッテリパック装着時） 約2.3kg（長時間バッテリパック装着時）
消費電力		76.5W（最大）/2.0W（スリープ状態）/0.9W（電源オフ時）

＊1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
＊2 認証番号ラベルはコンピュータの底面に貼付されています。
＊3 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
＊4 システム構成や使用環境により異なります。

Bluetooth*[1]

準拠規格	Bluetooth標準規格 Ver2.0+EDR
通信距離（規格値）	10m*[2]
転送速度（規格値）	3Mbps

＊1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：BT-183
認証番号　：003NY05095 0201

＊2 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。推奨される通信距離は3m以内です。

無線LAN*[1]（搭載時のみ）

準拠規格	IEEE802.11a　：ARIB STD-T71（小電力データ通信システム規格） （J52/W52/W53）5GHz　無線LAN標準プロトコル IEEE802.11b/g：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
データ転送速度（規格値）＊2	802.11a/g: 54Mbps 802.11b　: 11Mbps
伝送方式	OFDM方式（IEEE802.11a/g） DS-SS方式（IEEE802.11b）
伝送距離（理論値）	111Mbps：40m（IEEE802.11b） 54Mbps　：25m（IEEE802.11g）/12m（IEEE802.11a） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時＊3
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応
使用無線チャンネル	IEEE802.11a：34/38/42/46ch（J52）、36/40/44/48ch（W52）、52/56/60/64ch（W53） IEEE802.11b：1〜13ch IEEE802.11g：1〜13ch

＊1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：WM3945ABG
認証番号　：003NY05120 0208、003WY05061 0209

＊2 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

＊3 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。

索引

数字

A

B

C

D

F

G

H

I

J

L

M

N

P

S

T

U

V

W

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

む

め

も

ゆ

ら

り

ろ

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期に、あるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
※LCDユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000時間です。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://www.epson.jp/ecology/

Macrovision著作権保護技術について（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載モデルのみ）

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよび他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。
この技術の使用にはMacrovision Corporationの認可が必要です。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。
＊Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。
テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。
また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、Active X、BitLocker、Internet Explorerは米国Microsoft Corporation の米国およびそのほかの国における商標または登録商標です。
Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Celeron、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporation の商標です。
PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。
Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet Security、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
Adobe、Adobeロゴ、ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
Bluetooth（R）はBluetooth SIG, Inc. の商標です。
そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。